

う

うい (うひ) (初) 【接頭語】 初め。古語ウヒ。ウイじん
(初陣) ウイまご (初孫) などのウイ

ういご (うひご) (初子) 【名詞】 初産児。最初の子供。
(志 (越賀、布施田)、南) [会話] ウイゴ 初めての
子 一番最初の子を ウイゴ。

ういざん (うひざん) (初産) 【名詞】 初めての子供を産
むこと。はつざん。しょざん。[用例] ウイザンは親
元でしよおった (して居ました)。

ういた (浮) 浸水した。水浸しになった。[用例] 川の
裾 (河口) が塞まって、たあな (田が) ウイタ。

ういたかひよおたん うきうきして落ち着かないさま。
瓢箪の川流れ。(志 (布施田)) [会話] ウイタカヒヨオ
タン 軽そに流れる、なんか知らんけど (けれど)、あ
あなってみたい。ウイタカヒヨオタン言うたら 瓢箪
な (が) ひよかひよかと浮いたよおな、かるこべみた
いなおを (軽頭、馬鹿のようなのを) ウイタカヒヨ
オタン 言うやんかい (言うのです)。かるこべ言うな
(のは)、ちよいと あんごし (少しあほ) のを、言う
んやわい (言うのです)。

ういたはなし 【名詞】 浮気話 [用例] ○○さんは 堅物
で (真面目なので) ウイタハナシは無い。

ういたま (初玉) 【名詞】 鶏が初めて産んだ卵 (松) [会
話] ウイタマ。ういざん (初産) のこと言うよってな
(から)、はじめて産むよって、まあ ウイタマ 言う
んかいな (いうのでしょうか)。そいなこた (そんなこ
とは) がいん聞かへんけどの (あまり聞かないが)、は
じめてのういこ (初子) 言うよおなもんやわいな (も
のです)。人間なら、ういこやよって ウイタマン
(に) しとかなあ、玉子やもんなあ (だから) はじ
めもおけや (産めば) まあ、ウイタマや (だ) 言うわ
いな (言います)。

ういとる 1) 浮かれて居る。とる 接続助詞 てに
助詞おる (いる) のついた ておるの転 浮かれる
楽しくてじっとしていられない気持ちになる うきう
きする 機嫌がよい 2) ひとりてに浮かぶ 水に浮
かぶ (志 (布施田)) 3) その場に一人だけ馴じまない
で居る 4) 浸水して居る [会話] ② 水にウイトル
のも有るし、浮かんどる (でいる) のおを ウイトル
言うて。① そして 人間が嬉しがつとるやんない (が
っているでしょう) ものすご (ものすごく) 嬉んで
はっしやんどんのおを (はしゃいでいるのを) ウイト

ル言うし、一杯 (酒を) 飲んで はっしやんどんのお
を (のを)、あいりな歌、うととて、さわんどんのお
(彼らが歌っていて 騒いでいるのを) あやまあ (あ
れ) 酒飲んで ウイトンネヨオ (ているのだ)、言うて。
ものすごお嬉しがつとる時の事を 言うんなあ (言う
のです) あんで (あれで)。機嫌な (が) ええと (よい
と) 人間でもなあ 今日はウイトンノカシテ (浮かれ
ているのか) あやれ 機嫌な (が) ええわれ (よいで
す) 言うて、機嫌よおしとるとなあ (よくしている
と) ② 水ん (に) 流れとると (ていると) あやれ (あ
れ) ウイトンナイ (浮いている) 言うてな 木の葉で
も紙でも流れとる時 あやれ ウイトンナイ言うての
水にウイトルのと、機嫌よおしとる (よくしている)。

ういとる 浮腫が有る。腫れている。[会話] 顔な
(が) はれとる (腫れている) となあ 顔な (が) ウ
イトル。こやら 手な (が) ウイテキタてやら (と
か) 言うてな、はれて来んのをとなあ (来るのを) 言う
のもあるし (有ります)。

ういとんない 1) 浮かれて居る。前々項 ういとる参
照 2) 浮かんで居る 3) 腫れている

ういまご (うひまご) 【名詞】 初孫 初めての孫 [用例]
初めての孫 ウイマゴ

ういろ (ういらう) 【名詞】 米の粉と黒砂糖を使用した蒸
し羊羹の一種。ういろう (外郎)。ういろうは字の唐音
(鳥) [会話] ウイロ、名古屋のウイロ ウイロよおか
ん。

うう 【名詞】 1) 鶺鴒 ウ科の鳥の総稱。中形で、暗色の
水鳥。体と頸は細長く くちばしも長くて先は鋭く下
に曲る 海にも湖沼にも住み、水中にもぐり魚を捕ら
えるが餌をとる時以外はあまり水に入る事はない (三、
鈴郡、鈴市、一、松、張、伊、北、尾) 2) よく精通
している 物事に詳しい 鶺鴒が魚捕らえて飲み込む事
から [用例] ② あや (彼は) 漁師しとて (して居
て) 海の事なら ウウやれ (だ)。

うういた 【感動詞】 1) 失敗した時の語 やってしまっ
た してしまつた 2) 相手を非難する語 [用例] ②
ウウイタ。又 あいな事しとられ (あんな事をして居
る)。

ううん 【感動詞】 否定 いいえ。ウウ フ 不 接頭
詞 名詞について それを否定し打ち消すのに用いる
(志 (片田、間崎、船越、神明、浜島)、鳥、阿、張)

〔会話〕 違う言うことやなあ（です）。いいん言うてなあ。そげんしたんか、てや（そんなにしたのかと、言え） ウウウン言うのも有るし、いいん言うにげ（人間）も有るし、一緒の意味やけど（だが）言うにげによって 違うだけで。

ううた【**形容詞**】 1) いやだ 情けない、気に入らない 変だ 気の毒だ 心の痛む様 2) 気味が悪い

ううた【**感動詞**】 ああ 〔会話〕 ウウタ まあ 若い時や（は） 栄耀栄華したけど 今は隣れやれ（だ）。

ううなつびほしたよおん しゃがんでいる格好 但し両膝の間は開いている うう 鶺鴒 つび、女陰 干す 〔会話〕 ウウナツビホシタヨオン、しやねこんく（仇名）言うのな（が） じょおっく（いつも）しよずくなつて 股、干しておりおつたんてわい（居たそうです）。そやもんで（それで、ううや（だ）、ううや言うて ウウナツビホシトル（ている）言うて しよずくなつとると（て居ると）。

ううや 精通している うう参照（志（布施田））

うえ【**名詞**】 1) 家（志、伊）〔用例〕 庭先におらんと（居ずに）ウエへ あがらんせ（入りなさい）。2) 座敷

うえいとる（うへいとる）（**上行**） 身の程知らず（志（布施田））〔用例〕 あやあれ（あれあれ）あんな（奴が）ウエイトテ あいな（あんな）上座へ座つて。

うえうえのひと（うへうへのひと）（**上上人**）【**名詞**】 名士 高貴な身分の人 〔会話〕 偉いさんら、ウエウエノヒトな（が）言うて、偉い人を ウエウエノヒトな言う通りん（に）せな（しなければ）言うて。

うええあがらんせ 上に上って下さい 部屋に入りいなさい（志）

うえこみ（**植込**）【**名詞**】 1) 生垣 2) 苗を植えること 〔会話〕 2) ウエコミ言うな（のは）物を植える言う事やんか（です）、1) 生垣やなんやら（とかいろいろ）、2) 苗もウエコム言うやんか（言います）。ウエコム言うな（言うのは）、庭の廻りをウエコムとか 生垣やら（とか）何やら植木を、それから 百姓のなえもん（苗物）も たあ（田）も ウエコム言うやんか 苗でも木苗（苗木）でもウエコムのを。

うえこむ（**植込**）【**他マ五**】 草、木、苗を植える事 うえこみ参照

うえたて（**植立**）【**名詞**】 植えてすぐ たて すぐの意を表す 出来たて（北）〔会話〕 芋でも何んでも、なえもん（苗物）はな、植えるとまあ ウエタテを雨な（が）叩いたたれ（叩いてしまった）とか、ふんだ

たれ（踏んでしまった）とか言うてな、ウエタテやのんまあ（だのに）日和な（が）よおてまあ（よくて）枯れてかれ（枯れて行く）とか、植えて直ぐん（の）のをなあ ウエタテ。

うえに（うへに）（**上荷**）【**名詞**】 1) 上部の積み荷 2) 荷物を積み時上部に重心が有ること うわに参照

うえのがっこ（うへのがっこう）（**上学校**）【**名詞**】 義務教育以上の教育をする学校 〔用例〕 ウエノガッコよおやらんし（やれないから）せめて 高等科でも やりたい思とんね（思っているのです）。

うえのこ（うへのこ）（**上子**）【**名詞**】 1) 長男 長女（南） 2) 当人よりも年令が多い子供 〔会話〕 1) 長女とか、長男とか一番に産まれた子をなあ ウエノコ言うの（のです）。2) もお一つその子よりも年上や（だ）言うての あや（彼は）あの人より上やなあ（だ）言うてな。かぜな（年令が）上の人をなあ。

うえぶとん（**上布団**）【**名詞**】 うわぶとん かけぶとん 〔会話〕 上へ掛ける布団、ウエブトン言うのな 掛け布団も一緒の事や（です）。

うえぼおそ（うえぼうさう）（**植疱瘡**）【**名詞**】 天然痘に対する予防接種 種痘 〔会話〕 昔や（昔は）赤いてぬぎい（手拭）疱瘡な（が）付くと被りおつたの（被つて居たのです）。子供な あつかい（が、赤い）手拭を、きれ（布）切つて あかごに被せおつたの（赤ん坊に被せて居たのです）ウエボオソな（が）きちんと付くと 付いた印に あつかい、きれを 一尺位切つといて（切つておいて）それを 姉さんかぶりにさしよたの（させたのです）ちっちゃい（小さい）子に。

うえむきとんがらし【**名詞**】 冬珊瑚（志、鳥（菅島）） 〔会話〕 ウエムキトンガラシ 空向いとんの（上を向いているのです）空向いとるもんで（ているので）そらむきとんがらし言うんやろ（言うのでしょう）。普通ななあ（普通のもの）は 横に捧げて。空向いて実な、なつとるわ（実がなっている）あっこお（赤く）なつて。

うえもん（**植物**）【**名詞**】 畑に植える野菜類 〔会話〕 雨な降らんと（が降らずに）うるおいなよけ（水分が充分）無い時に ウエモンする。そんな（それが）乾いてくと（いくと）ほがらんしたた（枯らしてしまった）。はつと（鳩）追いん（に）行け言うて、寝とんのおを（寝ているのを）たたき起されて 三月の末から四月頃、ウエモンする時期（季節）になると。小豆植えといて来た（て置いてきた）はよ（早く）追いん行かな（にいかなければ）皆 ほじえられたられ（掘られて

しまう) 言うて。

うえもん (上物) 【名詞】回遊魚 海の表面近くを泳ぐ事
から うわぎかな参照

うえよ 植えよう (三重県中南部)

うえよ 植えなさい 命令形 (三重県全域)

うえをはしる 魚が海の表面近くを速く泳いで行く

うえん 植えない

うえんかい。うえんかな (女性語)。うえんかれ 植えな
さい [用例] 五月のうるおいの有るうちん (湿気の有
る間に) はよ (早く) 芋苗もウエンカレ。

うお (うを) (魚) 【名詞】魚類の総称名 (志、度、南)

うおいちば (うをいちば) (魚市場) 【名詞】魚介類を取
引きする市場 いちば参照

うか 【名詞】魚 おはぐるべら スズキ目ベラ科ニシキ
ベラ属。体長はやや長く側扁する。頬に鱗が有る。

うがいぐすり (うがひぐすり) (嗽薬) 【名詞】うがいに
用いる水薬、ほう酸水 食塩水 過酸化水素水などが
用いられる [用例] 風邪なはやとんね (流行して
いる) ウガイグスリで、うがいせな (しなければ)。

うかうか 【副詞】1) しっかりした考えがなく いいか
げんなさま またその人 2) 気持ちを引き締めない
こと。(志 (布施田)) [会話] 1) 2) ウカウカしとて
(している) 言うて、ウカウカしとる (している)、ひ
よかひやかしとる、一緒に意味やけど (です) ウカウ
カしとて、なんかもかも忘れたる (すべて忘れてしま
う) あほみたいな (馬鹿のような) 事やわい (です)。
ちよいと、あや (すこし彼は) あほやよってん (だか
ら) 言うよって (言うから)、ウカウカしとて、なんも
おぼえとらせんね (ていないのだ) 言うやんかい (言
います・言うで有りませんか)。ウカウカしとて、なん
もかも (していて何も彼も) 皆 放つとて来て (放つ
てきて)、注意しとらへん (していない) 言うことやな
あ (です)。ひよかすかや (だ) とか ウカウカしとる
とか じっきん (すぐに) 忘れたて (てしまつて) 何
やかやすんの (するのを)。

うかがう (うかがふ) (伺、窺) うかごお 【他ワ五】1)
様子などを ひそかにさぐる、2) ひそかに 時機の
くるのを待つ すきをねらう 3) 訪ねる 4) 尋ね
る。

うかごた 1) 窺った 覗いた ひそかに様子を探った
2) 訪ねた 訪問した

うかごて 窺つて ひそかに様子を探つて うかごとる
参照

うかごてもらう 神佛に様子を探ねる (志 (布施田))

うかごとる ひそかに様子を探っている [会話] ウカゴ
テなあ あの家 なんしとんのかいなあ (なにをして
いるのだろか) あれとあれと (彼と彼女と) どげん
(どんなに) しとらせんのかいなあ (してないのか)
言うて ウカゴタリすんの (するのです)。

うかす (浮) 【他サ五】1) 物の表面に浮くようにする。
浮かべる 2) 金銭や時間に余りが出るようにする
[用例] 2) つばめて (儉約して) ぜん (銭) も ウカ
ス。

うかつく (浮) 【自カ五】1) 心が落ち着かなくなる う
きうきする 油断している 2) うっかりしている
うかうか参照

うかびあがる 【自ラ五】その場で一人だけなじまないで
居る ういとる

うかる (受) 【自ラ五】合格する [用例] 大学 ウカル

うきめ (憂目) 【名詞】つらい事 苦しい経験 悲しい思
い

うきも (浮藻) 【名詞】海面に浮いて流れている藻 [会
話] 五月のはえな (南風が) 吹いてくると、ねえ
(根) から ごそつと抜けて来て そんな (それが)
ウキモん (に) になって 沖行くと 藻しいたよおん
(敷いたように) 海一杯に広がる。潮の流れで ウキ
モで通れやへん (通れない) 言うて、じょおしな (漁
師が) 言うとて (言っていて)。

うきわ (浮輪) 【名詞】1) 腰につけて使用する環状の浮
き具 環状に作った救命具 浮き袋 2) 海女の使用
する道具の一つ 下に網があり獲物を入れる、又本体
につかまって休憩する (志)

うく (浮) 【自カ五】1) むくむ 浮腫を生ず (員、張、
南、熊) 2) 心が晴れ晴れする 心がうわつく 3)
物が底を離れ表面 または中間にある 内部にあつた
ものが表面に表れる 4) しっかり固定せず ぐらぐ
らする (歯がうく) 5) 基盤を失つて 遊離した状態
になる 6) 予定より少ない時間 費用ですみ 余り
が出る 7) 根拠がなく、事実から離れる 8) 水浸
しになる 9) 魚が死ぬ (上、阿、張、) 10) 仲間外れ
になる [会話] 2) ウイトル (ている) 言うのは もの
すごお (ものすごく)、嬉しがる言うことも言うし、物
が水に浮いとるだけやなしん (だけではなく、) 1) 足
な (が) ウイトル、腫れて来ると 足なウイテキて言
うて。 6) しゅうせん (集銭一時間で金を集めて、物
を買う事) して ぜんな (銭が) 余つてくんのを (く
るのを) ウイテキタ言う事も言うし。 8) ゆり (潮止
め)、しめな (なければ) 時化な (が) してくるよって

(から) ゆりしめたと (てやると) 大雨な (が) 降ると 上から くんのな (くるのが) 出やせんもんで (出ていけないので) ウクんやんかい (のです)。

うぐいすばな (うぐひすばな) (鶯桃) **【名詞】** 黄緑色した桃かび [会話] 栗がら (栗穀) しとくと (しておくと) ウグイスバナで ええ (よい) はなな (桃が) つくし、藁やなんやかや敷くと くろろい (黒い) よおな くろばなな (黒桃が) ついて 味噌な (が) くろお (黒く) なって、ウグイスバナな (が) つくと赤味噌ん (に) なって。

うくってくれや 1) 送って下さい 2) 送ってくれば [会話] ₂₎ あの人な (が) 此処い (へ) まで くんのん (来るのに)、足な (が) えらいのん (疲れるのに) かわいそげん (可哀想に)、車で ウクツクレヤ やええのん (よいのに) 言うて。

うくってくれる 送ってくれる

うくってくわい 送って行きます [会話] お客さんな (が) 来ると 浦まで ウクツクレワイ 言うて。

うくて (奥手) **【名詞】** おくて 発育の遅いもの 転じて人の成長や成熟の遅いこと [会話] おくて言うな (のは) おぶこい (幼ない) 事をな (です)、おぶな (幼ない) 事を あやま (彼は) おくてで言うて おくて言う人も有るし ウクテ 言う人もあるし。

うくり (送) **【名詞】** 1) 送り 他所に発送すること 特に今日獲れた鮮魚を大消費地に送ること 2) 葬式 (員) [会話] ₂₎ ウクリん (に) 行く言うてな、昔葬式 行くのをな ウクリ。今日は誰それな死んで、ウクリん (に) 行かなはざん (なければいけない) 言うて。送り言わんと (言わずに) ウクリ 言うてな。お客さんな (が) 来た時でもな まあ 浦 (船着場) まで ウクリん (に) 行て来るわい (来ます) 言うてな。送り言うの (のを) よお言わねやろな (言えないでしょう)。葬式とか 見送りとか ₁₎ 荷物 送ったりするの ウクル 言うのな ウクリムカイ 幼稚園 ウクリムカイ して 言うて おくりむかい。

うくりだす 送り出す [会話] じょおし (漁師) の家や (は) じょおし ウクリダシテかなはざん (ていかなければいけない)。すべり あげたりせんならんもんで (しなければいけないので)。

うくりど (送人) **【名詞】** 1) 見送り人 2) 会葬者 [会話] ₁₎ 荷物 家の人らん (に) 見られんうちん (見つかからない内に) せごして (移して) 隠し といて (ておいて) 行く時ん (に) ウクリドみたよおんして (のようにして) 行くの (のを) 抜けてきた言うて。

うくりむかい **【名詞】** 送迎 送り迎え 人を送ったり迎えたりすること [会話] 今しや めったん (今は殆ど) ウクリムカイ 無いけど (が)、幼稚園の ウクリムカイ するけど (します)。

うくりもん **【名詞】** 送り物 [会話] 送り物言うの (のを) ウクリモン 言うて。

うくる **【他ラ五】** 送る (志 (立神)、鳥 (加茂、桃取)、員、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊) [会話] 送るやな (です)。う、と おと一緒みたいな使い方や おくるてやら (とか)、ウクル てやら 言うて そのにげん (人間に) よって。

うくれ 下さい おくれの変化した語 (志、上、阿、張、名) [用例] 大工さんに、三時やよって (だから) 休んで ウクレ。

うぐろ (土龍) **【名詞】** 1) もぐら うぐらもち うぐろもちの下略か (志 (越賀)、鳥、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、亀、安、津、久、一、松、多、伊、北、南) 2) 俯いて歩く人 3) 寝たきりの人 [会話] ₁₎ ウグロ は、畠のぢい (地) 持つウグロ。もぐら言うけどな (言います) 此処らの人はウグロ。ああよし (でかした) ウグロ よおもった (よく持った・持ち上げた)。 ₂₎ そして ひい (日光) よお見やんもんで (見ないので) あや (彼は) ウグロ で ひい よおみやん (見れない) 言うて、ウグロ は土なかん (中に) 居って ひい (日光) よお見やんやんな (見ないでしょう)、そやよって、うつぶいて (だから俯いて) 歩い (ていて) ひい (日光) よお見やんで (見れなくて) ウグロやな (だなあ) 言うやんかい (言います)。 ₃₎ そして 寝てばっか (ばかり) 居る人を ウグロ で ひい よお見やんね (見ないので) 言うて 寝たきり の人ら 言うやんかい ウグロ 言うて。

うぐろもいっしょ 1) 日光に当たらない人 室内労働者 2) 病弱で寝てばかり居る人 うぐろ参照

うけ (浮子、泛子) (うき) **【名詞】** 1) 釣り糸の途中に付けて浮かせ 針の深さを一定に保ったり その働きの魚信を見たりする道具 うき (浮子) の古語。(志 (布施田、志島、国府)、桑市、鳥、尾) 2) 魚網につけて 水面に浮かせ 水中の網のありかを知るためのもの 木片 中空のガラス玉やプラスチック球使用 あば参照 [会話] ₂₎ ウケ は 網を浮ける 桐や (だ) とか、竹や (だ) とか とごってかんもん (沈まない物) で、浮きの事を ウケ 言うね (言うのです)。あばも一つのウケやけど (だけれど)、あばは 角にして ウケ の代りんだ (代わりに)。ほかの おっきいも

んは (大きい物は) 桐ん (に) したり、竹したりとご
ってかんよおに (沈んでいかないように)。

うけ (受) 【名詞】世間の評判 受け取られかた もてな
し 待遇 (志 (布施田)) [会話] ウケな (が) ええ
(よい)、よおもてんのをなあ (よくもてるのを) ウケ
な ええ 言うてな、あのひた (人は) 人間な (が)
いちがいなよって (だから) ウケな ええわれ (よ
い) とかな、心な (が) ええよって ウケな (が) よ
おてなあ (よくて) 言うてな 人気な (が) ある事を
なあ。

うけあいや 確実だ うけやい参照

うけあう (うけあふ) (請合) 【他ワ五】 1) うけおう
責任をもって、引き受ける。2) 心配ないと言う事を、
責任をもって、言い切る。約束する。(三重県) [会話]
₁₎ ウケアウ。仕事まあ、これして呉れるかい (くれま
すか) 言う、それを したるわい (してあげます)
言うて 言うのをなあ、ウケアウ言うてなあ。何ん
でも 物でも 何んでもまあ あや カラウケヤイで
言う、よおせんとおって (出来ないのに) ウケアウ
と カラウケアイしてまあ 言うて。カラウケアイ
自信もなしに 口先だけで カラウケアイでなあ、ま
そして 頼まれても よおせん事やわな (出来ないこ
とです)。

うけおい (うけおひ) (請負) 【名詞】 1) 引き受けるこ
と。依頼主と あらかじめ日限や報酬などを、決めて
仕事を引き受けること。2) 請負普請

うけおいし (うけおひし) (請負師) 【名詞】 仲買人 [会
話] あの人、ウケオイシで言うて、仲買みたいなもん
やわい (のようなものです)。請負して、又 それ下い
(へ) おろすんよって (のだから)。

うけおり (受織) 【名詞】 うきおり、綾などの地紋、また
わ表紋の、よこ糸を浮かして織ること、一見紋様は刺
繍のように見える、又は、その織物。[会話] ウケオ
リ 言うな (のは) ぼこぼこと 浮き上がつとんのな
あ (ているのです)、ウケオリ 言うのなあ (です)。

うけぐち (受口) (受唇) 【名詞】 下唇が上唇より前に出
て居る口

うけこたい。うけこたえ (受答) 【名詞】 1) 相手の言葉
を受け入れ、それに答える事。応答。2) 相手の言葉
を、素直に受け入れないで、抗弁する事。口答え。(志
(布施田)) [会話] ₁₎ 返事すんの (するのを) あん
たな問うの (のを)、わしらな (が) 返事すると そん
な (それが) ウケコタエ、言うてな。人な (が) こお
言うてすると (問うと) はいそおやわな (です) 言う

て すんのを (するのを) ウケコタエ 話に返事する
とか 説明するとか。

うけざら (受皿) 【名詞】 後始末 失敗したときなど、そ
れを償うこと。また、その人 [会話] ウケザラ言うと
油でも なんでも 昔な 灯もすと ウケザラせな
(しなければ) どおな (蟻が) 零れるとか、油な
(が) こぼれるとか言うて。下を受ける事な。コーヒ
ー茶碗でも乗せるなあ あいなのを ウケザラ言うの
な (のです) 植木も ウケザラの上い置いて言うてな、
水な (が) こぼれんよんなあ (零れないように) ウケ
ザラして言うて、下をこぼれん (零れる) のを 受け
んのおな (るのを) ウケザラや。こちらが失敗したの
を受けて呉れる、助けて呉れる ウケザラ言うけどな。

うけしょ (受所) 【名詞】 受け取る場所 市場 そこに居
る仲買人 [会話] ウケショ言うな (のは) 魚とか、鮑
とか、市場へ持てくと (行くと) ウケショな (が)
おって (居て)。あきうどやな (仲買人、商人です)。
あきゅうど (仲買人) の事を、ウケショや (と) 言う
んな (言うのです)。ウケショい (に) 渡した言うて。
物、獲てきて (獲ってきて) 売り付けん (る) のを、
そんな (それが)、取り扱いするやんない (でしょう)
その事を、言うのなあ (のです)。あきゅうどの事やわ
な (です)。あきゅうど言うのは、物を買ひ占めて。

うけしょ (受書) 【名詞】 受領証 請文

うけそこのた (受損) 受けるのに失敗した [会話] 物
を ほんど (放るぞ) 言うて 放ると、受けん (る
のを) を 上手ん (に) 受けると ええんけど (よい
が)、それを よおうけんと (受けられずに) 落した
ると (てやると) ウケソコノタ言うて

うけそこのた (浮損) 浮けるのに失敗した

うけそんじ (受損) 失敗 やりそこない

うけた (浮) 水浸しにした

うけた (受、請) 1) 引き受けた 2) 買い求めた

うけたた 大量の水をあふれさせた しょんべウケタタ
(志 (布施田))

うけつけやせん 1) 食物が咽喉を通らない 2) 食べた
物を吐き出す [用例] いいな (胃が) わりいて (悪く
て) くいもん (食物) ウケツケヤセン。

うけつける (受付) 【他カ下一】 食物を食べられる 吐か
ない 受け入れる [用例] 熱な (が) 下がって 飯も
ウケツケル様になった。

うけづり (浮釣) 【名詞】 浮子を付けて魚を獲る漁法 [会
話] ウケヅリ うけ付けといて、釣るのな あるやん
ない。うけ 付けといて つんのわ (釣るのは) つる

けどなあ (釣るけど) ウケツリ言うな (のは) よけ使
わせんな。

うけとり (請取) 【名詞】 1) 金銭、又は物品の授受が、
行なわれている場合、それを授受する資格の有るもの
が 支払い、又は引渡しを、行なった者に対し 授受
の証拠として、差し入れる文書 2) 引き受けること
3) 理解 [会話] 1) ウケトリ書いて貰うて (貰っ
て) 言うやんかい (言います)。領収書を書いて貰らう
言うことを ウケトリ書いて貰うて、ウケトリかいて
もおとけよお (貰っておきなさい) 言うやんない (言
うでしょう)、2) そすと てぐさや (だ) とか 若布
や (だ) とか 渡すのも、うけとる言う。あきゅうど
な (仲買人が) 買うのをなあ うけとる言うてなあ、
入札して それ あきゅうどな (が) おとすと (落札
すると) 今日はあの人な (が) ふだおとして (落札し
て) あの人な (が) うけとった言うてなあ。入札しとい
て ウケトルは買う言う事や (です) わしらな (が)
持つてくと (ていくと) 秤かけていくら言うて そし
て つけ (書き付け) おこして 言うてまあ 領収書
やわいな (です)。つけおこして そして今度 又 1
日に かんじょ (勘定) するとか 15日かんじょす
るとか言うて そのつけ持つてなあ かんじょ 貰い
ん (に) 行くの (のです)。

うけとりふしん (請取普請) 【名詞】 予め、日数、費用を
算出し、それに応じてする土木作業、建築など。[会
話] これ あんたな (貴方が) して呉れるかい (呉れ
ますか) 言うて、はい わしらげな (私達が) したる
わい (します) 言うて言うのを ウケトリブシン。わ
しげな (私の家が) 受け取るわい 受取ってするわい
(します) 言うて、そすと (すると) よおせんと (出
来ないと) 今度 (今度) は 下の人らん (に) お前げ
(家) もして呉れえ (下さい) 半分とか言うてな 下
受けに渡す 言うのもあるしなあ。わたし (渡) 言う
のは 大工さんに 皆 まかして (まかせて)、昔は、
いり言うて。その日、その日に要ったのを、ぜえんぶ
(全部) はろて (払って) 今は、ひとまとめん (に)
して この家一軒な (が)、幾ら言うて、請け取ってし
とるやんない (しているでしょう)。ウケトリブシンは、
はよしたりさいしゃ (早くしてやりさえすれば) 大工
さんも 得やもんで (なので)、はよ (早く) 仕事も
きまんねけど (終わるが)、いりや (だ) 言うて 日に
ち (日数) さえ、なごおしいさいしゃ (長くさえすれ
ば) 金儲けになるもんで (なるから) いりは、大工さ
んも、日にち なあごおかかりおった (長かかって

居ました)。その代わり、仕事も丁寧に してくれおっ
た (してくれて居ました)。

うけとる (請取、受取) 【他ラ五】 買う [会話] ウケト
ルは買う言う事やわい (です)。組合い (へ) 鮑 もて
くと (持つていくと) 秤かけて (計量して) いくら
言うて、そして 付け (書き付け) おこして。

うけとる (浮) 1) 水浸しにしている 2) 大量の寝小
便をしている

うけなええ 評判がよい 人気がある うけなわり参照
うけなわり 評判が悪い 人気が無い [会話] ウケナエ
エ、人気有って 評判がええ (よい) 言う事や (で
す)。ウケナワリ言うて 評判なわり (が悪い)。あ
の人 人なわり (が悪い) とか、ずくなわり (根性が悪
い) とか、いんちき すんのを (するのを) ウケナワ
リ。人の嫌がる事言うたり したりすると、ものすご
お (大変) ウケナ (が) フリやんかい (悪いです)。

**うけにくい。うけのくい (請難、受難)。うけにくい (浮
難)。うけのくい** 1) うけにくい 受け入れる事が難
しい。承知しにくい。2) 浮かべることが困難 [会話]
1) ウケノクイ言うのは まあ あの人な (が) 持て来
たけど (が) 受けとんのな (受取るのが) 嫌で そい
なのを (そんなのを) 受取ったて (受取っても) な
つともしやないよおな (何ともしかたのないような)
のを ウケノクイ 受取りたない 言う事をなあ 言
うんやろな。

うけにん (請人、受人) 【名詞】 証人、借金など債務者が
その債務を履行しない時それを代償することを保証す
る人 保証人 [会話] ウケニンになる言うて、借金し
て肩代りすんのを (するのを) ウケニンになる言うて、
保証人の事を、ウケニンや (だ) 言うて。ウケニンに
なったら わがと (自分) 皆 それ 出さなはざんね
どお (なければいけないのだ) 言うて、ウケニンにな
ることを どいらい (大変) おとしがよおった (怖が
って居ました)。保証人になることウケニンや (だ) 言
うて、ウケニンになって しんしょ 皆 ほらんした
(財産 皆 失なった) 言うて。

うけはん (請判) 【名詞】 契約者の債務や、身元を保証す
るために、保証人が押す判。又、保証人となって、判
を押すこと。[会話] ウケハン言うてまあ、人に肩代
わりして貰うた 請負人になつとんのを (なっている
のを) 判押すと、ウケハン押して呉れて 言うてなあ。
その判な (が) いっち (一番) おとしんよって (怖い
のだから)。

うけもち (受持) 【名詞】 自分の仕事として、引き受けて

扱うこと。又、その仕事。

うけもつ (受持) 【他タ五】 自分の仕事として、引き受けて扱うこと。担当する。[会話] ウケモツ言うな (のは)、自分でまあ これを私な (が) するわい (します) 言うて、この仕事 わしな ウケモツわい (受け持ちます) 言うて、わがと (自分が) 責任持つ事。ウケモツ言うのなあ (のです)。

うけやい (うけあい、うけあひ) (請合) 【名詞】 その事が当然おこるでろう事を事前に予測すること うけあい …に違いない (北) [用例] 生れたら 死んでくな (で行くのは) ウケヤイや (だ)。

うけよ (受) 1) 受けなさい (三重県全域) 2) 受けよう (尾) 3) 買おう

うけよ (浮) 浮けなさい 浮けよう

うけられん (受) 1) 承知出来ない (志 (鶴方)) 2) 買えない [用例] 2) もののなりよって (物が悪いから) ウケラレンわい (です)。

うけられん (浮) 浮かべる事が出来ない

うける (受ける、請ける、承ける、享ける) 【他カ下一】

1) 落ちてくる物や、向ってくる物などを、支え止める 2) 他からの働きかけが、そこに及んだ状態になる 3) 迎え入れて自分のものにする 4) 働きかけに応ずる。それを承知する。引き受ける。(南) 5) 身にさずかる。是認する。受けつぐ 6) 代金を払って、引き取る。7) 観客や聴衆に気に入られる。8) 興行を引き受ける 興行権を買う [会話] 1) ウケルは、物を受ける場合もあるし、配給をウケル。溢れて来たのをウケルもあるし、4) 頼んだのを ウケル。うけて 貰うた (貰った) 言うて。承知してくれた事を、うけて もらた 言うて。3) おやまさん (遊女) を うけだす、身請けする事を、ウケル言うの (のです)。4) そすと、逆に、こんだ自分とが (今度は自分が) よし、引き受けた言うよおな、承知した言う時も ウケル。かね (金銭) 出して 受けたす (質草、遊女等)。芝居やなんかで 人気が湧いた (でた) のも、ウケル言うし。8) しばや (芝居)、役者頼んで来んのを (来るのを)、しばやウケル言う。そいで (それで)、上手でなあ 皆に、誉められるやんない (でしょう)。それもウケル言うのや (のです)、人気が有る言う事を。7) ○○小父な (が)、芝居ウケテ来たや (来たら)、雨で、“○○殺すな (にや) 刃物は要らん、雨の三日も降ればよい” ○○小父な (が)、芝居請けおったもんなあ (興行権を買ったので、雨の三日降ったや (たら) ○○、首切られんのおで (るので、いちころやわい (一

度で駄目です)。しばやすや (芝居すれば) ぜん (金銭) も入るけど、ひよりなわて (天候悪くて) どてんやよって (露天だから) 雨な (が) 降ると 出来やへんやんかい (出来ません)。

うける (浮) 【他カ下一】 1) 浮べる 陸から舟を海に浮かべる (志 (浜島)) 2) 金銭時間など節約して余分を出す [会話] 1) タンボ ウケルとか、糲でもなあ 実な (が) 入っとらせん (入っていないのを) 水で浮かしていいて (ておいて) 実な (が) 入っとらへんな (入っていないのは) ええ (よい) 苗な (が) 出来やへんもんでなあ (出来ないの)、それ 浮かして ほって、そげんすんのも (捨てて、そんなにするのも) あるし、そげんして (そんなにして) ええのと、わり (良いのと悪い) のと えりわけん (のより分けるのを)。浮かして 言うてな、ウケルは そのウケルもあるし。2) 皆で金出して 何か買おた時に、残ったとこな (所が) ウケル言うてな、余って来ると ウイテキタ 言うてな まあ ちよいと (少し) ウイテキタ。

うごうご 【副詞】 多くの物が集まって居る様。多く集まって動いてる様。うようよ (員) [会話] ウゴウゴ言うと、よっけしとんのおを (沢山しているのを)。すごな (蛆が) ひととこんよってしとんと (一ヶ所に寄って居ると)。蠅のこおな (子が) すごん (蛆に) なってウゴウゴしとるやんない (でしょう)。

うごうごする うようよする 多くのものが集まってうごめいている (員) [会話] おおた しらめな (風が) よけ (沢山) おって ウゴウゴシトル 頭い (に)。人な (が) 沢山寄った時でもなあ 居る所もないよん (ように) しとんと、おおた ま おるとこも (所も) ないわれ (ない) ウゴウゴシトテ 言うてなあ。

うごき 【名詞】 潮流 潮流の早さ 動詞 うごくの連用形の名詞化 うごく参照

うごく 動く 働く いごく (北伊勢地方、中伊勢地方、伊賀地方) [会話] いごく言うのを、ウゴク言うんやわ (言うのです)。いごく ウゴク言うて。風な (が) 悪りいて (悪くて) 磯な (波が) いごいて、波な (が) ウゴクのも言うしな。ウゴキな (が) 鈍いとか。よお (よく) 底な (が)、いごいとる (ている)、底な (が) いごいて、今日は あみかきや (網掛けは) よお掛かるやろ (だろう)。

うこん 【名詞】 1) 織物 2) 黄色 (鳥、一)

うざ 【名詞】 1) 真面目さがなく、いゝかげん 怠け者だらしない。是は物ごとをだじやくにするを言う、物

のうざうざするは極まりのわるきもの。その極まりのあしきも。其の極まりあしきものを其の俣置くによりてウザウザする也。その意をつめてウザと言う。懦弱にてしまりなきものの形容。(宇治秘言) (志 (浜島、甲賀、鵜方、神明、立神、国府、安乗)、多、伊、員、北、尾) 2) 乱雑で、整理しない事 (志 (浜島)、鳥、度、伊) 3) はきはしきしない事 ぐず (津、員、度、伊、北) 4) 柔弱で締まりのない者 (伊、員、度、北) [会話] 1) ウザウザと遊んでばっかおって (ばかり居て) 言うて。あやまあ (彼は)、ウザやなあ、ほん (本当に) しんしょの事も (身上、家の経済) なんも、おもねなし (何も思うので無い) 言うて。ずばらの事言うね (言うのです)。ウザウザと あっちゃ (彼所) 遊び、こっちゃ (此所) 遊び、怠けもん (者) の事や (です)。そげん (そんなに) ウザウザ 言うなまあ (言うな) 言うて。そんげん (そんなに) 言うなまあ言うてなあ。まあ (もう、感動詞)、聞いたよおな事 ぐざぐざと (ぐずぐずと) 言うて言うなあ (言います)。

うざいかく (鳥犀角) 【名詞】 解熱剤 黒色の犀の角

うざうざ 【副詞】 1) ぶつぶつ言うさま 愚痴をこぼす様 2) ぶつぶつと うるさく言うさま (鈴、安、津、多、上、阿、張、名、伊、南、熊) [会話] 1) 言うたよおな事ばか (同じような事ばかり) 言うるとと (言っている) と、ぐざぐざと そいな (そんな) 事、いつ迄も言うて。ウザウザ言うて まあ言うて。

うざつく 【自カ五】 1) うざに同じ ぐずぐずする (津、上、阿、張、名) 2) うずく 鈍痛がある 3) 水分が多い びちゃびちゃしている [会話] 2) できもん (出来物) な ウザツク。ウザツクとか、やめる (痛める、痛む) とか言うて ここの人は やめる言うなあ (言うのです)。おかた (大方、大部分) うずくや (です)。ひぶくれ (出来物) が出来て来て、やめんねよお (痛みます) 言うう (のです)。うずく言うう (のです)。³⁾ 飯もいどらしとかな (蒸らしておかなければ) 美味ねえわれ (美味くないです) 言うて、火な (が) 切れて すぐん (に) 合すと ウザツイトル (しているし) ちょいと、ほとらしとくと (少し蒸さしておく) さんざりと しるけな (汁気が) 無いよ おん (に) なってくので (行くので) いどらさな (蒸らさなければ) 美味ねえわれ 言うて。

うざっこい 【形容詞】 しつつこい 煩わしい うるさい (桑郡、員、鈴市、安、一)

うざな ぞんざいな (多)

うざべ。うざべえ 【名詞】 1) 行為の乱雑な者 2) だらしない人 (鳥)

うさらせん 1) 行かない 2) 来ない [用例] 1) あのがきや (子供は) まだ、ウサラセンやんかあ (でないか)。

うさらせんねやれ 行かないのだ

うさらん 行かない 去らない 忘れない (志 (布施田))

うさる 【自ラ五】 1) なくなる。失われる。うせる (志、鳥) 2) 来る 3) 行く 4) 居る [会話] 1) 此処の賽銭 やしのて (盗んでいって)、外ののおなら。この中の 壺い (に) 入れて、引き出しに入れてあった や (ら) 皆 盗まれたて (てしまって) なんやかや ウサルもんで (ので)。

うし。うしうし 【感動詞】 犬をけしかける言葉 (阿、張)

うじうじ (うちうち) 【副詞】 もじもじ ぐずぐず 活気が無くはっきりしないさま。

うじすじょお (うじすじゅう) (氏素姓) 【名詞】 家柄 家系 うじそだち参照

うじそだち 【名詞】 家柄 家系と生長した環境 [会話] ウジスジョオな (が) 悪りやんかあ (悪い) 言うて、ウジソダチな (が) 言うてなあ、そだちな (が) 悪り 言うのなあ。うじな (が) 悪りよってん (悪いから) 言うてなあ 育ちな (が) わり 言う事なあ (です)。うじなわりよってん 人な (が) わりとかなあ、昔の人な (が) 言う事やけどなあ (です) 今しのにげ (今の人は) そいな事言わせん (そんな事は言いません)。うじな (が) わりよってん あの人間 たちなわりわれ (性格が悪い) 言うて、生れつきな (が) わりよって 言うて 家柄の悪り家い (に) 生まれたりするの を言うんやるな (言うのでしょうか)。親ななあ (が) 悪りとなあ (悪るいと) うじな (が) わりよって 言うてなあ。親な (が) 盗みするとか 病気が悪り家とかなあ そいな (そんな) のを うじな (が) わりよってん 言うてな。

うしとら 丑寅 【名詞】 北東 方位を十二支に当てて呼ぶときの丑と寅との中間

うしなう (うしなふ) (失) 【他ワ五】 持って居た物をなくす 失くなる (志 (片田)、鳥 (坂手、鳥羽)、久)

うしなかつた。うしなかつた なくした。失なった。 [用例] 銭 ウシナカシタ

うしなかつ。うしなかつ 【他サ五】 なくす。失う。(鈴市、津、安) [会話] ウシナラカス言うのは、道具持

つとたら (持っていたら)、ふてたたよお (失なっちゃった) 言うの (のです)。ふてたた言うて。失のたた (失ってしまった)。

うしのこくげん【名詞】 最夜中 午前3時頃

うしのした (牛舌)【名詞】 くろうしのした したびらめ
うしのした科の魚 目のある側は青黒色で 目の無い側は白色 鰭は辺縁のみ白色 全長30cmになる (志 (国府)、鳥 (鳥羽、国崎)、度) [会話] ウシノシタでやまあ (と言うのは) 魚の事やなあ (です)。ウシノシタ言うのは、海藻にもあるし うしのして言うて 茹でて食うと うもおて (美味しくて)。

うしのして【名詞】 海藻 [会話] ウシノシテ言うて 紅葉の形 八手みたいな (のような) てえ、のしたよおな (手伸ばした、開いたような) もんやったなあ (物でした)、潮な干いてくと (干潮になると) 乾き付いてくわな (て行きます)。それを とてきて (採ってきて) 茹でて 味噌で まめんで (混ぜ合わせて) よお喰いおった (よく食べて居た)。うまいねえてや (美味しいです)、また そんな (それが)。前んのお (太平洋側) は こわい (硬い) し、うらのおは (裏、浦、英虞湾のは) うまいね (のです)。今の海女さんで、若い人知っとなかいかい (知っているのだろうか)、ウシノシテ言うて 知っとても (ていても) 喰わせん (食べない)、今しのもんら (今の者は) 喰わせんわい (食べません)。昔はなあ 食べるもん (物が) あんまり (あまり) よけ (沢山) 無かったもん (ので)。そして、昔の人は、こおと (質素、儉約) なかったやんない (だったでしょう)。そやもんで (それで)、何でも食べてみいおったんやろなあ (みて居たのでしょうか)。今しの人ら贅沢やよって (だから) 喰わせんやろ (食べないでしょう)。食や (食べれば) うまいけど こしやえる (こしらえる、作る、料理する) 事知らんし えごつと (充分に) 炊いて蒸しといて (ておいで) 味噌であえて、喰うと うまいんでや。浦んのおは、うまいし、前んのお (ののは) は、こおと (硬くて) バシヤクシャしとる (している)。バシヤクシャ 言うな (のは)、こわい事言うの (のです)。ばらばらしとる (している)。粘りな (が) 無い言う事や (です)。

うしのた 失った、無くした (志 (甲賀)) [用例] 銭ウシノタ

うしのた 失った 無くしてしまった (志 (浜島)) [会話] かけがいのない人を亡くした 言うて、物でも かけがいのないもんを ウシノタタ言うて、大切

な 物 言うことやわな (です)。

うしのたる 失なってしまう 失くす (志 (志島 国府、鶴方、神明、立神)、阿) [会話] 何んやかや ふてたる。なくしたる (してしまう) 事、ウシノタル言うてなあ。ふてたた 鳥でさい (鳥でさえ) ほっちょ (包丁) ふてたた言うて 言うやんかいかい (言います)、4月 今頃ん (に) になると 麦刈るよん (ように) なるとなあ ほっちょふてたた ほっちょふてたた言うてなあ 鳴く鳥な (が) あってなあ

うしのちち【名詞】 牛乳 (上、阿) [会話] ウシノチチ。牛乳のことを、ウシノチチ飲む言うけど、ウシノチチ飲んだんてわれ (飲んだそうだ) 言うて。牛乳言うの知ららったんやろな (なかったのでしょうか)、ウシノチチや (だ) 言うてなあ。牛乳言うな (のは) 言わらったなあ (言いませんでした)。ウシノチチ買おて来て飲ましたんてわれ (飲ましたそうだ) 言うてなあ 言よおった。

うしのはなとり【名詞】 牛を使う人 牛の綱を引く人 [会話] 牛を使う人なあ、ウシノハナトリや (だ) 言うけどなあ (言います)。あや (彼は) ウシノハナトリや (だ) 言うて、牛の鼻い (へ) 鎖な (が) 付いとる やんない (ているでしょう) あわい (あわい) 綱付け といて (ておいて) 引つ張つとんの (ているのを)、ウシノハナトリや (だ) 言うやんかいかい (言います)。

うしびや (牛部屋)【名詞】 牛をつなぎとめておく所 牛小屋 [会話] ウシビヤから 牛引きずり出すくらいやなあ言うてなあ、やや (嫌だ) 言うの (のを) 嫌がる事をなあ さしよ (させよう) 言うとなあ、なんやて ウシビヤから 牛引きずり出すよんして (ようにして) 言うて。牛小屋の事をなあ 牛小屋から 牛出して来んのを 牛部屋 よお言わんと ウシビヤ。牛小屋や (と) 言うの (のを) ウシビヤから言うてな。

うしみつごろ。うしみつどき【名詞】 最夜中 午前3時頃

うしや (牛屋)【名詞】 牛を飼う事を職業とする人、又、その家 [会話] 乳する人 ウシヤや言よおったんなあ。江田 (地名) に 牛乳を しぼる (搾る) 人な (が) あってなあ ウシヤのととな (主人が) 言うてなあ、言よおったなあ。牛こおとてなあ (飼って居て) 牛の乳 しぼって配達しよおったもんで ウシヤんととな 言うて 言よおったなあ (言っていました)。それは 牛こおとる家の とおさんやもんで (主人なので) ウシヤのととや (です)。

うじゃうじゃ【副詞】 1) 数の多い様 虫など小さいも

のが多く集まって動いている様(志(布施田、員) 2) ぐずぐずとしている様 3) 柔か^い様 [会話] ²⁾ ウジャウジャ言うな ごてごてしとる(している)。³⁾ ウジャウジャ言うな (のは)、飯な(が)、やいこい(柔かい) のも、ウジャウジャしとる。そおすと ¹⁾ 数が多い時に ウジャウジャしとる、にげな(人間が) 大勢で ウジャウジャしとる 言う事もあるし、ウジャウジャやる程 寄ってきて言うて。

うしやがった うしやがったれ参照 1) 来た 2) 行った 3) 居た (一、度、北)

うしやがったれ 1) 来た 2) 行った 3) 居た [会話] ¹⁾ また ウシャガッたれ言うて、来るとさいご(その時)、また 来た言うの(のです)。また ウシャガッたれ言うて。

うしやがって 1) 来て 2) 行って 3) 居て [会話] ¹⁾ ウシャガッて あんな(彼が)、言うてな。来やがって(来た) とか、きくさって(来た) とか ウシャガッてとかなあ、汚い言葉で言うて

うしやがる 1) 来る(志(布施田、三、度、尾) 2) 居る(志(布施田、鳥) 3) 行く(三)

うしやがれ(失)【自ラ五】 1) 行け(志(布施田、鶴方)、鳥(鳥羽)、北、尾) 2) 来い 3) 居れ [会話] ウシャガレ言うのは、行け言う事。ウシャガル言う事は来た言う事。ウシャガッて言うて。ウシャガレ言うて、はよ(早く)、行け言う事やわい(です)。まあ、あいな餓餓(あんな子供) はよ行きやええのん(早く行けばよいのに) 言うて。そして、おおた(ああ) あの餓餓な(子供が) ウシャガッてなんも(なんにも) 仕事せざったない(しなかった) 言うて。

うしやがん^な 1) 来る^な うせた参照 2) 居る^な

うしやがんねない 1) 来るのだ 2) 居るのだ うせた参照 3) 行くのだ

うじゃける【自カ下一】 1) 果物が熟れて割れる 2) ただれ崩れる 腫物、湿疹等に 分泌物が多くなる状態(志(浜島、布施田、鶴方、甲賀、神明、立神、国府、安乗)、鳥(鳥羽) 張) 3) 御飯などに湿気の多くなる状態 [会話] ²⁾ ウジャケル言うな (のは) 出来もん(物) が出来て、ただれて来ると、ウジャケル言うやんかい(言います)。¹⁾ くだもんな(果物が) 腐ってきて言うなあ(言います)、ウジャケル言うて。³⁾ 御飯な(が) 腐ってきて ウジャケル言うなあ。ねぐさなって(腐り臭い すえた匂いがして) 来て、ウジャケとられ(て居る) 言うて。

うしやんと【名詞】牛乳屋の主人 牛を飼う家の主人

[会話] 江田(地名)に牛乳を搾る人な(が) 有って、ウシヤントト な(が) 言うて、牛こおとて(飼っていて) 牛の乳、搾って配達しよったもんで(して居たので) ウシヤントトな(が) 言うて。牛こおとる 家の とおさんやもんで(主人なので) ウシヤントトや(です)。

うしろおび【名詞】子供の背中を背負う人の背中に付けておぶ背負い方 背中合せに負う事 [会話] ウシロオビ や(だ) 言うて、こお(子)を 反対にして 負びおったわ(居ました)。背中と背中として、こおばな(子を) あっちゃ(あちら) 向けて。

うしろおび(後帯)【名詞】結び目が背中にある帯の結び方

うしろこんぶ【名詞】後頭部。こんぶ こぶ 瘤 物の表面の腫れ上がった部分(志) [会話] うしろな でとんと(出ていると) うしろでつな(が) 出た言うてなあ。でつやとか(だとか)、コンブ(瘤) やとか言うな(言うのは) 一緒やわい(です)。ウシロコンブ 言うだけやんかい(のみです)。

うしろだき(後抱)【名詞】後から抱く事、又その様 [会話] 後からこお(子) 抱く ウシロダキ 後ろから、抱くの^をなあ。

うしろだて(後揃)【名詞】後ろにあって助けたり守ったりすること、又その人や物事 後援者 [会話] ウシロダテン(に) あの人な(が) なって呉れて言うて、頼りん(に) する言う事^をなあ。あの先生にまあ 何んもかも 先生これ こいな事は どおやかなあとか 先生これ こいな事しておくれ(下さい) とか言うてなあ むつかし事(難かしい事) たのむのなあ(頼むのを) あの人な(が) ウシロダテン なって 呉れて言うて 言うのなあ(のです)。

うしろでつ。うしろでつつ【名詞】後頭部 うしろこんぶに同じ

うしろどなり(後隣)【名詞】後と隣合わせで有ること 背後で接する事 又その家 [会話] 後ろの隣は ウシロドナリ 前は前隣 向前三軒両隣言うやんない(でしょう) 前隣の だれそれな なれ ウシロドナリの だれそれな なれ 言うて。

うしろに(後荷)【名詞】荷の重心が後ろにある [会話] 下り坂を とめどなしに 止められやせんのなあ(ないので) つつうと 行たて、ウシロニや(だ) 言うて。前荷や(だ) 言うて ちょいと(少し) 前を上げごりんすると(心地にすると) 後ろ下げてすると 下り坂も だくなんけど(楽なのだが)、ウシロニ

や(だ)言う と 後ろな下がってくと(て行くと)前を上げたるやんない(上げるでしょう)、こいな(こんな)下り坂な(が) 危のおて(危なくて)降りられや せんの(られないのです)。

うしろはちまき (後鉢巻) 【名詞】 後ろで結ぶ鉢巻

うしろひぼ (後紐) 【名詞】 1) 後で帯を結ぶこと うしろ結び 2) 幼児の着物の背につける紐 [会話] ₂₎ 後ん(後に) ひぼ付ける(紐付ける) ウシロヒボン 付けんの(るのを) 背中の 背筋い(へ) 付けんの(るのを) ウシロヒボ 付けて言うてなあ。後に付けてあるのを前で結ぶ、あのそれ じばんやどけなあ(襦袢など) 昔 付けよおった(付けて居ました)。そして 赤ちゃんのきもん(着物) でも 後いなあ 付けよおった。

うしろべた 【名詞】 後ろ側 後方 後方の所 べたはへた 辺 [会話] ウシロベタな あんの(有ります)。それ お前 なウシロベタの柱に それ言うて 後言う事 ウシロベタ 言うのなあ(のです)。ウシロベタ言うてなあ ウシロベタん(に) あるやんない(でしょう) 言うて、後ん(に) 有るのをなあ ウシロベタや(です)。そして 前の方ばな(を) まえべたや(だ) 言うて、よこつちよ言うて 横ん(横に) あると よこつちよん(に) あるやんない 言うて。そして他所 向いとても(ていても) よこちよ向いて言うて。

うしろまえ (うしろまへ) (後前) 【名詞】 後ろと前 衣服などが後ろと前が反対になって居ること 左右の反対になって居る事 反対 [会話] ウシロマエてや(とは) 前と後、ウシロマエん(に) 合わして言うのはなあ 後を前い(に) して きんのを(着るのを) ウシロマエん着てあやれ言うて、後ろん(に) チャックな(が) 付いとんのなああるやんかいな(ているのがあります)。あいなのおをなあ(あんなのを) 前い(に) すると ウシロマエん着て あやれ言うしなあ。ほして左前 言うのはなあ こつちや合わすの左前言うてな 左前に合わすのは 死んだ人に 着せる時な(です) 左前ん(に) 合わせ言うけどなあ。

うしろむき (後向) 【名詞】 向こうをむいて こちらに背中を見せている状態

うしろむけ (後向) 【名詞】 1) 後ろ向きに同じ 2) 又、後ろを向ける事 ひっくり返す事 [会話] 後むいとる(向いている)、ウシロムケたれ(てやれ) 言うて、後むかしたんのをなあ(向かせるのを) ウシロムケたれ言うてなあ。

うしろむけ 後ろをむきなさい

うしろやく (後厄) 【名詞】 厄年の次の年 男二十六 四十三才 女二十 三十四才 [会話] 前厄 ウシロヤク言うのなあ(です)、四十一になると前厄 四十三になると ウシロヤク。

うず (渦) 【名詞】 1) 唾液分泌の多いこと (うずな湧く) 2) 渦巻き [会話] ₂₎ 磯行くと(海へ行く) ウズ巻いとる(ている) 渦潮みたいんしとるのおを(のようにしているのを) ウズ巻いとる。ぐちゅぐちゅ巻くのを ウズに巻かれた言うの(のです)。しおあびにいくじぶんに(海水浴にいく時に) 言いおったやんかい(言って居たでありますか)。島のねきん(近く) 波な(が) 来ると、ぐちゅぐちゅん(に) 巻かれんど(巻かれるぞ) そや言うて、沖へ連れられて(流されて)。₁₎ 誕な(が) 出て来ると ウズな(が) 溜まった言う。すいいて(酸っぱくて) ういて ウズな(が) 溜まって来た言うて、梅漬け(梅干)の事すると 口へ、こおして 来るやんない(でしょう)。つばき(唾液) 言うより なんやら(何か) 妙なよおになつてくんのを(来るのを)。梅のすいい(酢い)のや(とか) 蜜柑のすいいの 人な(が) 喰うの(のを) 見とても(見ている) おおた、やい ウズな(が) 溜まって来るよお言うやんかい(言います)。

うず 【名詞】 魚 いさぎ イサキ科の海魚。体はやや細長く全長40cmに達す。体は緑を帯びた褐色で幼魚は黄褐色の三條の縦帯がある。成魚では不鮮明になる。(志、鳥(国崎)、津、度)

うすあかり (薄明) 【名詞】 日の出前 日没後のかすかな明るさ うすは少ない状態 うすい [用例] ウスアカリからウスアカリ迄、働いて。

うすあたま 【名詞】 1) 馬鹿 2) 頭髮の少ないこと

うすい 【形容詞】 不足している 1) 馬鹿 知恵が不足している(上、阿、張、名) 2) 味が無い(志、桑市、鈴市、一、上、阿、張、名、南) 3) 親しくない 4) 少ない(三重県) [会話] ₂₎ 塩気な(が) たらんと水臭いなあ言うてウスイ事を。₃₎ 人間でも ウスイ、親戚やけど(だが) おた 水臭いなあ あいそ(愛想)ないとなあ、おた あの家なあ 兄弟やけど 水臭いなあ 言うてなあ、したし言わんとなあ(親しい言わずに)。₄₎ 頭の髪なウスイ。₁₎ 頭の中な(が) あやまあ(彼は) うすあたまやもんでなあ(馬鹿なので) 言うて 言うなあ、あんごしのをなあ ウスイは足らん。

うすうい 【形容詞】 不足している うすいより更にうす

い (志) [会話] ウスウイ おおた このみそしら (味噌汁は)、ウスウいなあ言うとか、きじな (生地が) ウスウイと おおた こや じいな (地が) 悪りな (悪いです) ウスウいな言うて、生地な ウスウてもなあ 血縁も ウスウになってくと (て行くと) 従兄は濃いけど 従々兄やなんや (だとか) 言うて来ると まあ ウスウいねわれ (のだ) 言うてな、まあ うっすういねもんなあ (のだから) 言うてなあ。

うすうす (薄薄) 【副詞】 はっきりしないが、幾分かかって居るさま、[用例] ウスウス知っとる

うずうず 【副詞】 1) なにかしたくてたまらない気持ちが働く様 又、精神的な刺激で、じっとしていられない気持ちが出てくる様 むずむず 2) 痛むさま [会話] 2) ウズウズまあ うずついて (痛めて) 言うて。どこやかややめると、はあ (歯) な、ウズウズやめて (痛めて) とかな、ずくずくやめてとか、言うのをな やめる時ん (痛む時に) はあな ウズウズやめて、よんべや (昨夜は) 寝やれん (寝れなくて) とか言うてな 言う時。傷したやまあ (したら) 膿んでくんの かしてま (来ると見えて) やめてまあ ウズウズと言うて、鈍い痛みがしとる あんまり (あまり) きつくないけどなあ (きつくないが) ずくずくとなあ すんのをな (するのを) ウズウズして言うてなあ、物凄気持ちが悪り (悪るい) 何んとも知れん 気持ちが悪い言う事やなあ。

うすがお 【名詞】 1) 美男子 うすづら参照 2) 肉の薄い寂しそうな顔

うすぎたない (薄汚) 【形容詞】 1) 大変汚れている (張) 2) 少し汚れている [会話] 1) ウスギタナイ べつんも (特に) 汚いのおを (のを) ウスギタナイ。 こぎたない (少し汚い) 言うな (のは) ちょいと (少し) よごれたよおんしとんの (ようにして居るのを)。

うずきち 【名詞】 柑橘類 うじゅきつ (温州橘) の訛ったもの 温州蜜柑 ミカン科の常緑低木。日本で創製した品種。高さ約3m、葉は長さ7~10cmの楕円形で先は尖る。初夏白い五弁の花が咲く。実は直径5~8cmでやや偏球形、外皮は薄く熟すると橙黄色になり、普通9~13ヶの胞を持ち、種子は無く汁が多く食用に適す。(志) [会話] こおるいな (柑橘類が) 有って ウズキチ言うのを植えとて (ていて)、じゅうりんやたら (だとか) 言うて。じゅうりん言うのな (のが) ウズキチやんかい (です)。

うずく (うづく) (疼く) 【自カ五】 1) ずきずき痛む

(志、鳥 (加茂、鳥羽)、員、上、阿、張、名、北、南) 2) 苦しみ、悲しみなどで心が痛いように感じる 3) じっとしていられなくなる (行きとて うずいとる) [会話] 1) やめる (痛める、痛む) 言う事やなあ (です)。どいらいやめんねやなしん (大変痛むんでもなくて) ずくずくとしとんのを (しているのを) ウズク言うて。はあな (歯が) どいらい (大変) おおやめせんと (大痛しなくて) はあな ずくずく やめて言うて、それを ウズク言うねんなあ (言うのです)。そいでも (それでも) 出来もんだ (物が) なんやら (何か) 膿持つときや (持つ時は) なんやら ずくん ずくと ウズイトテ (ていて) すんのを (するのを) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。疝癰な (が) おこった時みたいに (のように) きりきりせんと しんぼすや (辛抱すれば) 出来るけど (けれど) 気持ちな (が) わりの (悪いの) そえん どいらいも (そんなに大変に) きりきりしやせんねけど (しないのですが)。

うすくち (薄口) 【名詞】 1) 料理の味の薄い物 2) 馬鹿 (上、阿)

うずくなる 【自ラ五】 人や動物が丸くなって小さくなる うずくまる (志 (甲賀、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥) [会話] ウズクナル言うのな (のは) むこと (座っていて) しよずくなとんのを (ているのを)。気持ちな (が) 悪りいて (悪く) ウズクナットル (ている) 言うて。

うずくまる しゃがむ

うすぐもり (薄曇) 【名詞】 うつすらと曇る事

うすぐろい (淡黒) 【形容詞】 少し黒い

うすくろなり (薄暗) 【名詞】 日没後の薄明りの時 薄暮 ちろちろ参照 [会話] タ方ん (に) おっそお (遅く) 迄かかると おおた (ああ) ちろちろん (に) なつて来たない (なつてきた) 言うて、ウスクロナリん (に) なつてくると。

うすじお (うすじほ) (薄塩) 【名詞】 塩加減を薄くすること、多くは魚や野菜に塩を薄くふっておくことの意味で用いられる 甘塩 [会話] ウスジオンにしとけまあ (しておきなさい)。塩をなあ ちょいと (少し) うっすうせよ 言うことを ウスジオン (に) 言うてなあ ちょいと 塩よけしとけよお (余計しておけ) 言う時と ウスジオン (に) せえよお (しなさい) 言う時とな。

うすすぎ 【名詞】 農具 [会話] とおみに せんごく それから ウススギと たあ (田) 作つとると そんだ

け 要りおった。

うすすり【名詞】 粃すり (志 (立神、鶴方、神明、国府、安乗)) [会話] 粃をする事な 昔 粃をな、とうすで米に あの粃皮だけ とんのをなあ (取るのを) ウススリ言よおった (言っていました)。ウススリをまあ今日たので (頼のんで) うすすつて貰るて (貰らつて) 言うて、田な (が) ある家はウススリ、ウススリすんな (するのは) 粃を米にする事を ウススリ言うてなあ。

うすだ【形容詞】 うすくなった [会話] 色ん (が) しけてく (退色する) ことをなあ、あの色な (が) しけてたとか、ウスンデタ (て行った) とかな、榎めてたとか、うっすう (薄く) になると。日にやけて 色な (が) さめてたれ (いった) うらがやして (裏返し) て ほしやええけど (干せばよいのに) 言うてなあ。

うすっぱらあい【形容詞】 薄い 物の厚みが無いさま [会話] あんまりうっすうい (余り薄い) のを、ウスッペラアイ、ウスッペラアイね こや (のだ此れは)。ペラペラや (だ) 言うて、うすべたあいのおやてら (のだとか) ウスッペラアイ、のおや とか言うて一緒に言葉やけど (だが)。

うすっぱらい【形容詞】 薄い (上、阿、張)

うすづら【名詞】 器量のよい顔 [会話] ウスヅラ言うな (のは) うっすらした 器量のええひた (よい人は) ウスヅラやなあ (だ) あの人言うし (言います)。

うすで【薄手】【名詞】 薄い物 テは様の義 (大言海) [用例] 夏ん (に) なったらウスデのもん (物) きやな (着なければ)。

うすで【動詞】 薄くなって

うすでく【自カ五】 1) 薄くなって行く うすらいで行く 2) 退色する [会話] ₂) 日焼けしてまあ こやれ (これ) うっすうなつてたない (薄くなっていった) 言うてな、うすなつてた (ていった) 言うの (のを) ウスデクどお 言うてなあ、色のよいもん (物) を洗濯やどけして (などして) 干しても、あんまり日に干したら、まあ 色な ウスデクど (ぞ) 言うのなあ。

うすなたまる 口内に唾液が多量に分泌される [会話] 口い (に) ウズ (唾) ナ (が) タマッテ来ると 虫な (が) しょんべ (小便) たれて言うて、口い (へ) ウズ ナ (ガ) タマル言うのは 涎な (が) 出て来んのを (来るのを) わやわやつと して来んねやんかい (して来るのです)。虫な (が) しょんべたれる 言うねてや (言うのです)。ものすごい (大変) 気持ちわり

(悪く) なつて来て 涎みたよん (のように) してくんのなあ (して来るのを)、ウズナタマル 言いおつたの (言つて居たのです)。涎な (が) たまる言う事を 言うんやかな (言うのでしょうか)。ウズナタマッテクル言うてなあ なんか汚い事 思うと あの めめず (みみず) のおだ (飲んだ) てら (とか) 言うと ウズナ タマッテクルんかなあ これから (上腹部から) うやうやつと して来ると ほすと (そうすると) むなぐるし (胸苦しい) よおん (ように) なつて来てなあ。ここい (ここに・口の中) たまつてくんねてや (来るのです)。ほいなの (そんなのを) ウズナ タマル言いおつたてや (言っていました)。

うすなら。うすのら。うすのろ【薄鈍】【名詞】 知能が普通より劣り、動作や反応の鋭いこと。又、その様、そのような人。

うすば【薄刃】【名詞】 菜切り包丁 刃が広く、薄く先の尖っていないもので、野菜を料理する。薄刃包丁の略。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (神島、鳥羽)、伊、南) [会話] ほちちよ (包丁) はあ (刃) の ひらくたい (ひらたい) の 菜切り包丁やら (とか) 言うて なあ (菜) 切るのを、ウスバ。

うすべたい【薄】【形容詞】 薄い (志、鳥、上、阿、張、名) [会話] ウスベッタイ言うな うっすいのおを (のを) ウスベッタイ言うの (のです)。ウスベタイ言うて、あんまり (あまり) うっすういのをなあ ウスッペラアイ言うのも あるしなあ。ウスッペラアイね (のだ) こや (これは) ぺらぺらや (だ) 言うて、ウスベタイのおやてら (だとか) ウスッペラアイのおや (のだ) とか言うて 一緒に言葉やけど (だが)。

うすべたい【薄】【形容詞】 薄を強調した語 厚みが少ない

うすべり【薄縁】【名詞】 上敷 竹や藁で編んだ蓆のようなもの うすべり量の略 (大言海) (安、上、阿、張、名、南) [会話] 量の藁のない表だけで、へり (縁) の取つてあんの (有るのを) ウスベリ。

うすまる【薄】【自ラ五】 色、味などが薄くなる

うずまる (うづまる)【埋】【自ラ五】 埋る。他の物の中に没して外から見えなくなる。

うずむし (うづむし)【名詞】 魚 いさぎ うず参照 (志 (甲賀、神明、立神、志島、安乗))

うすめ【薄目】【名詞】 少し開いた目 細目 薄い目 細い目 しょぼしょぼ目 [会話] ウスメ つこて (使つて) 言う事も 聞きよおつたの (聞きました) ちよいと (少し) 目すばめてすんのをなあ (窄めてするの

を) しょぼしょぼ目 言うの (のです)。しょぼしょぼ
しとて (していて) 人 見るやんない (でしょう) お
おた (あれ) これ、ウスメつこて (使って) あの人な
(が) すかんねよお (嫌だ) 言よおったのお (言っ
ていました)。めえほっそお (目細く) してすんのを (す
るのを) ウスメつこて言うて。

うすめたた。うすめたたれ 1) 味を薄くした 2) 熱
い物を冷たくした

うずめたた (うづめたた)。うずめたたれ (うづめたた
れ) 埋めた [会話] ウズメタタレ言うて 土、よっ
け (沢山) 被せて したたのを (してしまったのを)
ウズメタタレ 埋めこんだだれ (でやった) 言うて。

うすめる【他マ下一】 1) 味の濃いものを薄くする
2) 熱いものを冷たくする [会話] ₂₎ 熱いのをつめと
おすとか ₁₎ しょからい (塩辛い) のを、うっすう
すんのを (するのを)。水うめてなあ 味の濃いのを
ウズメルとか 物を重ねんのを (重ねるのを) うすめ
にせえ (しなさい) とかな。

うずめる (うづめる) (埋)【他マ下一】 物の一部。又は、
全部を土や灰の中に入れて外から見えなくする。ウヅ
ム (下二段) の口語。ウヅダカシ (堆) のウヅの活用。
覆いて高くする意 (大言海) [会話] ウズメル言うな、
埋める事 まあ、うめこんだれ (でやれ) 言うて、土
ん中え (土の中へ) 埋めるでしょ 穴掘つといて (掘
っておいて) 何んやかや入れて 土 かぶせんの (被
せるのを) 埋める、埋め込む言うてなあ、ウズメタタ
レ (てしまった) 言うて よっけ (沢山) 被ぶせてな
あ したた (してしまった) のをなあ、ウズメタタレ
言うの (のです) 埋め込んだだれ (てやった) 言うて
物凄いよけ (沢山) 積んだ時になあ ウズメタタ言う
のなあ (言います)。

うずもれる (うづもれる) (埋)【自ラ下一】 1) 物に深
く入り込んで隠れる 2) しおれる [会話] ₂₎ ウズモ
レル言うな (のは) しおれて何んも (萎れて何も) 希
望がのおて (無くて) おや (俺は) 何んもするこた
(何もすることは) ないし、何処いも (へも) 行ても
(行っても) 相手して呉れやへんし (呉れない) 言う
て、夢もちほお (希望) もないし言うて 夢も希望も
失したた (無くした) 言うてな、ウズモレル言うて
あの人まあ ウズモレテ 何んもよお言わんし (何も
言へないし) 何んもまあ (少しも) よおせんねない
(出来ないのだ) 言うて。

うすもん【名詞】 薄く織った織物。紗、絹の類、又それ
で作った夏の着物

うすよごれ【名詞】 どことなく汚れた状態 [会話] ウス
ヨゴレ言うな (のは) あんまり (あまり) 泥んこやな
しん (でなくて)、ちょいとまあ (少し) 塗った位をな
あ ウスヨゴレ言うてなあ。あるたんな勿体ないけど
(洗ってやるのは勿体ないが) ウスヨゴレな (が) し
とてまあ言うて。

うすよごれる (薄汚)【自ラ下一】 1) 大変汚れる 2)
少し汚れる

うすら【名詞】 1) 馬鹿 2) 名詞 形容詞の上につい
て、薄そうに見える ウスラばか

うすらぐ (薄) うすらむ。うすらぐ【自ガ五】 物の程度
や度合いが弱まる 苦悩が楽になる うすらを活用し
た語 [会話] 人な (が) わり (悪い) 事しても、ええ
(良い) 事しても、噂をよけしとると (沢山している
と) ひとばか (少し) ほとぼりさせ言うて。噂な
(が) ウスランデ来る事を。

うせ (失) 1) 失くなること 消える 2) 行け (北、
南、熊) [会話] ₂₎ ウセ。ウセエ言うな 何処いでも
行け 言うことやわい。何処いでも 行け言う事を。
うしゃがる言うてな 腹な (が) 立つとる (ている)
時 子供等でもな 家 おきたない (置いて置きたく
ない) 思う時な (が) 有るやんかな (有ります)、おっ
ちやく (乱暴) してな、何処いでも うしゃがれ言う
てなあ、のおみたよなもな (お前のような者は) ま
何処いでも うしゃがれ言うたり、ウセエ言うたり、
そや (それは) よお使いおったわい (よく使っていま
した)。何処い (へ) でも行け言うの (のを) 何処いで
も ウセエ言うて ウセサラセ言うてな、ごおなわく
と (腹が立つと) さらせも付けてな ウセサラセ言う
て。

うせさらせ 行ってしまえ 前項うせ参照 (志 (布施
田))

うせた 1) 来た (志 (立神)、津、一、度、伊) 2) 行
ってしまった (志 (立神)、久、一、北) 3) 居た
4) 失くなった (北) [会話] ₂₎ いたたの (行ってし
まったの) ウセタ言うね (言うのです)。₁₎ おれげん
(俺の家に) うしゃがつて 言うてな、来た事をなあ、
俺家い ウセタ言うて 言う事もあんな (有るのです)。
行たのも ウセタ言うしな、来たのもウセタ 言うね
(言うのです)。おらげい (俺の家に) ウシャガンナ言
うて 来んな (来るな) 言う事を、ウシャガンナ言
うて。あげん言うとても (あんなに言っていない) ウセ
タ言うて、まあ あげん 言うても ウシャガンナ
イ 言うて、すごく (大変) ごおなわいとる (腹が立

つ) 時の言葉やな (です)。ウシャガンネナイは、来た言う時と 3) まだ其処に居る言う時も ウシャガル言うね (言うのです)。まだ あげん 言うても ウシャガンネナイ言うて 其処に居る言う事。ウシャガレ言う時は 行け言うし ウシャガル 言う事は、此処に来る言うて そして まだ居る言う事にも まだ、けつかんねない言うの (のです)。ウシャガルとも言うしな。まだ、けつかんねない、ほん。ウシャガルは行く 居る 来る の三つ。

うせて 行つて。来て。居て。

うせもん (失物) 【名詞】 無くした物。紛失物。

うせやがる 行く。来る。居る。(張、阿)

うせやがれ 行け (上、阿、張)

うせる (失) 【自サ下一】 1) なくなる。消える。紛失する。2) 行く。来る。居るのくだけた言い方 ののしり言葉 ①行く うせくされ 行け 行つてしまえ (志 (浜島、志島)、鳥 (鳥羽)、鈴市、津、多、上、阿、張、伊、尾、北、南) ②来る うせくさる うせくさつて (志 (浜島)、桑郡、鈴市、飯、度、上、阿、張、北、南、熊) ③居る まだうせやがる (多、張、熊、南)

うせろ 行け (志) [会話] 行け言う事やわい (です)。ウセロ言うな (のは) あつちい行け言う事 行きさらせ言う事や (です)。一番まあこや (これは) 汚い言葉やわな (です) 喧嘩腰やなけな (でなければ) こいな (こんな) 言葉なあ 使わせん (使いません)。

うそ (嘘) 【感動詞】 【名詞】 驚きの時の表現 本当ですか うそでないでしょうねの意 同時に、信じられないの気持ちを表す。否定したい気持ちを表す 発音により程度が異なる ウッソー ウソ (志 (布施田)) [会話] なにか話をして居ても ウソ言うて (言つて) 言うなあ (言います)。言うたんねてや (言つてしまうのです) ほんと (本当) の事でも。ほんと (本当) の事言うても ウソ言うて言うね (のです)。ウソ言うて疑う事やなあ (です) あんでなあ (あれで) 本当の事言うても そやほんとかいなあ (それは本当だろうか) おもて (思つて) わがと疑ごとんね (自分は疑つて居るのです) ほんととか (本当ですか) 言うのを ウソ言うてなあ 念押す事やろなあ (でしょう) あんでなあ。わがと おどけた (驚いた時) 時 ウソ言うて、よお言う 自分が思わん (思っていない) 事言われると。

うそ (薄) 【接頭語】 1) 接頭語 薄すの転 糞の転 くそ 卑しめ ののしる意を表す やや軽蔑の意味を含

めて 程度の甚だしい事を表す 2) 動詞 名詞について なんとなく そのような感じであるを表す 3) 動詞 名詞について 少しわずかに等 程度の軽い感じを表す 4) 大変を表す ウソせわな ウソせせかし ウソおとし ウソかいだり ウソごうなわく。

うそいい (嘘言) 【名詞】 嘘つき。嘘をつく人。(上、北、南) [会話] ウソイヤ あや (彼は) 言うてな。ウソイイのはつたらばこ言うて。嘘ばかり 言うとることを (言つて居ることを)、ウソイイのはつたらばか (箱は) 言うて。ほんとに (本当に) あや (彼は) ウソイイのはつたらばこや (だ) 言うて 嘘ばかり 言うとる (ている)。

うそいいのはつたらばこ 【名詞】 大嘘つき。嘘ばかり言う人。はつたらばこは、はつたりの変化したものか。うそいい参照 [会話] ハッタラバコ言うのは 嘘ばかり 言うとる (言っている) 事言うんやろな (言うんでしょ)。 せんいちまんがら (千一万空) 言いおつたやんかい (言つて居たで有りませんか)。千言うてもそや (言つてもそれは) 皆 嘘や (です) 空やもんで (なので) せいいちまんがら 言うの。なん (何を) 言うても 皆 嘘ばかり (ばかり) 言う事。それより せんそつぱり (千すつかり) 言うのも あんねんなあ (有ります)。言うたら (話すのが) みんな (皆) 嘘や (だ) 言うの (のです)、千そつぱり 千一万がら言うななあ (言うのは) 千言うても (言つても) 一つもほんと (本当) の事な (が) 無い言う事言うね。そつぱり言うのは すつかり言う事 全部言う事。

うそいや 【名詞】 嘘をつく人。うそいい参照

うそいわんと 嘘を言わずに。必ず きつと (尾) [会話] 正直にして呉れ言う事を ウソイワントおれ 嘘言うな 言うてなあ。嘘と坊主の髪や (は) ゆうたこたないわ言うてくる。

うそうそ 【副詞】 うろつく様。うろろ。気持ちが浮き上がつて居る様。落ち着かない様。(志 (志島)) [用例] ウソウソと、そこら眺めて。

うそかいだり 大変疲れた。面倒だ。かいだり。かいだるい。腕弛い。疲れて物事をする気がない。接頭語 うそ参照 [会話] ものすごかいだり (大変疲れた) 時も ウソカイダリ言うなあ (言います)。それしたれ (それをしなさい) 言うと、おおた (ああ) ウソカイダリ だ (誰が) 言うて。だなあ言うのは 誰がすんねどい (誰がするか 誰がするものか) 言う

ことや(です)。ウソカイダリ だんなあ(誰がするものか したくない) だな するもん(者)が あんねどい(有るのか) 言うて。そげん(そんなに) 言うても(言っても) せなはざんのおで(しなければいけないので)。そお言いもて(ながら) その仕事すんねわい(するのです)。ウソカイダリのん(のに) おとっしやほん(感動詞 面倒だ) 言うて。くどきもて(不平を言いながら) したないもんで(したくないので) くどくど言いもてする言う事なあ(です)。

うそかまされた だまされた [用例] ウソカマサレテ えらい目ん おおた(大変な目に逢った)。

うそかます 嘘をつく だます(上、阿、伊)

うそぎたない【形容詞】大変汚い(志(布施田、立神、神明、国府))

うそこ 嘘ですか

うそこ【名詞】本当で無い勝負事。(志(布施田)、員)

うそごおなわく(うそごうなわく) 随分 腹立たしい ごと 身体 言語 心による人間の働き 行為 [会話] ウソゴオナ(が) ワイテ あんな こげん(彼がこんなに) 言うたや(たら) ウソゴオナワイテ。ごおなわいて(腹が立って) しよおなない(しかたがない) 言う事を ウソゴオナワク 言うね(のです)。ものすごお腹の立つ事を言うんなあ(言うのです)。

うそこき【名詞】嘘つき 嘘を言う人(志摩市全域、員、鈴市、久、一、松、多、上、阿、張、度、伊、鳥、南、熊) [会話] 嘘言い言う事を 嘘ばっか言うとるもんで(ばかり言っているので) 幾らでも 嘘言うもんでなあ(言うので)。ウソコキ言うのはなあ 嘘言いとか、ウソコキとか。

うそこく 嘘をつく(志、三、一、上、伊) [会話] 嘘言う、言う事をなあ ウソコクや(だ) 言うて。

うそごと (嘘言)【名詞】嘘 本当でないこと 本当でない言葉 うそこ(志(立神、神明、国府)、上、阿) [会話] まともな(正当) 事よおせん(出来ない) 事言うね(のです)。まともな事せんと(せずに) 違った事すんの(するのを) 嘘ばっかして(ばかりして) 言うて。間違ごた(間違った) 事すると ウソゴトして言うて。あや(あれは) 皆 ウソゴトばっかしとんね(ばかりしているのだ)。違う事ばっか(ばかり) 教えとんの(ているのを) ウソゴトばっか教えとんの(教えて居るのです)。

うそごと (嘘事)【名詞】仮にする事 冗談 遊びとしてする勝負事

うそさぶい (薄寒)【形容詞】1) 大変寒い 2) なんと

なく寒い(員) [会話] 1) あしこ(彼方) へ 行て来い言うて、おおた(ああ) ウソサバイのおに だんな(誰が行くもんか 否定) 言うて。ものすごいさぶい(寒い) 言う事を言うねんなあ(言うのです)。

うそせせかし【形容詞】面倒くさい 忙しい [会話] こまかし事せえ(面倒な事、細事しなさい) 言うて、おおた(ああ) ウソセセカシ そない事(そんな事) したないわれ(したくない)。

うそせわな【形容詞】多少面倒くさい せわな 面倒だ せわ 気を配って面倒見ること 中に入って取り持つ事、手数が掛かって、苦勞すること 骨が折れること(志) [会話] せせかしも セワナのも一緒やんかい(です)。うそ言うのは ものすごい いやな事をされる時に、言うんなあ(言うのです)。大変な(だ) 言うよおな意味や(です)。

うそだまし【名詞】嘘つき(阿)

うそだます (嘘騙)【自サ五】嘘を言って人を騙す 偽りを言う うそをつく(志(布施田)、阿、上) [用例] あや(彼は) まったいねよつて(馬鹿正直だから) ウソダマシても ほんとんしとられ(本当にして居る)。

うそたれ【名詞】嘘つき(志(片田)、一、松、多、上、阿、張、名、度、北) [会話] 一緒の事やわい ウソタレも、うそこきもなあ。

うそたれる 嘘を言う(一、度、尾、北)

うそつき (嘘吐)【名詞】嘘言者(志(畔名、片田)、鳥(坂手、鳥羽))

うそつく 嘘を言う(三、四、鈴市、安、津、一、松、阿、伊、鳥、南)

うそっぱち (嘘八)【名詞】嘘を強めたいい方 全くの嘘 完全な嘘(上、阿、南、熊) [会話] 嘘ばっか言うとる(ばかり言っている) 事を 嘘いいのはつたらばこも一緒やわい(です)、ウソッパチ。

うそとし。うそとろし【形容詞】恐ろしい とろし、おとろし、おそろしい 女性語(志(志島)) [会話] ものすごお おとろしことを(恐ろしいことを) うそおとろし、ウソトロシ言う。おおた ウソトロシ 言う時は、ものすごお 恐れ時に うそ恐ろしい言うのを。ウソトロシ言うて言うたんの(言ってしまう) おをぬいといて(ておいて)。

うそなき (嘘泣)【名詞】泣いて居るふりをする事(南)

うそぬかす 嘘を言う(度)

うそね (嘘寝)【名詞】狸寝入り うそねぶりの転 ねむったふりをする(南) [会話] すらねしとる事 すらね(空寝) ウソネ。

うそのかあ(嘘の皮)【名詞】全くの嘘 完全な嘘 獺の皮に掛けた語とかも言う(志(布施田)) [会話] ウソノカア言うな(のは)嘘ばっか(ばかり)言うとのなあ(言っているのです)、ウソノカアやれ(だ)そや(それは)言うて。嘘ばっか言うとの(言っている)言う事や(です)。

うそのかあのへりだめ。うそのかわのへりだめ 大嘘つき [会話] そいな(そんな)事 嘘のかあやれ(だ)ウソノカアノヘリダメやれ(だ)言うて。嘘のかあにまかけて、あんまり(輪をかけてあまり)よけ(沢山)嘘言う時ん(に)そいな(そんな)事 つけんの(つけるのです)。ものすごお よお(ものすごくよい)嘘 言うた時ん(に)ウソノカアノヘリダメやれ。

うそのかんばち【名詞】嘘 嘘っぱち [会話] 嘘ばっか言うとのを(ばかり言っているのを)ウソノカンバチやれ(だ)、あや(彼は)嘘言いのほったらばこやれ(だ)言うてなあ、ひとくら(一度)や、ふたくら(二度)の嘘ならええんけど(よいが)嘘ばっか言うとのを ウソノカンバチやれとか(だとか)言うてなあ 後の付け言葉や。

うそはずかし(うそはづかし)(嘘恥)【形容詞】1) 大変恥ずかしい(志(布施田)) 2) なんとなく恥かしい [会話] 2) ちよいとはづかし(少し恥ずかしい)のをウソハズカシ言うねんなあ(言うのです)。

うそばっか すべて嘘 嘘ばかり(志(布施田)) [会話] 本当の事言わせんもん(言いません)、何んも一ツもほん(と)本当の事言わんと、嘘の事ばっか(ばかり)言うとの人を ウソバッカ言うとのんね(言っているのだ)言うて これは 嘘ばかり。

うそばなし(嘘話)【名詞】うその話 ありもしない 偽りの話 作り話 [会話] ない事を作って言うのを 作り話 言う事を ウソバナシ。

うそみっともない。うそみとみない【形容詞】大変見苦しい [用例] ウソミットモナイ格好して、よそ行くな。

うそもん【名詞】1) 偽せ物(北) 2) 嘘をつく人 [会話] 1) ウソモン言う と 嘘の物 見せ物の事をな ウソモン言うねんなあ(言うのです)。みせもん(見せ物)の事言うんやろな(言うのでしょうか)あや(あれば)ウソモンやどお(だ)言うてなあ、2) 嘘ばっか(ばかり)つく人をなあ あや(彼は)ウソモンや(だ)言うて言うなあ(言います)にげ(人間)もなあ。

うそや 嘘だ [用例] あんな 言うこた(彼の言う事は)皆 ウソや。

うそやかほんとやか 嘘か本当か区別がつかない。

うそやんな 1) 嘘でしょう 本当ですか 2) 嘘です(志、鳥(坂手))

うそやんなあ 1) 嘘です 2) 嘘でしょう [会話] 1) この嘘あ(は)ほんとや(本当だ)言うて。ウソヤンナア そや(それは)言うてなあ言うの 嘘やんない言うのな 一緒に言葉やけど(だが)。

うそやんない 嘘でしょう 本当ですか [会話] ウソヤンナイ 言うて、嘘や(だ)嘘や(だ)ウソヤンナイ言うんよって(言うのだから)、ほんとや(本当で)無い 言う事を そや(それは)皆 ウソヤンナイ 言うて問うね(問うのです)。嘘や(で)無い事を 嘘みたよん(のように)言うもんで(ので)そや(それは)ウソヤンナイ言うて、ほんとやてや(本当だ)言うて。

うそゆい【名詞】嘘ばかり言う人(志(国府、志島、布施田、御座、鶴方、甲賀、神明、立神、安乗)、鳥(答志)、上、阿、張) [会話] 嘘ばっか言うのを ウソユイ。何ん言うても(何を言っても)嘘言う、ない様な事ばっか言うとの(ばかり言っている)者をなあ ウソユイ言うのなあ(のです)。

うそゆいのほたらばこ【名詞】いつも嘘をつく人 うそいいのほたらばこに同じ

うそゆう 嘘を言う 嘘をつく(志、桑市、四、鈴市、亀、安、一、多、張、度、尾、熊)

うそゆうな 嘘をつくな [会話] 正直にしてくれ言う事を ウソユウナ言うて。

うそゆや【名詞】嘘を言う人 嘘つき

うそよい【名詞】酔ったふり(南)

うたいて(うたひて)(歌手)【名詞】1) 歌を歌う人 盆踊りなどで 音頭に合わせて囃し歌を歌う人 2) 歌手(南) [会話] 1) 歌 歌う人 ウタイテ 言うやんかい(言います)。音頭取り 歌な(が)上手な人をウタイテや(だ)言うて あの人 ウタイテやなあ(だ)言うてなあ。

うたう(うたふ)(歌)【他ワ五】1) 負ける 悲鳴をあげる(仕事、暑寒)(志(志島、国府)、張、阿、度、北、尾) 2) 死ぬ(張、北) 3) 泣く(上) 4) 破産する(張、北) 5) 鶏が鳴く(志(志島、国府)、張、阿、伊、北、尾、南) 6) 歌を歌う [会話] 6) 歌をウタウ言うし、1) そおして なんやか(何か)負けると ウタウ言うやんかい(言います)。仕事して えらい(大変)時も。2) 死んでく(で行く)事 言うなあ(言います)ウタタんでわれ(ていったそうだ)言う

て。ウトテタレ ウトタ言うて。⁵⁾ 軍鶏な (が) 喧嘩して ウトタ言うて。ケケコー言うて ウタウまでやらな (しなければ) 言てなあ。ちもどろけ (血みどろ、血まみれ) になっても歌わんのがあつて。

うだうだ【副詞】 1) くどくど ぶつぶつ 不平不満をはっきりと表さず居るさま (志 (立神、志島)、張、上、阿) 2) 愚図愚図 [会話] ²⁾ だらだらしとる (している) とかな、のろのろしとるとか 言う事をな、ウダウダしとる言うんや (言うのです)。うざうざと言うて うざうざばっかしとらんと (ばかりしていずに) 仕事もせなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うて、怠ける事を言うんや るな (言うのでしょうか)。うざうざしとらんと 仕事もせえまあ (しなさい) 言うて よおわるわれよおったやんかい (よく叱られて居ました)。

うたうたい (うたうたひ)【歌謡】【名詞】歌を歌う人 歌手

うたがいしん (うたがひしん)【疑心】【名詞】疑う気持ち 物事を素直に受けとらないで疑う気持ち [会話] 人な (が) 嘘言うても (言っても) ウタガイシンせん と (せずに)、ほんとうしたんの (本当にしてやるのを) まうけん (に) して。

うたがわし (うたがはし)【疑】【形容詞】あやしい。不審である。

うだぐち【名詞】無駄口 [会話] いろんな よけいな事言うて、ウダグチ たいて。ウダグチは、いなん事 しゃべんのを (いらない事喋るのを) ウダグチや (です)。

うたこ (歌子)【名詞】 1) 歌の好きな人 2) 歌うのが好きな人 いつも歌っている人 [会話] ²⁾ 歌うのな (のが) 好きな者、あや (彼は) ウタコやどお (だ) 言うてな、歌な (が) 好きで 歌ばっか、うととと と (ばかり歌っていると) あや (彼は) ウタコでまあ 歌ばっか うととると言うて。

うたごお (疑)【他ガ五】はっきりしない事について思いまどう 色々考える 疑う

うたごた (疑) 疑った 疑問に思った

うたごとる 疑って居る [用例] 物くよ言うけど (あげようと言うが) おや (俺は) ウダゴトンネ。

うたせん 打たない しない [会話] たあ (田) ウタセンとか、藁、うて言うても あの子あ (は) ウタセン言うしなあ (言います) ウタセンねてやらなあ (のだから) 何んか そやそれ 杭うったれ (打ってやれ) 言うと あのか (子は) 杭もうたんと (打たずに) そやれ言うてな 畑 ウタセンとか、たあ (田) ウタセ

ンとかな。

うたたね (転寝)【名詞】寝るとはなしに寝ること。寝床に入らないで思わず知らずうとうとと寝ること かりね

うだつ (税) (卯建)【名詞】 1) 梁の上に立て 棟を支える短い柱 2) 民家の両端に屋根より一段高く設けた小屋根つきの土壁、又、これをつけた神壁を言う。家の格を表し 装飾と防火を兼ねる。金持ちでなければ出来なかった。ウダチ (税) の訛。うだつがあがらん参照

うだつがあがらん 1) 出世したり金銭に恵まれたりしない 2) よい境遇にならない 3) 頭が上がらない [会話] うだつ言うのは、屋根の上のあれ。³⁾ ウダツガアガランとか、頭があがらん言うのも言うんなあ (言います)。あの人には ウダツガアガラセンわれ 言うて。

うだる (茹だる)【自ラ五】 1) ゆだるの転 茹であがる (員) 2) 体がぐったりする 疲れる 暑さのため体がぐったりする (志 (浜島)) [会話] ²⁾ あつうて (暑くて) ウダッてかれ (行く) 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。くたばった (疲れた、だるい) 言う事や (です)。¹⁾ 此処らの人は 葉っ葉でも 何でも ウデル言うのなあ (のです)。ゆがくのを ウデル言うね。こやよお (これはよく) ウダッタナア 言うて。²⁾ そして まあ (もう) あつてウダッッタよお (暑くてうだった、疲れた) 言うて。

うち (家) (内)【名詞】 1) 自分の家 うちうち参照 (松、多、南) 2) 自分 私 (志、鳥、南、員、鈴市、亀、安、津、久、一、伊、松)

うち【名詞】物事の経過する間の状況 時間 あいだ (鳥 (国崎)) [会話] 漁にいて わしや (私は) こな な (が) よけ (沢山) あつて言うて。人な 知らんウ ちん (知らない間に) 入れ込む (取り込むのを) こ な か。

うちあみ【名詞】よそばり 網にて魚を獲る方法の一つ おおなか参照 (志 (布施田)、度、伊、北)

うちあらける うちをあらける参照 1) 家を掃除して片付ける 2) 借家から出る

うちいれ【名詞】 1) 借金の全額を拂わず一部を返す事 (南) 2) 物品を買う時先に一部を拂う事 手付金

うちいわい (うちいはひ) (内祝)【名詞】身内などの親しいものだけである祝い事 自分の家の祝い事を記念して贈り物をする事。又、その品物 [会話] ウチイワイ言うな (のは) 結婚にしても まだ 式は しや せ

んけど(しないが) 何んか こぼったり (配る) ちょいと (少し) したりすると ウチイワイや (だ) 言うてなあ。大きいせんとなあ (せずに) 小さい祝い、内内同志だけですると ウチイワイ ちょいととして 言うてなあ。

うちうち (内々) 【名詞】 1) 親類 (熊、津) 2) 親しい仲間 家族の内部 [会話] 1) ウチウチ言うな (のは) 親戚同志の事を、ウチ (家) 言うな (のは)。我が家一軒をなあ (です)。

うちうちどおし (内々同志) 【名詞】 家の中だけ 親しい者だけ 仲間のみ 集団の仲間だけ [会話] ウチウチドオシ 言うて、親 兄弟ぐらい、親しいのおだけですんのをな (するのを)。うちわ だけで 言うてなあ、おやこなりん (に) まあ うちわ (内輪) だけで ちょいと、おみき (少しお神酒) 頂いた言うてなあ まあ 伯父叔母まで よお呼ばんしなあ (招待出来ないし) ま 兄弟と 親とで しとこやんかい (しておきましょう) 言うて。結婚式ん (に) になると 伯母さんや、従兄や 言うて 呼ぶねけど (のだが) たある入れ (樽入れ) だけや 言うて、内輪だけで ちょいと 御神酒頂いた言うてなあ。

うちうちとこ (内々所) 【名詞】 自分の家 [会話] うちうちどおしも ウチウチトコも 一緒にの事やわい (です)。うちうちで 言うて 言うねよってんな (言うのだから) 親 兄弟だけな (です)。

うちをあらける (うちあらける) 1) 片付ける 片付けて 広くする 2) 家主に借りて居た家を返す [会話] 1) 今日はうちとり 何んもかも 道具を ほかいせごす (他へ移す) 言うのを、ウチアラケル。家とらんならんよって (壊さなければならぬから) 家の中の道具 あらけんのをなあ ウチアラケル 言うやんかい (言います)。そして うちやる (壊す) 時は 家を取る言うてなあ、うちとりやもんで (ので) あらけもん (片付け) に行て 言うて、家の道具をなあ ほかえかわす事をなあ そして やかたうちやる (家壊す) ときは 今日は うちとりで言うて。2) 借家しとて (して) いて そこから 出てく時でも アラケル言うの (のです)。今日はまあ やごしで アラケンネ言うてなあ。やごしは 家かわる (変わる) 言う事な 1) ウチアラケル 言う時に 今日は 結婚式で ウチアラケル 部屋あらけてまあ 言うて。

うちおい (内覆)。うちおいびた。うちおいぶた (内覆蓋) 【名詞】 飯 副菜を入れて漁に持って行く蓋のついた容器 蓋には縁が付いて外れない様になって居る

うちおい 上から被せる物 (志 (布施田)) [会話] ウチオイ 言うのは、蓋んなとる (になっている)。上と下と重なるのな (のが) ウチオイ ウチオイブタ 言うやんかい (言います)。

うちおき (家置) 【名詞】 自分の家に残して置く分 他人に分け与えないもの 自家用 [会話] こや (これは) 家の当りやどお (だ) 言うわけやなあ (です) ウチオキは。これだけや (は) だれえんもやらんと (誰にもやらずに) とつとかなはざんどお (取っておかなければ駄目だ) 言う事かい (ですか)。

うちおもい (うちおもひ) (家思) 【名詞】 嫁に行った後の実家を気にすること [会話] ウチオモイとか あと おもいとか 言うて、ウチオモイで どっこいも (どこえも) 行かんと (ずに) しんしょのたそく (家計の助け) して 言うて。

うちか 知人の家の前を通る時や家を訪れた時にかける言葉 おるか おるかい おんのかいを使用 (志)

うちかた (内肩) 【名詞】 背の部分 肩よりおおよそ 10 cm位下、肩胛骨の所 (せうちかた) [会話] 肩のとこ (所) ウチカタ 言う。

うちかぶせる (打被) 【他サ下一】 うちは接続語 強調を表す 上から被う かぶせる [会話] のり採りん行きおった (採りに行って居ました) 波な (が) かぶせるとこんよけ (所に沢山) あって、ウチカブセルとこ (所で) で それ採って。

うちがみさん (内神様) 【名詞】 神棚、神棚に祭って有る神様 [会話] 神棚、ウチガミサン 言うの (のです)。そすと かどがみさん 言うな (のは) 門い 門松 立てるやんない (でしょう)。門松なあ かどがみさんや (だ) 言うの。

うちきず (打傷) 【名詞】 打撲傷 物にぶつかって、又打たれて出来た傷 [会話] 打った傷 何んかで打つと ウチキズで うるくさな (が) いっつんね (出来る)、うるくさな (が) 出来た 言わんと (言わずに) うるくさな (が) いて 言うて。

うちきん (内金) 【名詞】 総金額の中の幾らか

うちこ 【名詞】 蕎麦の粉を練って伸ばしたものを幅 1 cm×5 cmに切ったもの [会話] ウチコは 延べといて (ておいて) 蕎麦打つよおになあ すんねけど (するのだが) 短冊ん (に) 打ってなあ。1 cm位の巾でなあ 5 cm位の長さん (に) してな それをな 飯い入れてなあ 炊くんやんかい (炊くのです) そすと 美味いんてや (のです) そんな (それが) 又。

うちこ 家ですか 居ますか [用例] ウチコ言うて 訪

ねてくと（て行くと）今日わ 言うのを ウチコ言う。

うちこむ（打込）【自マ五】 1) 大波が押し寄せる 2) 悲嘆する 3) 叩き込む 4) 深く思い入れる（男女の中、仕事等）熱中する〔会話〕₂₎ ウチコンデ寝た言うやんかい。やけおこして寝たり かなしい事な（が）あつて、力落してすると 力落としてまあ ウチコンデ寝た 言よおったなあ（言っていました）。悲しい事な（が）有ったり ごおなわいたり（腹が立ったり）すると、ウチコンデ寝とんね（寝ているのだ）言うて、よお言よおった（よく言っていました）。₁₎ 波な ウチコム言うのもあるしな。₃₎ そや そこい（へ）杭ウチコンドケ言うてなあ 印に杭ウチコメとか、何か ウチコメとか言う時もな ウチコム言うしなあ。波が ウチコンデ来たは 大きい波が かぶつて来た、ないざん（汀に）物 おいとて（置いていて）₁₎ 波な（が）おちこんでくんのん（落ちて来るのに）早よ（早く）上向いて上げなはざんわれ（なければ駄目だ）言う時も、ウチコンデ来た言うしなあ（言います）。その時は 大きい波が 押し寄せて来る事をウチコンデキタ言うて。大波な（が）まあ ウチコンデ はらわれたれ（洗い流して行つた）言うて。

うちこんでねた 気持ちが不安定（悲しみ、怒りなど）で、それを避けるために寝る。〔会話〕ウチコンデネタ 言うやんかい（言います）。自棄おこして寝たり、悲しい事な（が）有って 力おとして 寝たりすると、ウチコンデネタ 言よおった（言っていました）。ウチコンデネタねえ（のだ）言うて。悲しい事な（が）有ったり、業なわいたり（腹が立ったり）すると ウチコンデ ネトンネ（寝ているのだ）言うて。

うちしき（打敷）【名詞】 仏前 仏座を荘厳にするため 仏前の卓上を覆う布 金襴緞子の類を用いる この上に、供物 仏具をのせる。（員）〔会話〕ほとくさん（仏さん）へ 膳する時ん（に）、下へ ウチシキ すると 汚したるもんで（てやるので）ウチシキノ ええの（よいのを）金襴のしとる（している）家な（が）有るやんない（有るでしょう）、そいなのおを（そういうのを）汚したるもんで（てやるので）ウチシキの上へ 莫座を。

うちしごと（家仕事）（内仕事）【名詞】 家でする仕事 田、畑、海でする仕事以外、家の周り、又家の内でする仕事〔会話〕祝日やとか 節句やとか（だとか）、そいなひを（そんな日を）紋日や（と）言うて 畑い（へ）いかんと（いかずに）休んで ウチシゴトしたり すんの（するのです）。

うちすえる（打掘）【他ア下一】 ひどく叩く ながる 打つ すえるは激しく行なう義〔会話〕ウチスエル言うな（のは）、藁 打つてまあ あや ウチスエトラレ（ている）言うて、朝から 藁 ウチスエトラレ、あの家の嫁や（嫁は）言うて、朝 はよから（早くから）トントンと 藁 打つと 藁 ウチスエテまあ おとつしゃ、ま やかまして、ねやれやせんない（喧しくて寝られない）言うて。そして 石打つのもうちやいする言うて 石合戦しよおったやんかい（して居たで有りませんか）だいこ合戦や（大根合戦とか）言うの しよおったやんかい。広の浜で よお（よく）石合戦しおって（して居て）うちやい（打ち合い）して ウチスエトラレ（ている）言うて。だいこ合戦すると おらげ（俺の家）の畑で 餓鬼な（が）来て、だいこ合戦して、だいこ（大根）皆 へしよって（折って）言うて おこよおったね（怒って居たのです）百姓しとる人らな（が）。畑 来てまあ だいこへしよって（ておいて）それを 切つて（てなあ（ておいて）だいこ合戦してなあ、おれげの畑 餓鬼らな だいこ合戦して ふみどおらん（目茶苦茶に）して言うて ごおわかしょおったね（腹立て居たのです）

うちたおす（うちたふす）（打倒）【他サ五】 撲り倒す

うちちがい（うちちがひ）（打違ひ） **うちちがえ【名詞】** 頭部と尾部（元と末）を交互に重ねる〔会話〕ウチチガイ言うな（のは）、頭こつちやへやって（この方へ置いて）、こつちゃん（こちらに）こお寝んの（頭と頭を並べず、頭と足と頭と言う様に交互に寝る事）。ウチチガイ言うけどなあ。そして 荷物からげんのもでも ウチチガイ絡げとけよ。

うちつける（打付）【他カ下一】 投げつける 放り出す 放りなげる〔会話〕がっこ（学校）から来たら すべり（枕木）降しん（に）いけよお（行きなさい）言うて、道具（学校の道具）ウチツケトイテ 浜い いて（へ行って）。

うちづら（内面）【名詞】 1) 家族や内輪の人に見せる顔つき、態度 2) 物の内面 うちのり〔会話〕₁₎ ウチヅラ言うのは、家におると（居ると）意地のわり（悪い）事ばつか（ばかり）、外 行くと、人のとこやもんで（所なので）にこにこしとるとか（しているとか）。家では にこにこしとても（していても）外行くと怒るとか

うちで（家出）【名詞】 仕事などに家を出る事〔会話〕俺家の嫁や（は）ほん（本当に）ウチデな（が）おつ

そおて (遅くて) いつ迄 まいまいしとて (していて)、あげんしとらんと (あんなんにして居ずに) はよいきやええのん (早く行けばよいのに) おもて (思つて) 姑婆な (が) おもとんね (思つて居るのです)。

うちでしぶがき、せけんでさわし、せけんざわしがくれよか。 うちでしぶがき、せけんでさわし、せけんざわしがくれよか 【俚諺】 家ではきつく世間に出るとやさしい事 [会話] 家では どいらい悪りねけど (大変悪るいのだが)、世間では どいらい 人によおて (よくて)。おた (ああ) あの人 ええ (よい) 人やなあ 心な (が) よおて やさして (優しくて) 言うて、世間の人にな (には) どいらいええんけど (大変よいが)、家い来ると むつかして (むつかしくて) そや (それ) 何んも してあんのか (有るのか)、どげんもしてねえやんか (どんなにしてないでないか)、ここな (が) こげなんやんか (こんなのだ)、よごしとるやんかとか やかまし (喧しく) 言うてすんのを (するのを)。家い来ると 渋柿でまあ 渋食うたよおな顔して、みんなを ねがめつたり (にらめつたり)、わるいたりすんのをな (叱つたりするのを) ウチデシブガキセケンデ サワシ。

うちど (家人) 【名詞】 外に働きに出ず家で仕事をしている人 (志 (布施田))

うちとこ (内所) 【名詞】 私の家 (南)

うちどこ (打所) 【名詞】 打った箇所 又、物にぶつかったりした体の箇所 [会話] ウチドコな (が) わり (悪い) 言うて そこらや ここら うつとる時 ええねけど (よいのだが)、胸や (だ) とか、急所どこ 打った時に ウチドコな (が) わり 言うの (のです)。手や足の時 言わせんけど (言わないが) 急所の方を うつと ウチドコな (が) わりかって (悪るかって) 言うて、ウチドコは 打ったとこ (打った場所)。

うちとり (家取) 【名詞】 長男 嫡子 うちもち あととり

うちとり 【名詞】 家を壊すこと [会話] ウチトリ 言うの 家を 壊すこと ウチトリ 言うて。今しや (今は) 機械でみな うちやったるけどな (壊すけれど)。

うちなおし (うちなほし) (打直) 【名詞】 古綿を再生する事、又、その綿 [会話] 綿の ウチナオシ、綿打屋い (に) 行て ウチナオシして貰おて来るとか。

うちながし 【名詞】 家内に有る洗い場 (松)

うちなし (家無) 【名詞】 次男以下。家が無い [会話] ウチナシ 言うのは青天井や (です)。家が無い。

うちに。うちん 間に [会話] まあ あんな (彼が) こ

んウチン (に) はよしよおや (早くしましょう) 言うて、こんウチン 言うな (言います)。ウチン言うて 言う人間も あんな (有ります)。節句な こんウチン 早よ 麦も刈らな (なければ)、芋も植えな 言うて、こんウチン 言う人間もあるし ウチン 言う人間もあるし。

うちぬき。うちぬきいど (打抜井戸) 【名詞】 穴を掘らずにパイプを水脈迄入れてポンプで汲みあげる井戸 堀抜井戸 (南)

うちぬし 【名詞】 家主 一家の主人 いえぬし参照 [会話] いえぬしも ウチヌシモ 一緒に意味やんかい (です)。うち (家) といえ (家) との違いで。

うちのがえる 【名詞】 家の中にばかり居る者 [会話] 家の中ばっか (ばかり) 居るもな (者は) ウチノガエルや言うて。

うちのかか 【名詞】 自分の妻 うちのとと 参照 (上、阿、南)

うちのこ 【名詞】 自分の家の子 自分の子 (桑郡)

うちのし (家主) 【名詞】 主人 その家の主

うちのとと 【名詞】 自分の夫 [会話] 昔 皆 ととや かかや 言うて、ウチノトトラや カカラや言うて、さいら 獲らんでも ほおまきや嬉し ウチノカカに逢おともて (と思つて) 言うてな、そげん 言うて。昔は かかや ととや言うて 爺や 婆や言うて、漁師の人な (が) 主に そお 言う言葉 使いおった (使っていました)。

うちのもり 【名詞】 留守番

うちのり (内法) 【名詞】 物の内側を測った長さ 箱、管などの内側のさしわたし

うちはなし。うちはなす (打放) 【他サ五】 戸 障子を除いて部屋を広くする [会話] あけつばなす (開け放す) 言う事を ウチハナシたれ (てやれ) 言うてな。家の部屋 とお (戸) はずしたんのを (てやるのを) ウチハナシ 言うて。よじよ (四畳) と ろくじよ (六畳) と ウチハナシたれ。ウチハナシて ひいろお (広く) して 結婚式で みな うちはなした 言うて、しきつとた (区切っていた) とお (戸) を はずして (外して) 一部屋ん (に) したる (してやる) 事を ウチハナス 言うて。

うちばら (内腹) 【名詞】 岩礁の陸側 (志) [会話] 大島の ウチバラ 言うな (のは)、大島から たか (陸) の方を ウチバラや (だ) 言うて。たかになる方を (陸の方向を) 大島から ウチバラ かずいた (潜水して海女漁をした) とか、口の島の ウチバラや (だ) とか、

そと（外、沖より）と なか（内）の事を言うけど（言います）。沖の方は、そとばらで、たかを ウチバラ言うて。今日は まあ、潮な（が）はよおて（早くて）大島のウチバラ かずいたとか、そとばら かず いたとか言う。

うちばらい（うちばらひ）（内拂）【名詞】代金の一部を拂う事 内金

うちはらう（うちはらふ）（打拂）【他ワ五】1）全部壊してしまう 2）戸、障子を全部開け広げる

うちばん（家番）【名詞】留守番 [用例] ぬすつとな（盗人が）はいらんよおん（に）ウチバンしとれ（して居れ）。

うちひろがりのそとつばまり【俚諺】家の内で威張るが、外へ出ると意気地がなくなること 内弁慶（志、鳥）

うちべんけい（内弁慶）【名詞】家の内では威張って居るが、外では、意気地なく弱い事、又、そういう人 [会話] ウチベンケイ言うな（のは）、内で吠えて（大声を出す）威張つとんのをお（て居るのを）言うやんかい（言います）。かまどしよおぐん（竜將軍）も一緒やわい（です）。竜將軍言うて、家で威張つとんのなあ（て居るのです）。

うちま（内間）【名詞】1）家の経済状態 2）家族 親戚 縁者 同族（尾、北）3）内々 内密 うちまの話 [会話] ② ウチマ言うて、家内中の事なあ（です）。家内中の事、ウチマ言うやんかい（言います）。なんやかや世間話しても、ウチマで話す言うう（のです）。ウチマ話やけど（だが）世間では 言はれやせんけど（言えないけど）ウチマ話や（だ）言うて。

うちまあり（うちまはり）【名詞】内廻 内側を廻る事

うちまがええ 裕福だ 生計が立てやすい [用例] あの家 ウチマナエエ もんで（ので）みんな ええ格好しとる（皆よい格好をして居る）

うちまく（内幕）【名詞】1）外からはわからない内部の事情 内情 内実 2）家の経済状態

うちまげんか【名詞】家族、親類、仲間同志の喧嘩 内輪もめ [会話] 家内中で 喧嘩すること、ウチマゲンカな（が）始まんね（始まるのだ）言うて、あんなこげん（彼がこんなに）言うた、どげん（どんなに）言うた、世間の話を 持ちこで（込んで）そんなもと（それが原因）で、喧嘩すると、ウチマゲンカな（が）始まって。

うちまご（内孫）【名詞】自分の跡取りに生れた子 普通 同じ家に住むので言う

うちまた（内股）1）股と股との内側 膝から上の足の

内側 うちもも 股ぐら 2）歩く時、足の爪先を内側に向けて 歩く歩き方 [会話] ② 足の先を、内側に向けんのを（るのを）ウチマタ歩きや（だ）言うのも有るし、① 股ぐらを、ウチマ言うて。ウチマタへ出来もん（物）が、出来て言うやんかい（言います）。

うちまたごおやく（うちまたがうやく）（内股膏藥）【名詞】内股に貼った膏藥が、あちらにつき こちらにつくように 一定の意見主張もなく都合次第で、あちこちにつく事。どっちつかず またぐらごおやく参照（南） [会話] あんたなとこい（貴方の所へ）いても、ええよおん（行ってもよいように）言う、他の人のとこい いても、ええよおん言いますと、ウチマタゴオヤクで、あっちゃい（あちらに）ひつつき こちゃい（こちらに）ひつつき。

うちまのこと 内々の事 [会話] ウチマノコトを 世間え行て よけ（あまり）言うな 言うて。人の家 行て（行つて）おれびや（俺の家は）ととな（主人が）どおで、かかな（母が）どおで言う事を、ウチマノコトを 世間え行て よけ 言うな 言うて。うちま話言うて 家の事 何んでも この仕事な（が）あるとか、何を持って来たとか 買おたとか 言うの、家の事言う事な（です）。ウチマノコト言うと 経済状態 それもあるし 家の中な（が）不安の時や（だ）とか そお言う事を ウチマノコトを 言うなあ（言います）。皆が なんか 桃くくだよんして（ためらうようにして）まあ 何んでも 世間え 行たら（行ったら）ウチマノコト（ことは）よけ喋んな（あまり喋るな）言うて、怒る 人らな（が）あるやんかい（有ります）。

うちまばなし（内間話）【名詞】仲間同士だけの話 内緒話 [会話] 家の中で 家内中な まあ 夫婦と子供やな（です）親やそんだけで（それだけで）家内中な（が）話す事を ウチマバナシ。

うちみ（打身）【名詞】打撲症（阿） [会話] ウチミ言うな（のは）、打つたとこ、ウチミな（が）いとおて（痛くて）言うて。打つて うるくさん（皮下出血に）なったりすると、この ウチミな（が）また おこつて こなええけどなあ（来なければよいが）言うて。ウチミとか うてどとか言うて、うてどな（が）おこつてきて言うてな うてどなおこつてきて 熱な（が）して言うて 言うやんかい（言います）。うてど言う時は前にしたことな（です）、うてどな（が）おこつて言うて、ウチミは 今し 打つたとこな（所が）ウチミな（が）真つ赤んして（にして）あかみ持つとんね（赤色持って居るのだ）とか言うて。

うちみそ【名詞】 自家製の味噌 かいみそに対して（度（小侯））[会話] ウチミソ 家で造る 味噌の事やんかい（です）。家で造る 味噌 買味噌やなしに（でなくて）。

うちむらさき（内紫）【名詞】 ざぼん 果肉が紫色をしているところから（尾）[会話] ウチムラサキ言うな（のは）なりもん（なり物、果物）。

うちもち（家持）【名詞】 1）長男 嫡子（志（片田）、鳥（鳥羽、坂手）、松、度、賀）2）相続人（志、伊賀地方）[会話] ₁ ウチモチ言うな（は）総領の甚八兄貴の事言うの（のです）。

うちもも（内腿）【名詞】 股の内側 うちまた

うちががる 打ち上がる うちあがるの略 [会話] 鯛な（が）浜い（へ）ウチャガッテ来て、川尻で よっけ拾ろた（沢山拾った）事な（が）あんの（有るのです）。

うちやっただ 壊してしまった [会話] 茶碗 ウチャッタタ 皿 ウチャッタタ 言うと、なつともせんと（なにもせず）に おんのに（いののに）うちやれたた（壊れて行った）言うて。誰それん（に）うちやられたた（壊されてしまった）言うて。

うちやったる 壊す 壊してやる（志（畔名、立神））

うちやらかす。うつちやらかす そのままにして置く、うつちやって置く 放って置く [会話] ウチャラカス 言うな、ほったらかす（言うのは放っておく）言う事。放ったらかしといて（ておいて）なんもかも（全部）言うて 放つといて（放って置いて）言う事やろなあ（でしょう）。

うちやる（打破）【他ラ五】 壊す うっちゃる（志（越賀、布施田、船越、志島、甲賀、片田、浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗）、鳥（国崎））[会話] ウチャル。壊す事を言うんやろ（言うのでしょう）。うちやれ言うの（のです）うちやっただ（壊してしまった）。壊れとんのおを（て居るのを）置いて有ると、あや（あれ）うちやれ あいなとこ（あんな所）へ置いて 言うやんかい（言います）壊れたもん（物）。にげ（人間）でも あけすけみたよおにしとんの（あけつぽろげのようにしている）うちやれみたいなあ（のようだ）言うて 言う（言います）。顔な（が）おつきいとさいご（大きいとその時）うちやれみたいな 顔やなあ（だ）言うて、うちやれとる（壊れている）言うねやろなあ（言うのでしょう）。壊れとる言う事を言うねなあ（言うの

うちやれ 家に居ます 家です [用例] 爺さん ウチャレ。

うちやれ【名詞】 1）壊れたもの 破れた物 うちやる 参照 2）あけつぽろげの人 大きな顔 [会話] ₁ かとぶし（鯉節）の ウチャレい（に）すりみ すりつけてなあ 炊くと 鯉節ん（に）じつぱんなつてく（てや）（立派になって行くのです）。ウチャレん（に）紙、貼ると さいとや（だ）言うて。

うちやれぼっこ【名詞】 壊れてぼろぼろになった物

うちやれもん【名詞】 1）壊れやすい物 陶磁器 ガラス製品など 2）壊れた物 [会話] ₁ コップな（が）此処ん（に）あんねよつて（あるのだから）、ウチャレモンやよつて（だから）大事ん（に）せな（しなければ）、きいつけよお（気つけなさい）、てえねん（丁寧）に 扱かわなはざんど（なければいけな）言うて。壊れやすいもん（物）を ウチャレモン言うて。₂ うちやっただ（壊してしまった）のも こや（此れは）ウチャレモン 呉れて言うて。

うちやれる 壊れる（志（鶴方、立神、神明、志島、国府、安乗）、松、伊、鳥）

うちよおじよ（うちやうじやう）（内養生）【名詞】 1）よそへ出かけて行かないで、家で療養する事 2）家の修理 補強 [会話] ₁ わが家で 養生しとんのを（しているのを）言うんやろな（言うのでしょう）、病院え 行かんと（行かずに）家で養生しとんのを（しているのを）ウチヨオジョ。

うちよおてん（うちやうてん）（有頂天）【名詞】 1）軽率 慢心 又、その様 2）夢中 [会話] ₂ ウチヨオテン言うて、夢中になつてく（なっていく）事を、ウチヨオテンになつてく（なっていく）、言うやんかい（言います）。なんもかも（すべて）夢中ん（に）なつて、ウチヨオテンになつて、頭ん（に）血な（が）三合もないねやれ（ないのだ）。あや（彼は）あのおなご（女）に ウチヨオテンになつとる（なっている）、頭ん（に）血な（が）三合もないよおになつとんねど（なっているのだ）言うて、よお（よく）言うわい。ゆいぐさやけど（いいぐさだけれど）頭な（が）かすんなつとる（空、淬になつて）言う意味やろん（でしょう）。

うちら（内）【名詞】 1）台所 2）家計 3）内側（張）4）私達 私は 代名詞（鈴市、安、多、上、阿、伊）[会話] ₁ ウチラ言うて むかしや（昔は）台所の事言いおつたけど（言ったが）、ウチラン あるやんか（有る）言うて、だいどこ言わんと（台所言わずに）ウチラ言いおつたの（言つて居たのです）。ウチラへ行て 持て来い（持つて来い）言うて、お勝手の

事を。4) 自分の事をウチラ言う事も言うけど、此処らでは、わがと、わがとら、おらなとか 言うて。おらな (俺が)、わがと (我徒)、自分の事を、わがと言うて。

うちらがわ (内側) 【名詞】 1) うちがわ 物の内になっている方 内部 内面 (阿) 2) 台所 【会話】 2) うちら言う事は かつて (勝手、台所) の方を 言うねんなあ (言うのです)。かつてもと (台所) の方を ウチラガワや (と) 言うね (言うのです)。炊事場の事をなあ ウチラガワやとか せえじやとかなあ 昔 いろいろと 言よおった (言っていました)。せえじせなはざんしとか せえじもうつくしせえ (美しくしなさい) とか 言うて せえじ言うのと うちら言うな (のは) 同じ意味を 表しとんねけどな (表しているのですが)。かつて (勝手、台所) の事をなあ うちらや言うてなあ うちらも 丁寧にせなはざんわれ (しなければいけない) うちらな (が) 汚いと みつともないわれ (見苦しい) 言うて。

うちらばなし 【名詞】 内緒話 仲間同士だけの、家族だけの間の話 【会話】 うちまばなし うちまばなし言うね ウチラバナシを。

うちらべた 【名詞】 内側 うちがわ

うちわ (内輪) 【名詞】 1) 家族 親戚 仲間等、親しい者だけで、それ以外の者を交えない事 うちうちどおし (津) 2) 外部に知られない内部の事情 うちうちのこと、うちわのこと 3) 数量などを控えめに見る事 4) 足の爪先を内側にに向けて、歩くこと うちまた参照 5) 家計 (一) 【会話】 1) ウチワも うちまも一緒や (です) 意味は。ウチワだけで言うて、家内だけで言う事な (です)。4) ウチワで歩く時に 内股言うの (のです)、あの人な (が) 歩くの 内股やわなあ (だ) 言うて。

うちわがき 【名詞】 明細書 【会話】 うちわけ (内容、明細) 書いてもろて (貰って) 言うのを、明細書を言うねねえんかい (言うのでありませんか) ウチワガキ 言うねよってん (言うのだから) ウチワガキ しもろて言うやんかい (貰って言います)。

うちわけ (内訳) (内分) 【名詞】 1) 事の次第 事情 2) 明細 明細書 金銭の総額 物品の総量に対し、その内容を項目別に細かく分けたもの 【会話】 2) ウチワケ 明細書やなんかのこと ウチワケ書いて貰ろて (貰って) 言うのを、何んやかや 明細書を 言うねねえんかいなあ (言うのでありませんか)。

うちわけんか (うちわけんくわ) (内輪喧嘩) 【名詞】 家

族 親戚 仲間 味方の間での争い 内部のごたごた 内輪揉め 【会話】 ウチワゲンカ 言うのなあ (のです)。家内中で 喧嘩する事 ウチワゲンカな (が) はじまんね (始まるのだ) 言うて、あんな こげん (彼がこんなに) 言うた、どげん (どんなに) 言うた、世間の話を 持ちこで (持ちこんで) すると、そんなもと (それが原因) で 喧嘩するとな ウチワゲンカな (が) はじまって 言うて。世間話を 家い (に) 持ちこんで 喧嘩のもとい (原因に) すると ウチワゲンカな (が) はじまった。

うちわた 【名詞】 1) 着物に入れる綿 2) 打ち直した綿 (南)

うちわたし (内渡) (家渡) 【名詞】 漁船員の給与の一部を家族に先に支払うこと (志) 【会話】 ウチワタシ 言うな (のは) かんじよ (勘定・計算) を、きちつとせん (しない) うちに どんだけでも (どれだけでも) 言うて、えごと (完全に) かんじよな (計算が) わからんうちん (間に)、こんだけ (これだけ) 先い (に) 持てて呉れるかい (持っていてくれますか) 言うのなあ (のです)。そいな (そんな) 時 言うんやんかい (言うのです)。えごと (完全に) かんじよしやせんけど (計算しないが) 先い (へ) こんだけ持てといて呉れるかい 言うたりして かんじよ 皆 貰らわんと (貰わなくて) そすと 後で かんじよして 残りは貰うことん (事に) して、貰う時な (が) あるわい (有ります) えごと かんじよせんうちん。

うちわのこと 【名詞】 家族 親戚 仲間同志の事 他人の入る余地の無いこと うちわ参照

うちわばなし (内輪話) 【名詞】 家族 親戚 仲間同志の間の内密の話。他人に知られたくない内容を持つ話 内緒話

うちわもめ (内輪揉) 【名詞】 内輪喧嘩に同じ 【会話】 家内の中のことを、ウチワモメや (だ) 言うて。

うちん 間に 【会話】 あんな来ん (彼が来ない) ウチン はよしよおや (早くしましう) 言うて、来ん うちに 言うな (言います) ウチン言うて 言うにげもあんなあ (人間もあります)。節句な (が) 来ん (来ない) ウチン 早よ (早く) 麦も刈らな (なければ) 芋も植えな 言うて 来んウチン 言うにげ (人間) も有るし。

うちんなか (家内) 【名詞】 家の中 (南) 【会話】 ウチンナカ言うと 家庭のこと 家の中 言う事なあ (です)。家の中の事を ウチンナカ言うてなあ ウチンナカン 入つとれ (ておれ) 言うてなあ ウチンナカン (に)

ばっか(ばかり)入っておってまあ 言うて 家中や
(だ)言うて 家の中 言う事を ウチンナカ 言う
て。

うっ【他タ五】1) 田畑を耕す(志(甲賀)、鈴市、上、
阿、張、名、鳥(加茂)、南) 2) 錨を下ろす 3) 臭
がする 鼻うつ。すべて物の腐れたるは悪臭気のする
ものなり。是をウツと言う。このウツは匂い鼻を打つ
といふを只うつとのみ言いしなるべし。臭気のする事。
(宇治秘言)(伊) 4) 突き当たる 衝突する 5) 打
つ 叩く[会話] ⁵⁾ 藁 ウツ 杭もウツ とびやげ
て(ぶつかってきて) 来て、頭 ウツ言うし。¹⁾ 畠
ウツ 畠 ウツといて来たわい(打って置いてしまし
た)言うてなあ、耕す言うねけど(言うのですが)、此
処らんのおは(このあたりでは) ウツ言うねよって
(言うのだから)。たあ(田)でも 言うんなあ(言う
のです)。たあ ウツとか。

うつうつ【副詞】半ば覚め半ば睡みっている状態

うつうつする 半睡の状態 うとうとする(志(布施田)、
員)[会話] ウツウツと とろとろと うたたね(転
た寝)する事を ウツウツな(です)、意味は うとう
とと 眠って 言う意味やわな(です)。

うつうん【名詞】大便 幼児語

うっかり【副詞】忘れたり 気付かなかったりする人、
又、そのこと ウカリの促音化(広辞苑)(三)[会話]
うかついとる(ている)事言うんやろな(言うんでし
よう)。ウツカリしとて(していて)、なんもかも忘れ
といてくんなよお(すべて忘れておいてくんな)言う
て。

うっかりと【副詞】うかと つい失念すること(三)

うつぎ(空木)(卯木)【名詞】植物 ユキノシタ科の落
葉低木。各地の山野に普通に生える。高さ1.5～3m、
初夏鐘形の白い五弁の花が円錐状に集まって咲く。茎
は中空、樹皮は淡褐色で鱗状にはげる。葉は対生し、
先が尖った長卵形で縁に鋸歯が有り裏には、星状毛が
有る。実は球形で堅い、材質は堅い。

うつぎむいかに あめふらば いけのまこもの ねがか
れる。うつぎむいかに あめふらば いけのまこも
みなかれる【俚諺】[会話] ウズキムユカニ アメフ
レバやらな(か) フラバやら(か) どっちゃやかな思
うねけどな(どちらか思うが)、雨な(が) どいらい
なあ(大変に)降った年な(が) あってなあ、どじけ
て六日に そしたら(そおしたら) これを考えとれよ
(ておれ)池の まこもな(が) 枯れるか思てな 考
えとたや(ていたら)、その年なあ ひでってひでっ

て(日照って、晴天が続いて) ひでりすえたんよお
六日にどじけたよって なつとなんだ(何んとなるの
か) 考えとよ思もたやな(考えて居よう思ったら)、
その時ひでってなあ まあ何んもかも 皆 枯れつた
んよお(枯れて行きました)。みな枯れる(皆枯れ
る)言うて。池のふちの苔な(が) 皆枯れてく(て行
く)言う事やろな。いけのまこもな皆枯れる言うてな
あ、まあ ほんとんなあ(本当です) これは卯月六日
に雨が降ったら 夏が日照りが続く 言うことやなあ。

うづきよか【名詞】卯月八日 四月八日 花祭り お
づきよおか[会話] こくらん人等 おづき言うねんな
(言うのです)、ウツキ言わんなあ(言わずに)。お
づきよおかは 花より団子言うて。昔なあ、おづきよ
おかんなんとなあ 寺い(え) 甘茶 貰いいて(に
行つて) ほんとん、あさおき(本当に早起き)して
行きよおったけど 今しや(今は) かんおんさん(観
音さん) え行く人らこそなあ 何んやけど(貰うが)、
そげんなあ(そんなに) 行かへんねやろなあ(行かな
いでしょう) 貰いいも(にも)。四月八日 釈迦さえ
甘茶にのろけて まろはだか言うて 甘茶にのろけて
(惚気て) 丸裸や(です) お釈迦さん。

うづきよおかはきちぢつよ かみさげむしを せいぼつ
する【俚諺】虫除けの呪詛

うつくし【美】【形容詞】1) 美しい きれいだ うつく
しいのいの略(志(御座)、員、鈴市、張、伊、北、
南) 2) 完全に すべて(志(布施田))[会話] ¹⁾
綺麗な事を ウツクシ(美しい) なったなあ 言うて
なあ。

うつくしなる 綺麗になる(伊、北)[会話] 綺麗にな
るなあ、なったなあ言うなあ(言います) ウツクシナ
ル言うて。綺麗になったなあ 言うの(のを) ウツク
シナッタなあ 言うて。食器 洗ろてもな(洗って
も) ハイタ(洗剤名)ですと ウツクシナラレ(な
る)言うて。

うつけ(空)(虚)【名詞】ぼんやりしていること、又、
そのような者 馬鹿(鈴市、津)[会話] ウツケ者言
うやんかい(言います)。あの しょぼんとしとる(し
ている)と、ウツケとる(ている)言うなあ しょん
ぼりしとんのをなあ(しているのを) しょぼくれとる
となあ ウツケトテまあ 言うて。

うつけたれ 1) 投げてやれ 2) 投げてやった(志
(浜島、布施田)、度、鳥、松、伊、北、南、熊)[会
話] ¹⁾ 物をウツケル ごおな湧いて(腹が立って)
ウツケタレ言うやんかい(てやれ言います)。²⁾ そ

つと渡しや(渡せば) そや(それ) 言うてやる(言つて渡す) けど、ごおな湧く 時や(は) きっと ウチツケタレ ほん(本当に) うちつけたたね(てやったのだ)、ごおな湧いて ごおな湧いて うちつけといて 来たれ(来たのだ) 言うて。 1) ウツケルは 自分です。 2) ウツケタレ言うのは はた(側) のもん(者) に ウツケタレ言うて 人に言う事や(です)。

うつけられた 投げられた 投げつけられた【会話】 な
んやかや(いろいろ) 放っておこすやんな ウツケラ
レタよお言うて。

うつける。うつつける 打ちつける 投げつける(志
(鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、松、度、伊、
北、南、熊)

うつす(移)【他サ五】 1) 物がある位置から他の位置に
動かす 2) 病気などを他の人に感染させる【会話】
1) 飯ウツス、釜から お櫃い(へ) 取んのを(取るの
を) 飯ウツス。取る言うのを 飯もうつしとけよお
言うて。何かを こちらんのい(こちらののへ) 入れ
かえるとなあ うつしとけ 移し変えて言うてなあ。

うつす(写)【他サ五】 1) なぞる 2) 書き移す 字を
移す意(大言海) 3) 姿などを鏡に写す【会話】 1)
習字を その上 なぞんのを、えどんのを、ウツス言
うて。あやまあ 手本ウツスんかして(のか) 言うて
なあ。 3) 鏡い(へ) ウツスもあるし(あります) 水鏡
見て 顔 ウツスのもあるし。

うっすい。うっすうい(薄)【形容詞】 薄い。うっすうい
は比較級、最大級 1) 物の厚みが無い 2) 味や匂
いが淡い 3) 頭の動きが鈍い 馬鹿(志(鶴方、神
明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、一、松、多、度、
伊、北、南)【会話】 1) ウツスイ言うな(のは)、
ウツスイもん(物) を言うねやわな(のです)。 2)
おつゆ炊いてもな 水臭いのがあでしよ そすと、
ウツスイ。紙もウツスイ のをと、あつつうい
(厚い) のと有るやんかい、ウツスイは 薄いより
もつともつと薄いの ちよいとな(少し)。物凄いうっ
すい時も ウツスイ言うてな、薄い言うのは普通の
ウツスイのおで(ので) ウツスイ言うのは ものす
ごい ウツスイを、ウツスイ ペラペラやよお
(だ) 言うてな。

うつすら(薄)【形容詞】 物事の度合いのかすかな様
かすかに ほのかに【会話】 すどおしは 日な(が)
ウツスラと しとるとこ(している所) は よお出る
(よくはえる)。

うっそ【名詞】【感動詞】 1) 嘘(桑郡、三、四、鈴市、

安) 2) 本当ですか

うったえる(うったへる)【訴】【他ア下一】 要求や不平、
不満 恨みなどを人に告げる うったふ(訴)の口語
【会話】 けえさつい(警察へ) ウツタエル 言うやんか
い(言います)。

うったれ 1) 打つてやれ 打った 2) 撃つてやれ
撃った 3) 売つてやれ 売った

うっちゃげられる 打ち上げられる

うっちゃける うちあける【会話】 心の中を、うちあけ
る言うのを ウッチャケル 言うて

うっちゃげる 打ち上げる

うっちゃらかす。うっちらかす【他サ五】 かまわずにお
く すてておく うちちらかす参照 うच्चやる(打
遣る)の糸訛(志、員)

うつつくし【形容詞】 1) 美しく。綺麗。 2) 完全に。
何も残さず。【用例】 2) なんも残さんと(何も残さず
に) ウツツクシ 持てたれ(持って行った)。

うつつけばい【名詞】 独楽 玩具の一種 円板、又は、
円錐上の胴を 心棒や軸を中心として 回転させて遊
ぶ物 心棒をひねったり 軸に紐を巻き付け引き 回
転を与える【会話】 ばい、さんたろばい、ウツツケバ
イ、ウツツケバイ言う、ばいな(が) 有りおったやん
かな(有ったでは有りませんか)。ハタ、ハト、タコ、
ウツツケバイ。うつつけて(打ちつけて) きっとして
上手かりおったやんかい(上手でした)。ししと巻いと
いて(巻いておいて) ビューと打ち付けて。それから
さんたろばい言うな(のは) 桜の木で こさえんのな
し(作るのですし)。ウツツケバイは こおた(買った)
針金な(が) 通つとる(ている)。ウツツケバイの
うつつける言うのは 投げる言う事や(です)。きりき
り巻いていて(紐を巻き付けて) 打ち付けんね(るの
です)。

うつつける うつけるに同じ うつけるの意を強めた語

うって(売) 売って下さい。うってえ参照(多、松、
尾)

うってえ(売) 売って下さい(多、松、度、北、尾、南、
熊、野)【会話】 ウツテエ、買うことを これウツテ
言うて。売つてやる言うのを 売つたるわ言うて。売
つて下さい言うのを ウツテエ言うて、店の戸を開け
て ウツテ言うて 子らは言よおったわい(言っ
ていました)。今日とはとも 何んとも言わんと(言わず
に) 開けといて(ておいて) ウツテエ言うて、何何ウ
ツテエ言わんと(言わずに) ただ、ウツテエ言うてな、
何か 買いに来たのを 知らず様なもんやなあ(もの

です)、ウツエ言うと 店屋な(店の人が)出て来て
何んなほしんど(何が欲しいのか)言うと、わがとほ
しもん(自分の欲しいもの)取って。

うってかえす 引き返す。反対にする。

うってかえる 1) 引き返す。2) 寝がえりする。(南)
3) 反対する。反抗する。寝返る。(阿、張)

うとし(うったうしい)【形容詞】 1) うるさい。煩わ
しい。うっとうしいの略。(志(鶉方、神明、立神、志
島、甲賀、国府、安乗)、桑市、鈴市、上、伊、北、南、
熊) 2) 蒸し暑い。曇天で晴々しない 3) きたなら
しい【会話】₁₎ ウツシ言うな(のは)其処へ な
んやかやさがとて(何か垂れて居て) おおた ウツ
トシなあ 言うけど(けれど)。下がってきて きいな
おわって(木が覆って、茂って) 来て ウツシわれ
(うっとしいのだ)、切ったらな(切ってやらなくて
は)。₂₎ 天気な(が) 曇つとるひい(て居る日)を、
ウツシひいや(日だ)言うし。曇つとる だけでも
ウツシ、梅雨の時でも ウツシ。ひより(天候
が) な ぐずついとると(て居ると) ウツシ ひい
(日)で言うて。

うとしなあ 天気の悪い日の挨拶 うとしのお参照
(伊)

うとしのお 天気の悪い日の挨拶(南)【会話】 まあ
今日は うとし日やのお(だ)言うてなあ。曇って
晴れ晴れしとらせん時をなあ、曇ったり照ったりした
よな うるだよおな ひい(日)を 今日まあ うっ
としひい(日)でのお言うて 挨拶や(です)。今日は
ウツシなあ言うて、天気のええひいやったら(よい
日だったら)今日は ええひいやなあ(よい日です)
言うんけど(言うが)、今日はウツシノオ 言うて
挨拶や。

うとしひいでのお。うとしひいやのお 天気の悪い
時の挨拶【会話】 今日は ウツシひい(日)ヤノオ
言うて、曇って 晴々しとらせん(していない)時を、
曇ったり 照ったりした、うるだよおな ひい(日)
を、今日はウツシヒイデノオ言うて 挨拶や(です)。
今日は ウツシテナア言うて。

うとらん 1) 売って居ない(張) 2) 打っていな
い 3) 撃って居ない

うとる 1) 売っている 2) 打っている【会話】
₁₎ 何かを ウツトル(売っている)言う、店物屋の人
な(が) 何か置いとると(していると)あの家ウツトル
言うて。ウツトル、₂₎ この魚ウツトルやんか どこか
身が 砕けた様な時にウツシナ(打ってる) いたん

どるやんかい(傷んでいるではないか) 言うわい(言
います)。

うつぶき(俯)【名詞】 うつむき 腹を下にした状態。腕
などを伏せた状態

うつぶく(俯)【自カ五】 うつむく。顔を下に向ける。う
なだれる。頭を下げる。(鈴市、松、多、上、阿、張、
伊、尾、北)

うつぶけ(命令形) 下に向け 頭を下げよ(志(布施田)、
鈴市、松、多、上、阿、張、伊、尾、北)

うつぶけ【名詞】 腹部を下にして臥す。(員、鈴市、伊)
反対の言葉 あおめけ あおのく【会話】 下へ うつ
むく。腹 うつむけで寝ると ウツブケに寝て言うて。
うつむけ言わんと(言わずに)、ウツブイテ 寝て 言
うて。

うつぶける【他カ下一】 容器の口などを、下の方に向け
る うつむけるの変化した語【会話】 生きとるうち
から(て居る間から) 蠅な(が) 鼻へ こおするやん
ない(仔を産むでしょう)。息きったら、すごな(死ん
だら蛆が) 盃 ウツブケタよおん(に) 鼻の先にしと
て(していて)。

うつぶせ【名詞】 1) 顔などを下に向ける事 2) 容器
などをふせておく事

うつらうつら【副詞】 1) うとうと。とろとろ。居眠り
2) 寝入りばな 3) 病気で意識のはっきりしないさ
ま

うつらせん 似合わない【会話】 似合わんと(ないと)
ウツラセンなあ 言うて、此と此とは ウツラセンわ
い(です) 言うて 似合わん(ぬ) 言う事をウツラセ
ンわい言うて。

うつり(写)(映)【名詞】 物事のつりあい、又、色と色
との取り合せ 調和 配合 感じ 感覚 動詞うつる
(写)の連用形の名詞化【会話】 ウツリな悪りな、似
合わんと、ウツリなわり 言うて これと これとは
ウツラセンわい(似合いません) 言うて、似合わん言
うことをな ウツリなわり言うて。

うつりなええ よく似合う

うつりなわり 似合はない うつり参照

うつりやまい(うつりやまひ)(移病)【名詞】 感染性の
病気 感染症【会話】 風邪ひいて、ウツリヤマイ。風
邪ひいてうつて言うて。肺病をうつた言うのも
あるしなあ(有ります)。伝染病やな(です)。はやり
やまいや(だ) 言うのを 伝染して言わんと(言わず
に) うつた言うてな。

うつる(映)(写)【自ラ五】 1) 物事のつりあい 色の

配色などが ぴったりする よく似合う しっくりする うつり参照 (上、阿、張、名、北、南) 2) (移) 物事がある位置から 他の位置に変わる。病気が感染する。火事が飛び火する。[会話] 1) ウツル言うのもよく似合う。よお似合う 言う 意味なんの (なります) ウツル言うの (のは)。

うて【**名詞**】反動 うてる参照 (志 (布施田)) [会話] ウテなくなる。そげんよけ (そんなに沢山) 仕事したらウテな来るに。疲れな (が) 来る言う事をな。働きすぎてまあ その、ウテな来たんなあ (来たのだ) 言うてなあ、先生もまあ 医者もしい あしこいも来てして まあ、ウテな来たんでのお (来たのだなあ) 言うて、先生な (が) くたばる (疲れる) と言うね (のです) その反動言うんかな。

うで【**腕**】**【名詞】** 舟を漕ぐ櫓の上半分 (北、度、鳥、熊) [会話] 櫓のウデ言うの (のは) つなげるやんかい (ます)。裾とウデと、つなげてあって。

うてあう 1) 一緒になる事 出会う (志 (甲賀)) 2) 相当する [会話] 1) あれもきい (来て) これもきい (来て) 一緒ん (に) になると、ウテオタなあ言うて。でやうのおを (出会うのを) ウテアウ。

うてあわせ【**名詞**】打合せ 事前の相談

うてかいる 転ぶ ひっくりかえる うてかえる参照

うてかえし【**名詞**】反動 うてに同じ

うてかえす ひっくり返す 裏返す (志 (鶴方、神明、国府、安乗)、阿、張、名) [会話] ウテカエス言うな (のは) うつぶいとののおを (俯いているのを) あおむけんすんのを (ににするのを) ウテカエス言うけど (言います)。そすと (そうすると) 物な (が) 俯いとても (て居ても) ウテカエラントケ (ておけ) 言うし (言います)。ひっくり返す でんぐり返す。ウテカエルは 自分で 返んのなし (返るので) うて返せ言うと 人な (が) 返すの (のです)。

うてかえってく 倒れて行く ひっくり返って行く [会話] どんでんがえり ウテカエツテクのを

うてかえってくど ひっくり返るぞ

うてかえらす (打返)【**動詞**】ひっくり返す 裏返す うてかえす参照 (志、名、阿、張)

うてかえる (打返) 1) ひっくり返る うてかえす参照 (志 (浜島、鶴方、神明、国府、安乗)、鳥 (加茂)、一、多、上、阿、張、名、度) 2) ぴったりする (志、鳥)

うてかやす 反転させる 引っくり返す (志、上、阿、張) [会話] ウテカヤスも、うてかえすも 一緒や

(です)。風な ウテカヤシテ来た。わがとらも寝ても寝苦しもんで あっちゃいかえり こっちゃいウテカエツテばつか (ばかり) おった言うて、よさり寝やれやせんと (夜寝れないと) ウテカエンネ。ウテカエスも、ウテカエラスも一緒、ウテカエス言う時は 自分でする ウテカエラシテもろた 言うのは 人な して なあ、ウテカエラス言うのは 人な (が) して呉れんのなしなあ (呉れるのですし)、ウテカエツタ言うな、わがとやしな (のは、自分です) ウテカエルも それと一緒にやし、ウテカエス言うとだ こっちゃ向いとんのを ま、人な (が) かやして呉れんのを (るのを) かやす言うんやろな (言うのでしょうか) わがと、かえんな かえる言うし。

うでだこ (茹蛸)【**名詞**】酒を飲んで赤くなった顔 ゆでだこ

うでたまご【**名詞**】茹で卵、煮卵 (南) [会話] 煮卵、煮卵の事を ウデタマゴ言うの (のです)。ゆでる言う事を うでる言うの (のです) 茹で玉子言うの (のを) ウデタマゴ。うや (です) ウデタマゴや (です)。

うてど【**名詞**】打撲症の後で痛むこと (志 (布施田)) [会話] 打ったとこ (所)、傷やなしに (でなくて) ウテドな (が) おこった言うやんかい (再発した言います)。打った後で おこってくんの (来るのです)。打った後な (が) ウテド言うて、ウテドな (が) おこって言うて よお (よく) 昔の人ら 言うとた (て居た)。打ってすぐのは うちみなし (ですし)、後で傷んでくんの (来るの) ウテド、打った後なあ (が)。

うてなくなる 疲れる 反動が来る [会話] 疲れた 疲れるのを うてて言うて、ウテナクル うてな来た 言ううね (言うのです)。

うでぬき【**名詞**】手甲 (志、松、伊)

うでまくら (腕枕)【**名詞**】ひじ枕 枕の代りに腕を使用する (鈴市、安、上、阿)

うてる (被圧)【**自タ下**】1) 疲れる 2) 死ぬ (伊) 3) なくなる [会話] 1) 元気がウテル言うのもあるし、体もウテテなあ 寝やんならん (寝なければならぬ) よおん (に) なる事も ウテル言うて 疲れた 疲れるのをな ウテル、言うてなあ。

うでる (茹でる)【**他ダ下**】ゆでるの転 うだる参照 (志 (浜島、甲賀)、鳥 (加茂、鳥羽)、桑郡、桑市、員、四、三、鈴郡、鈴市、一、松、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊)

うでんげのはな (優曇華花)【**名詞**】うどんげのはな 梵語 ウドンハラゲ (優曇波羅華) の略。昆虫クサカゲ

ロウが他の物に産みつけた卵の俗稱。2 cm位の白い糸状をした柄の先に丸い卵をつけた物を一ヶ所に産みつけるので花の様に見える。うれんげのはな参照

うとい (疎) 【形容詞】 1) 物分が悪い 頭が鈍い 愚だ 馬鹿だ、うとい うとお うとけ うとんぼ うとんぼけのうとは、疎(うつ 空の転) 内部が中空である事 からっぽ 頭の中がからっぽ→馬鹿(志(布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、尾熊、南) 2) 耳や目、体の働きが悪い [会話] ₂₎ ウトイ言うな (のは)、のろのろしとる (して居る) 事言うなあ (言います)。ウトイねよってん (のだから) あや (彼は) まあ どいらい (大変) うとんぼやなあ (だなあ) 言うて、のろのろしとる (している) 言うのを。ウトイね (のだ)、あや (彼は) まあ どいらい うとんぼやどお (だぞ) のろまの事を、ウトイ言うて。

うとうと 【副詞】 1) 睡くなる 居眠り 2) 寝入りばな うつらうつら参照

うとお 【名詞】 海魚 おはぐろべら 海の中でもぼんやりしている様に見える事から うか参照

うとお (うとう) 【名詞】 馬鹿 うといの、うとを活用した語(志(布施田)) [会話] ウトオよ (奴) 言う。うとい事を。其処の ウトオの はてなしや (果て無し、終わりが無い) 言うて。ウトオや (だ) 言うて 昔の人ら よお言いおったなあ (よく言っていました)。ウトオよ言うて、わるわれるときん (怒られる時に)、ぼんやりしとて (していて) そこらのもん せんとおつて (その辺の仕事しないで) ウトオよ言うて。よおわる われ居ったてや (よく叱られて居ました)。

うとおこおばい 【名詞】 うとおに同じ 馬鹿 まぬけ こうばい₄配 要領

うとくじん (有得人) 【名詞】 裕福な人 金持ち

うとけ 【名詞】 馬鹿 うといのうとを活用した語(南) [会話] ウトケや、うとおや言うて。よお似た事や (です)。ウトケ ほぼとんねよって (頬張る、ロー杯物を入れるのだから) 言うて。うとおこおばい よ言うて。ほばるも こおばいも あとごとやわい (付足の言葉です)。その付け言葉。うとお言うて うとんぼけのはてなし (果て無し) うとおの抜け作よ言うて。わるわれる (怒られる) 時 そいなの (そんなのを) よお言われるわい (よく言われます) こおばいは うとおこおばい へいしろ (卑しん坊) こおばい言うて、あとごとや。

うとけこおばい 【名詞】 うとおに同じ 馬鹿 まぬけ

うとけほおらい 【名詞】 馬鹿 うとけに同じ

うとけほぼとる 【名詞】 馬鹿、馬鹿だ うとけ参照

うとけや 【名詞】 馬鹿者 ののしる語

うとさぞい 平素ぼんやりして居るようだが いざと言う時働きをする事 [会話] ウトサゾイ言うて、とんぼりしとても (ぼんやりしていても) いざ 言うたら手早よお (やく) なんでも 人より先にする。あや (彼は) ウトサゾイねよって (のだから) うとんとしとるよおやけど (だが) さあ 言うてくると さぞい (機敏) ウトサゾイんで (のだ)。

うとた 1) 疲れた 2) 歌った(桑郡、桑市、員、鈴市、津、松、北、伊) 3) 悲鳴をあげた。降参した(志(布施田)) [会話] ₁₎ ウタタ言うのも 疲れてあの子あ (は) ウトテタレ言うねわい (言うのです)。疲れて寝とんのを (寝ているのを) くらった事を、ウタタ言うてなあ。疲れて休むと ウトテタレ言うてな。ウタタ言うのは ₂₎ 歌もウタタ ₃₎ 体な (が) よおいごかんよんなると (うごけなくなると) ウタタ言うて、両手あげた言う事やわいな (です)。まあ ウタタ言うて 手 上げるやんかいな (ます)。

うとたれ 1) 歌ってやれ 2) 歌いました 3) 疲れた、疲れました

うとて 1) 歌って(三、鈴郡、鈴市、安、松、度、伊、南) 2) 疲れて

うとてく 1) 疲れた 2) 負けて逃げて行く 3) 死んで行く [会話] 一緒やなあ うとたも、ウトテクもな ₂₎ ウトテク言う時は 負けて逃げてく言う様な事やわいな (です)。働き 仕事に負けた言う事やよってなあ (だから)。

うとてた 1) 負けた うとた参照 2) 死んだ 3) 泣いた 4) 破産した 5) 歌って行った

うととる 1) 歌って居る(志) 2) 疲れている 3) 悲鳴をあげている [会話] ₂₎ 何んもせんと居るとあや、ウトトンネなあ 言うてなあ あやま、仕事ウトテあやれ言うて。

うとまし 【形容詞】 いやらしい 気持が悪るい

うどんこ (饅頭粉) 【名詞】 うどんを作る粉 小麦粉 多くうどんを作る事から(桑市) [会話] 団子汁 おつけい (味噌汁へ) ウドンこでも、そばのこお (粉) でも こねて入ると うまいんなあ (美味です)。

うどんばら (饅頭腹) 【名詞】 うどんだけで腹を満たす事 すぐ空腹になる 力が入らない

うとんぼ。うとんぼけ 【名詞】 馬鹿 うんとんぼお: 曇天坊の転 晴れないと言う所から 人をそしる語(志(甲賀、神明、安乗)、阿、張、名、一、度、熊)

うどんぼのはてなし【名詞】大馬鹿者 際限のない程の馬鹿 うとけ参照

うどんやぐすり【名詞】風邪薬

うな【代名詞】対稱 貴様 おまえ (志 (船越))

うないどし【名詞】同年生まれ うなんどし参照 (員、上、阿、鳥)

うなぎ【名詞】1) うつぼ うつぼ科の魚 胸鰭と腹鰭がない黄褐色で、黒褐色の不規則の紋がある 尾鰭のへりは白い 歯は強力で これに噛まれると非常に痛い。全長60 cm以上になる。肉は食用となるが市場には殆ど出ない。鰻は、かわうなぎと呼ぶ。(志) 2) のろまな人間 [会話] 1) ウナギ言うのはウミノウナギ。海のウナギも言うし、2) にげ (人間) の、のろのろしとる (している) のも ウナギやよってん (だから) 言うて。人の言う こた (事は) けえも聞かんと (少しも聞かずに) なんやら (何か) つかみ所が無い よおな ウナギみたいんしとて (のようにしていて) 言うて。 かいいに、こたえな (あまり手応えが) 無いのを 言うんやろ (言うのでしょう)。川のウナギは、カワウナギ 言うて、1) 海のウナギは ウナギで 骨は ものすごお悪いねんなあ (大変悪いのです) じょおほお (両方) 骨な (が) 尖がとんねてわい (尖っているそうです)。そやもんで (それだから) めったんたてまい、立ったら抜けまい (立つことは無いが、立ったら抜けない) 言うねど (言うのだ) 言うて、わしらな (の) 姑婆さんな (が) じょつく (いつも) ウナギ食うよおんなんと (食べるようになる)。じょおほおな ちょんぎとるもんで (鋭く尖って居るので) そして 先な (が) ふたまた (二股、Y字形) になとるんなあ (なっているのです)、枝に、わしらの子供の時分にや (時には) ウナギや (だ) 言うて 食うた事なかったねんなあ (食べた事は無かったのです)。釣りん (に) 行く人ら よお (よく) 釣りん (に) 行きおったけど (行って居たけれど)。わしげのお父さん よお、たあ (よく田) へ 掻きん (に) 行きおった (行って居ました)。そやけど (それだが、しかし) わしらの口へ めったに入ろかい (絶対に入りません)。土用の丑のひいん (日に) になると さわ餅 食うな (食べるのが) 関の山や (です)。昔や (昔は) 丑の日ん (に) 食うと 腹のわたん (に) なんねてわい (なるそうだ) 言うて。こんな (此れが) 腹わたん (に) なんねかい なあ思て (なるのかなあ思って) 子供の時分に 思いおった (思っていました)。ウナギやどき (うなぎのような物) わしらの口へ入ろかい (入りません)。

うなぎかご【名詞】1) 捕ったうなぎを入れる竹製の籠 2) うつぼを獲るための道具 (志) [会話] 1) ごとひき 奈良の水取りな (が) 済むと 取りん (に) 行くんやんかい (行きます)。おとおさん (主人、夫) と捕りんいて (に行って) ウナギカゴ一杯も とて来た (捕って来た) 事なあんね (があるので)。

うなぎめし【名詞】1) 蒲焼を小さく刻んでたれと共に飯に混ぜたもの 2) うつぼを小さく刻んで御飯と一緒に炊いたもの [会話] 2) 海のうなぎ (うつぼ) でも ウナギメシ しいおったやんかい (して居たで有りませんか)。うなぎ (うつぼ) の開いたのお (のを) こまこお (小さく) 切っといて (切っておいて) ウナギメシや (だ) 言うて しいおったね (して居たのです) こまこお切んの (切ります) 口にかからんよおに。うまかりおったのお (美味でした)。ウナギメシや (だ) 言うて きんのを (切るのに) うっすう (薄く) へぐ (削ぐ) と、骨は無いわい (有りません)。お お (尾) の方は 金槌で 石の上で つついたとと (てやると) 骨な (が) へしよれてく (折れて行く) やんない (でしょう)。そやよって (だから) 尾のとんがり (先端) でも 喰われるねんな (食べられるのです)。煮つけても、叩いて尾の方は こまこお (小さく) 叩いといて (ておいて) すると、骨な (が) 皆きれてくやんかい (行きます)。うなぎの骨は立つと (咽に突きささると) じょおほお (両方) が、とがとるもんで (ので) “うなぎ 喰うたら滅多に たたまい たったら抜けまい” 言うもんやどを (言うもので) 言うて。

うなぎばり【名詞】うなぎを釣る鉤 [会話] ウナギバリ ウナギバリはどいらい (大きい) はりやけど (だが)、川で釣んのわ (釣るのは) ちっちゃいけどな (小さい) が 海で 釣んな (釣るのは) どいらい のをな ウナギバリや (だ) 言うてな。

うなし。うなじ 同じ (志、鳥、鈴郡、員、三、鈴市、度、伊) [会話] しゃごめ言うなあ (言います)。こごめ 言うのも ウナジ意味やろけど (でしょうが)。

うなじ【名詞】首の後の部分 ぼんのくぼ 項 頭 [会話] ウナジ言うと、頭なあ (です)。ウナジな (が) あがらん (あがらない) 頭の事を言う。あれ (彼) には ウナジな (が) あがらんわれ (あがらない) 言うて。

うなだれる (項垂)【自他ラ下一】1) 心配 落胆 悲しみ 恥ずかしさなどのために 気持ちさが沈み込んで 頭を前に低くたれる。うつむく 2) しおれる

うなづいたれ 頭を下げた 承知した 稲や麦の穂が垂れている 萎れている [会話] 稲でもなあ、寝てくと (倒れて行くと)、風で ウナズイタレ言うて、屈んでくと (で行くと)。

うなづいとられ 倒れて居る 屈んで居る [会話] ウナズイトラレ 言うな (のは) ちょいと (少し) 頭 垂れて。

うなづく (うなずく) (頷) 【自カ五】 1) 頭を下げる うなだれる 2) 黙礼する 3) 承諾の合図 4) 萎れる [会話] 1) なっとも言わんと (何とも言わずに) ウナズイタナイ (ていった) 言うて。頭をさげて。ウナヅク言うな (のは) おじぎした事。3) そすと相手と話しとて (していて) うんうん (はいはい) 言うて ウナヅク。そおやなあ (その通りです) 言うて 首振んの (首を振るのを)、ウナヅク言うて。

うなづけ (うなづけ) 倒れよ 屈め 下げよ [会話] 頭 ウナツケ 言うて。

うなめ 【名詞】 1) 人の注意を聞いても聞いたふりをして聞き流す人 2) 女性に対する卑称。おなめ参照 [会話] 1) ウナメ言うな (のは) 人な (が) なつと言うても、言うたれ (何と言っても言っておれ) 言うた よんして (ようにして) よそ見 (余所見) して しとんのを (しているのを) ウナメ言うね (のです)。あや、ウナメみたよんしとんね (のようにしている) 言うて、ますらみたよんしとる (そらとぼけたようにしている)、言う事 耳のぼちい (耳の穴へ) 入れんと (ずに) 居ると、あの人 ますらして (そらとぼけて)。ウナメみたよん しとる言うな (言うのは) 知らん顔して、人な 何んやかや 問おても (尋ねても) 答えもせな (しなければ) わがとも言わへんしなあ (自分も言わないし)、言うたれ 言うたよんして (ようにして) 知らん顔してしとんのを ウナメ言うね (言うのです)。

うなり (唸) 【名詞】 1) 風の後側につけて音を出す構造 2) 強い風の音 3) 苦痛を訴える声 (四) [会話] 3) ウナリな (が) 来た言うて、腹な (が) 痛い言うとうなるし、食べすぎると さいご (その時) うんうん言うて ウナリな (が) 来る程 食べて あやれ (あれ) 言うて。1) 風でも紙切って 付けて、あれもウナリ 風な うなん (る) のも 風ん (に) 乗って あれもウナリ言うやんかい (言います)。ブウン ブウン言うて ぶんぶん風や (だ) 言うて うなよおったやんかいな (うなって居ました)、ブウン ブウン。2) そしてそれ 風がきつう (強く) 吹いて来てすんの (するの) も あやれまあ ウナルよおななあ (だ) 言

うて 風がなあ ごおお言うて。

うなりなきた 1) 強い風が吹く 2) 疲れる [会話] 1) 風なよおけ 吹いても ウナリナキタ 言うて、2) 人間も ちょいと (少し) 疲れて 寝て うんうん言うて あや (あれ) ウナリナキタレ言うて。ウナリナキタは 風が よお (よく) 吹いたのも 言うけど (が)、人間も くたばって (疲れて) 寝て えらかつた (大変だった) 言うて ウナリナキタ 言うて、くたばって (疲れて) ウナリナキタ言うて。

うなる (唸) 【自ラ五】 1) 金などを多く貯えて持つ 2) 声をあげて苦痛に耐える 呻吟する (津) 3) 疲れる 4) 強風が吹く [会話] 4) 風な (が) よおけ (沢山) 吹いても あや (あれ) ウナルナア 言うしな、3) 人間も ちょいとまあ 疲れて寝て うんうん言うて おや (俺は) ウナルヨオ 言うて。ウナル、風がよお吹いたのを (の) も 言うけど (が)、人間もなあ くたばって (疲れて) 寝て えらかつた (大変だった) 言うて ウナル 言うて くたばって ウナリな 来た言うて。

うなんどし 【名詞】 同年生まれの者 おないどし おなんどし (志 (布施田)) [会話] 私とあんた (貴方) と ウナンドシやなあ (だ)。うないどしや (だ)。

うにみそ 【名詞】 うにと味噌を混ぜたもの 副食 [会話] ウニミソ 海胆の焼いたのを 味噌で まめんですん (のを (混ぜてするのを) ウニミソ 美味いわい (です)。

うぬ (汝) 【代名詞】 相手をののしって言う語 お前 (志、員、三、鈴郡、鈴市、度、伊)

うぬめ 【代名詞】 奴 お前 うぬに罵りの言葉めのついたもの (日本国語大辞典) (員)

うぬら 【代名詞】 お前等 (志 (波切)、三、鈴市、津、松、度、伊、鳥)

うねあげる 畝を作る 植物を作る前に 畝をととのえる [会話] 鋤でなあ 畝をたっこおもんのを (高く盛り上げるのを) 土 もんのを ウネアゲル言うて。

うねきりあめ 【名詞】 整えた畝を壊す程の雨 長雨、大雨 [会話] 雨な (が) 降ると 雨な (が) 畝をうちやって (壊して) 流れるのおを (のを) ウネキリアメ言うね (言うのです)。畝の山、盛って有んのを (有るのを) まん中を おし切ってて (押し流して) 溝んしたんねわい (溝にしてやるのです)。ウネキリアメ言うな よつけ (沢山) 降って はさこいよつけ (間に沢山) 溜まって、畝の山を ま 割ってく (割っていく) のを、ウネキリアメ。それが済むと 畝はぺしやんこん (に) なつてく (なつて行きます)。その水

な (が) 押した所は まあ ぺしゃんこんなってくけ
ど (な^てて行くが) 水あんまり (あまり) よお押さん
とか (所は) 山んなつとるな (山になっています)。

うねくる【自ラ五】曲る

うねつくる 畝を整える

うねり【名詞】大きく起伏する海の波 波長及び周期が
長く、波の山が丸く波高の大きい波 (志) [会話] 風な
(が) 西風のおやなあ (時は) すべつとしてくし (滑
らかになっていきます)、こち風ん (東風に) となると
ちよいと (少し) うねつてくんね (来るのです)。波は
しら波んならんと (白波にならずに) 山んな^てて (山
になって) うねつてくんの (来るのを)、ウネリ言うの
(のです)。ウネリな (が) 来たよ^{つて} (から) 時化な
して来んねなあ (時化がして来るのだ) 言うて。波な
(が) おこ^{つて}くんのかして (高くなって来るのか)
ウネリな (が) 出来て来た言うて、波な (が) おこ^つ
て (高くなる) 来る前にうねつてくんね、白波んなら
んと (白波にならずに) それをウネリ言うの (のです)。
白波言うな (には) 砕いて (砕けて) しいるおなるや
んない (白くなるでしょう)、島い (へ) うちつけて
(ぶつかって) 波なたつこお (が) 高く) 上^{つて}、そし
て、うちやれて (壊れて) しいるおなんのを (白く
なるのを) 白波だ^てて来た言う。ウネリ言うな 何んも
波なせんと (がせず)に 山んな^てて、たつこお (高
く) な^てて 船ん (に) 乗つとると (乗っている)
酔お^て来るわい (来ます)、ウネリな (が) して来ると。
こち風な (東風が) 吹いて来るとな まあ 海な
(が) うね^てて来^てて ウネリなして来^たよ^{つて} 波な
(が) して来んねなあ (来るのだ) 言うて。

うねる【自ラ五】曲る 歪む 湾曲する

うの【代名詞】汝 お前 目下の者に使用する (志 (波
切、磯部、片田、浜島、布施田、鶴方、神明、志島、
国府、安乗)、鳥 (石鏡 鳥羽、加茂、菅島、神島)、
安、一、多、度、北、南) [会話] お前 のら (お前
よ 言うのを。ウノら言う人も居るなあ (居ます)。ウ
ノら言うよおな言葉 年寄な (が) 言いおったけど
(言っていたが) わしらの時分は のらよ言うて、の
ら なとしとんねど (何をしているのか) 言うて。

うのくび【名詞】うのくび結び ひもの結び方
輪を二つ作り それを重ね合わせて結ぶもの [会話]
鱧網とる (結ぶ) 時に 結ぶのは ウノクビ。真ん中
から きゅつと あわして (合わせて) 二つ輪こさ
えて (作^{つて}) 重ねてすんの (するのです)。ウノクビ
あや (あれば) めったんほどけやせん (絶対に解けま

せん)。

うのせ【名詞】東北 東北風 (志 (志島))

うのせまわり【名詞】東北の風が南に廻る事 (志 (越
賀)) [会話] ならいな (東北風が) 吹いて来ると、ウ
ノセマワリやなあ (だ) 言うて。まぜに (南風) 廻^つ
て来るの (のを) ウノセマワリや (だ) 言うて。

うのめ【代名詞】お前 うぬ (奴) に関係有るか (志、
鳥)

うのめ【名詞】機敏である [会話] うなめ言うのは、馬
面、なめとこ (はっきりしない人) で、ウノメ言うの
は ささこし (機敏) 事を言うねんな (言うのです)
反対やんな (です)。うなめ言うな なめとこみたよん
しとる (のようにしている) 事を言うし、ウノメ言う
のは ううな (鶴が) とと (魚) 飲むの (のに) たく
ましするやんない (力強くするでしょう) そげなのお
を (そんなのを) 例えんねやろん (例えるでしょう)。
ウノメ鷹の目言うんよつてな (言うのだから) うう
(鶴) や 鷹は いきよいな (勢いが) えらいやんな
い (大変でしょう)、いきよいなえらいよつて いきよ
いな たかも時言うのなし (のです)。

うのら【代名詞】お前ら 貴様ら 二人称 相手をの
し^てて言う うぬら (志、北)

うばぜき【名詞】1) 百日咳 2) 百日咳の様な
いつまでも 続く咳 ばば咳 (志 (甲賀、立神、神明)、
北、多) [会話] 昔の人ら ウバゼキや言うてな、ばば
咳の事。爺な (が) せいても (咳しても) 婆咳か言う
て言い居^{つた}。一羽の鶏でも にわとりや。

うぶ (生) (初) (産) 性質のすなおな事 世間の事を十
分知っていない様 特に男女の情に通じていない様
[会話] おぶこい (幼稚な) 事な、おさない (幼な
い) ことな、ウブなよ^{つて}ん (だから) ウブやよ^{つて}
ん 言うて。

うぶから 初めから 物心ついてから

うぶぎ【名詞】(おぶぎ) 出産祝いに持っていく
着物 生れた子に初めて着せる着物 (志 (鶴方、的矢、
布施田)、鳥 (鳥羽、相差、坂手、答志)、上、阿、張、
名) [会話] ウブキ言うな (のは) 初めてのこお (子
に、赤ちゃんに着せるのを ウブキ言うなあ (言いま
す)。おぶぎ言う人間も有るね (有るのです)。ウブキ
や (と) 言う事を おぶぎや (だ)。なんのこなしに
(気にせず)に 言いよい (言いやすい) よおに おぶぎ言うて。
そして うぶな (初な) 言うのを 此処ら おぶこい
言うんよつて (言うのだから)。おぶぎ言うのも一緒や

わい(です)。

うぶこい【形容詞】青年になっても色気のないこと

うぶこもん【名詞】思春期になっても色気の無い者 [会話] 色気づかせん (づかない)、あや、おくてで (彼は遅くて) うぶこおて、ウブコイ言うのを、おぶこい言うの、おぶこもん(者)言うの (のです)、ウブコモン言うのを。

うぶな 世間慣れしていないこと うぶこもん参照

うべ (郁子) (野狐)【名詞】むべ 植物 あけび科の常緑 蔓性低木 むべ アケビ科ツル性の落葉樹、別名 トキワアケビ、葉は革質で小葉は5~7枚、長橢円形、又は、倒卵形で裏面には著しい網目が有る。4~5月頃3~7花が集まって白色に淡紅紫色の筋のある香りのよい花が咲く。雌花と雄花の別が有り、雌花は雄花より大形で数が少ない。花卉が無く、顎片が6片あり、外側の3片はやや広く雄花には6本の雄しべ、雌花には3枚の子房が有る。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、員、鈴郡、度、伊、鳥、北) [会話] うべ 言うな (のは) ももな (果実が) こお 開いとんのなあ (開いています)、いつつ (五) はあな (葉が) あって ひらひらん (に) になって じいな (痔が) 出ると うべな (が) 開いた様ななあ 言うやんかい (言います)。みい (実) なパンと あっこお になって あからむ (熟すると) と さいご (その時) 割れて来るやんない (でしょう)。そすと うべな (が) 開いた様な (だ) 言うて。じくすると、みいな (熟すると果実が) 出て まっかんなって (真っ赤になって) 来るもんで (ので) そすと 何んか あつかい (何か赤い) の見ると あや (あれ) うべな (が) 開いたよんしとられ (している) 言うてなあ。うべな (が) 開いたよおななあ (ようだ) 言うて。できもん な (出来物が) うじゃけて来ると うべな (が) 開いたよおにしとる (していて) 言うて、よお言いおった (よく言っていました)。うべ言うのは 五枚 はあ (葉) があって あけびが有るやろ (有るでしょう)。あれ みたいないけど (よく似ているが) まるくたいんなあ (丸いのです)。そして 庭木に植えとるんなあ (て居ます)、うべは。突き目の めぐすりなあ (に) うべを つけおった (つけました)。

うべら【代名詞】お前達

うま【名詞】踏み台 脚立 (志、鳥、張、南) [会話] ふみつぎ (踏み台) を ウマ言うて。ウマ借って来いまあ (借りてきなさい)、すすとりすんのん (大掃除するのに)。

うま【名詞】気性 ウマがあう (志 (甲賀)、鳥)

うまあけてく 終わり [会話] たける (盛りを過ぎる) ウマアケテク 終わり言う事やなあ (です)。

うまい【形容詞】1) 味がよい 美味しい (志、多、伊、南、熊) 2) 上手だ (熊)

うまいぐあい 好都合 (志、鳥 (相差)) [会話] ウマイグアイ言うな (のは) 調子よお行た (よく行った) 言うこと、えらい (大変) ウマイグアイん行たなあ (に) 行た) 言うて、キチットあうとなあ 何んでも 合わしたもんな (ものが) きちっと合うと まあ ぐあいよお行たなあ (行た) 言うて、仕事もうまいこと出来るとなあ うまいこと行たなあ言うて ぐあいよお ひつついたなあとか。

うまいこっちゃ 1) よかった 2) 得をした

うまいこと 1) お世辞 うまく たくみに まんまと (志、津、阿、張、名) 2) 上手に うまく (伊、熊) [会話] ₁₎ ウマイコト言うて 上手に言うて 誤魔化して言うて。ウマイコトイイななあ (が) 言うて。上手に言う 言う事や (です)。ウマイコトイイヤ (お上手者だ) 言うて。

うまいこといい【名詞】お世辞者 おべっか使い うまいこと参照

うまいことした。うまいことやった 1) 上手に出来た 2) まんまとせしめた 得をした [会話] ₂₎ ウマイコトヤッタなあ 言うと、人のもん (物) を あてん せんのを (期待しないのを) もろたり、ひろたり (貰らったり拾ったり) とか、あてんせんもんを した時 ウマイコトシタなあ こや (これは) 言うて。思わんもんを (ぬ物が) 入って来ると、ウマイコトシタなあ 言うて。話でもええ (よい) 話しやと (だと) そげん (そんなに) 言うし、₁₎ 結婚が決まった 言うて、ウマイコトシタ言うて 言う訳や (です)。好都合で ウマイコトシタなあ 好都合に いた (行た) 言う事 やなあ (です)。

うまいもん【名詞】1) 美味しい物 御馳走 2) 上手 3) 得だ [会話] ₁₎ ウマイモン言うて、おいしいもん (美味しい物) ウマイモンよばれて。₃₎ 財産も金もあって 何もかも有ってなあ そしてまあ わがとも (自分も) 位もあって すんのを (するのを) あの人まあ ウマイモンや 何もかも有るし 物も出来るし 言う場合も使うな (使います)。

うまいもんくい【名詞】美食家 [会話] 話し食いで なんでも (何でも) 言うたら、すぐん (に) そんな食いたな (それが食べたくなくて) ウマイモ

ンクイやわい (です)。

うまいもんのづく【**名詞**】沢山の美味な物 うまい物づくめ【**会話**】ウマイモン ノゾク食うて 今しゃ (今は) 言うて。づく言うて いろいろの物を 品品言う事やなあ (です)。うまいもんの よれ (沢山) 食うて言うのを、ウマイモンノゾク。ウマイモンノゾク 食とんねもんなあ (食べているのだから)、ぜえたく (贅沢) で言うて。いろいろとか 品品とかなあ。ウマイモンノゾクやんかい (です)。

うまいもんや 1) 上手だ 2) 好都合だ (北) 3) 美味い物だ【**会話**】₂₎ ウマイモンヤ (だ) 言うて 何でもまあ 不自由なしになあ しとる事 (している事) を、まあ ウマイモンヤなあ (だ) 言うて。自分の仕事も うまいこと行て (行って)、金もあるし まあ 何んもなあ 不足な事な (が) ない人をなあ、あの人まあ ウマイモンヤなあ (だ) 言うて 言うの (です)。

うまいわい。うまいわな (女性語)。**うまいわれ** 1) 美味だ 2) 上手だ【**会話**】₁₎ こや (これは) ウマイワレ 言うて 旨いな (のは) 言うし。

うまいんてわい。うまいんてわな (女性語)。**うまいんてわれ** 1) 旨いそうです 美味しいそうです 2) 上手だそうです【**会話**】₂₎ あの人 弁説な (が) ウマインテワレ 聞きんこや (聞きに行きましょう)

うまうま (旨旨)【**名詞**】食べ物 幼児語 まんま うまんま 元は乳味よりおこって食物に移った語 (大言海) (志 (布施田)、員、張)【**会話**】なんやかや 食べるもん (物) を ウマウマ ウマウマ 言うて。初めの言い出しん (に) 言葉のはじまりん (始めに) ウマウマ言うて。

うまがあう 気が合う あう 合う 二つ以上物が一つに集まる 混じって一緒になる。二つの物が、隙間なくぴったりと合致する。基準標準と一致する 二つの物が調和適合する その人の好みになかう (志 (浜島)、鳥)【**会話**】ウマガアウ言うて、話し しとると (して居ると) お前が どおでなあ言うて そおやったなあ言うて うま合わすの (のを)。話し 合わすの (のを) ウマナ (ガ) アウ。

うまかいおった 1) 美味だった 2) 上手だった うまかりおったに同じ

うまかた (馬方)【**名詞**】駄馬で貨客の運送を業とする者 馬子【**会話**】馬使う人 ウマカタ

うまかよおった。うまかりおった 1) 美味だった 2) 上手だった【**会話**】₁₎ うまかった、どいらいあ

んな (大変あれが) ウマカヨオッタなあ言うて。うもおて (美味くて) おいしいのを ウマカヨオッタなあ言うて、あれ食うと ウマカヨオッタやんかい (です) 言うて、食うとさいご (その時) ウマカヨオッタ言うて、ウマカリオッタナア言うのを ウマカヨオッタなあ、カヨオッタなあ言うねんな (言うのです)。ウマカヨオッタ言うねんな、ウマカイオッタなあ言うて、うまかった言う事を うまかって あれ食うと ウマカヨオッタなあ言う。芋飯を あの ぬくたいのい (温くたいのに) ちゃあ (茶) 掛けて食うと ウマカヨオッタナア言う。

うまくさい (旨臭)【**形容詞**】美味な匂いがする うまそうだ うまい 飲食物の味がよい 美味である おいしい 技術 技量がすぐれて居る 腕がよい 上手だ 自分にとって好都合だ くさい 鼻をつまみたくなる様な嫌な匂いがする 体言及びそれに準ずるものについて いかにもそのような匂いがする意を表する いかにも そのように感じられる (志 (浜島、布施田、神明、立神、志島))【**会話**】ウマクサイ。魚のかざな (匂いが) ウマクサイ言うのも有るし。

うまぐるま【**名詞**】乳母車 乳母のかわりをつとめる車の意 乳幼児を乗せて歩く手押しの四輪車【**会話**】ウマグルマ 言うて 籐の籠な (が) してあんの (してあるのを) 乳母車言うて。

うましご。うましごえ【**名詞**】屋敷近くに 野菜屑、魚介類の残り、残飯等を一定の場所に入れ、腐敗 発酵させて出来た肥料 堆肥 うます うまし 成熟させる 腐らす【**会話**】ウマシゴエ言うな (のは、何んか喰うた滓を なんもかも (何もかも) 皆 流し (台所) のもん (物) を わりもん (悪い物) を、まあ生塵芥やなあ (です) 今し (今) で言うて。それを昔や (は) 畠な (に) 穴掘って そこい (へ) 皆 生塵芥や (とか) 何んやかやを 積み込んで ウマシゴエ言うて言いおったわい (言っていました)。今しで言う堆肥の事やなあ (です)。自分とこ (所) の 屋敷ん (に) 昔や (昔は) 我が家の食うたもん (食べた物) や、いなんもん (要らないもの) を それへ 皆、掃溜みたいん (のように) して ひととこ (一ヶ所) へ置いといて (ておいて) 畠へ 持っていきおった (持って行きました)。芋苗したりすると それを しいてすんの (ひいて、底に入れてする) ウマシゴエ こさえとけ (作っておけ) 言うて。

うます (蒸)【**他サ五**】1) 飯、その他をむらす うむす (蒸) の変化した語 むす ふかす (志 (布施田)、鳥、

鈴市、多、上、阿、北、南、熊) 2) 熟させる 3) 化膿させる (志 (布施田)、南、熊) [用例] 3) 傷ウマス 言うて。微菌いれると。

うまず (不生) 【名詞】 妊娠しない女性 うまず女 (志、張、尾、) [用例] 結婚しても こおな (子が) 出来やんと (ないと) あや (彼女は) ウマズや言うわい (言います)。

うまだ 【名詞】 沼田 いつも水が有る田 [会話] ウマダ。沼みたいんなつとるもんで (のようになって居るので) ウマダや (です)。沼田や (とか) 日焼け田や (とか) 言うて。

うまっとる 埋まって居る [用例] ごみでウマツトル。

うまづら 【馬面】 【名詞】 1) 厚顔 鉄面皮 馬の耳に念仏 他人に言われても反省しない。(志 (志島)) 2) 長い顔を評して言う悪口 (志 (浜島)) 3) 魚 うまづらはぎ (志 (浜島、甲賀、国府、安乗)、鳥、度、南、熊) [会話] 3) ウマズラや (だ)、はぎや (だ) 言うて。1) 言う事聞かんもん (者) を ウマズラ 言うて。うまづらはぎや (だ) 言いおった (言っていました)。言う事聞かんこお (子供) を わるう (怒る) ときに、ウマズラや (だ) 言うて。

うまづらはぎ (馬面剥) 【名詞】 1) カワハギ科の海魚 カワハギより長い楕円形で全長30cm位、体色は淡青灰色で、後頭部に一本のとげが有る。肉は美味。(志) 2) 言う事を聞かない者 [会話] 1) ウマズラハギは 顔な (が) なあがいもんで言うん (長いので言うのです)。干物ん (に) すんのなあ (するのです)。ウマズラハギ 顔な (が) 長いわい (長いのです)。口な (が) ちょんぎつとるもんで (尖って居るので) 馬の 顔みたいん (に) しとるもんで、ウマズラハギ。2) ウマズラハギ と言うて、言う事聞かんと怒りおった (聞かないと怒って居ました)。

うまつるべ 【名詞】 車井戸に使用する木製の大きな釣瓶 高さが高い [会話] どいらいふつかい (大変深い) 井戸やなあ (だ) 言うて。きい (木) の、ウマツルべで、車井戸ん (に) して ウマツルべの おもたいの言うたら (重い言ったら)。

うまとび (馬跳) 【名詞】 子供の遊び 一人が背を丸め膝を手で押さえて立つと 他の者が後方より走ってきて 手をつき 股を開いて跳び越える遊び (三重県全域) [会話] 子供らな (が) 遊んで キュット たっこ お跳ばやんかい (高く跳びます) あれを言わへんかな (言いませんか) ウマトビ。

うまない 1) うまくない まずい (志 (片田、浜島)、

鳥 (相差、坂手)、桑郡、鈴市、安、飯、伊、南、熊) 2) 下手だ [会話] 1) おいしくない言う事 ウマナイ。なんもうまねえなあ (全くまずい) 言うのも有るし、ウマナイ 言うにげ (人間) も 有るし、おいしくない言う事や (です)。

うまないわい。うまないわな (女性語)。 うまないわれ 不美味い 美味くない [会話] おいしい言うのは なんも (少しも)、ウマナイワレ ウマネエワレ こや (これは) 言うて。

うまぬすつと 【名詞】 馬盗人 馬泥棒 ぬすつと参照 [会話] ぬすつとと言うと 馬 ぬすでく (盗んで行く) のを 言うんかい (言うのですか) 馬 盗すんで くんやろんな (行くのでしょうか) ウマヌスツとは。

うまねえ。うまねえわい。うまねえわな (女性語)。 うまねえわれ うまくない まずい うまないわい参照 (志 (鶴方)、鳥 (坂手、鳥羽))

うまのあし 【名詞】 下手な役者 (員)

うまみ (旨) 【名詞】 食べ物のおいしい味、又、その度合い 物事のたくみさ 形容詞うまいの変化した語 [会話] ウマミ言うな (のは) 甘味のことな (です)。何んも (少しも) ウマミな (が) ないなあ 言うてな、美味しくない言う事な (です)。この蜜柑 何んも (少しも) すいけもねえよつて (酸い感じも無いから) ウマミな (が) ないなあ言うて、味な (が) ない言う事な (です)。

うまや (馬屋) 【名詞】 馬小屋、又、馬を飼って、それで生計を立てて居る家

うまる (埋) 【自ラ五】 足りない分が補われる 損失が埋め合わされる [会話] ウマル 何やかや うずめる事な (です)、おとつしや、ウマツタナイ (ていった) ごみで言うて、掃除せんと (せずに) おると、家も何んも ウマツッテンナイ (埋まっている) 言うて よお言うし そやよつて (だから) 何んやかや、石ころ捨てても こや ウマツタナイ 言うてな 何んやかや捨てるとな ウマツタナイ 言うのもあるし。

うまれ (生) 【名詞】 忌中 (イマレ) 忌まれの転 (方言俗語語源辞典) (志 (神明、浜島、布施田、鶴方、甲賀、志島、立神、国府、安乗)、鳥 (相差、国崎)、度) [会話] ウマレ ウマレが しかって言うて、血のついたもんな (血縁者が) けがれる 言う事を ウマレな (が) 掛かる言うんやろなあ (言うのでしょうか)。ちい (血) のついた人な (が) 死ぬと ウマレな (が) かかる言うよつて (言うから)。正月の松の枝切ったりするのを、松はやす 言うのと一緒に 死ぬ言う言葉の

反対で、生れる言う言葉を使とんの（使うのです）。忌まわしい言う事やろな、ウマレがかかる 言う事は。ウマレな（が）かかったよってん（かかったから）かみさん（神様）へ、まいんな言うねよってん（詣るな言うのだから）、忌まわしい言う事やろ（でしょう）。ウマレも 縁起取った言葉やろなあ。神さんへ詣られん（参拝出来ない）言う事やよってん（だから）。縁起な（が）悪いよって（悪いから）神さん まいられやせん（参拝できない）ちよいと穢れた言う事や（です）。うまれがかかる。うまれなかかる 忌中である うまれ参照（志）

うまれつき（生付）【名詞】 生まれた時からそなわって居る性質 能力 容姿 運命など天性【会話】 きんたまな（が）かたつぽより（片一方しか）無いのを かたきん ウマレツキも有るし（有ります）。

うまれづき（生月）【名詞】 うまれた月 誕生月

うまれどし（生年）【名詞】 十二支の上での生まれた年 動物名で表す 生まれた年

うみけぶり【名詞】 波のしぶきが煙が立ったようになる状態

うみしる。うみじる（膿汁）【名詞】 膿 化膿した所から出る液 半流動性帯黄白色の不透明の液【会話】 膿な（が）出て来た事を 言うねやなあ（言うのです）。ウミシルな（を）。とする 言うのを言うんやかな（言うのでしょうか）。水みたよなのな（のようなのが）出て来ると とするな（が）出て来て言うて、とするや（だ）言うね（言うのです）。膿やなしんな（でなくて）何んやら うっすいのな（薄いのが）出て来て、とするな（が）出て来ない（来た）こやれ 言うて、濃いのが（濃いのが）して来ると 膿な 出て来んねけど（来るのだが）青いのな（青いのが）出て来ると 膿や 言うし、そして うっすい（薄い）水みたよな（のような）とするな（が）流れて 痛そおななあ（だ）言うて。

うみすずめ（海雀）【名詞】 1) うみすずめ科の海鳥 海上で生活し、行動が素早い事から。陸の上では行動が鈍いが、海女に行くと 行動が活発になる。2) 海上の雀（志、鳥）【会話】 1) ちゅちゅちゅつと おえぐのな速いね（泳ぐのが速いのです）。此処んおった（に居た）思うと あっちゃい（彼処へ）ちゅつといとんね（行って居るのです）。おかんおると（陸に居ると）こげんして（こんなにして）腰な（が）痛いもんで（ので）しとんねけど（して居るのだが）海い（へ）行くと 腰が（が）痛いなあ（のは）ええんやんかい

（好いのです）、なっとも（なんとも）無いの（のです）。そやもんで（それで）海い（へ）行くとなあ ウミスズメや（だ）言うて 皆んなが（皆が）。あや（彼女は）ウミスズメや（です）速いね（のです）する事な（が）すべしこいんやろなあ（すばしこいのでしよう）、すうすうすと おった（居た）思うと こんだ（今度は）あっちゃいといんね（彼処へ行って居るのです）。ウミスズメ言うのは 海で動作が速い、それやもんで（それで）ウミスズメ。どもこもしとせんのなあ（して居ないので）動作な速よおて（が速くて）此処んおった 思うと あっちゃい（へ）行き、あっちゃんおった 思うと こっちゃい（此処へ）来い どいらいささこしねてや（大変機敏なのです）。どもこもしとる（して居る）言うのは どん（鈍、にぶい）な事しとて（して居て）どもどもと ねちねちねちとしとる（して居る）事を 言うのなし（言うのです）。ささこし 言うのは それやなし（それでなくて）ウミスズメや（です）。たくましよおなけど（たくましいのうのですが）ちよいと（少し）意味が違うかなあ。なんか がさがさ 速い 言う。そして まあなあ おかんおると 頭な（が）痛い 尻な（が）痛い 言うとんねけど（言って居るのだが）海い（へ）行くと なっとものおて（何とも無くて）いって（潜って潜って）いりつぶして あや（彼女は）おかんおると おかくらぎやなあ（おかくらげだ）言うて、おかい（陸へ）来ると くらげみたよん しとんねけど（のようにして居るが）海い（へ）行くと しゃんとしとて（して居て）海雀に おかくらげや（です）。

うみづき（産月）【名詞】 出産予定の月 臨月【会話】 おいだし よばれてくの（招待されるは）嫌やった（でした）。ウミヅキン（に）近い時ん（に）行くねよって（行くのだから）大きな腹 やり出して恥ずかしやら（突き出して恥ずかしいやら）。

うみなか（海中）【名詞】 1) 海面より下の部 2) 海の沖の方 海洋のまっただなか おきなか（沖中）とも。

うみねこ（海猫）【名詞】 なき声が猫に似て居る所から物類稱呼ではカモメと有る。カモメ科の海鳥 全長約45cm、背面と翼は灰青色でその外は白色、尾羽に黒い横帯が有る。口ばしは黄緑色で先端が赤い。【会話】 かもめどりみたいな（のような）ウミネコ言うて かもめとは 又、違うね ウミネコは。

うみのしお（海潮）【名詞】 海水（南）【会話】 ウミノシオ 海水やんかい（です）昔や（は）つけもん（漬

物) も、ウミノシオで したねんなあ (したのです)。

うみもつ (臈持) 化膿する [会話] 昔や (は) 出来もん
な (物が) よけ (沢山) 出来おつて 出来て来た時や
(は) ちよいと しとんねけど (て居るが) ウミモツ
と ずくずくと よさり (夜) 寝ると やめて (痛ん
で)。

うみやまかける 志摩の女性の働きを言う語(志)

うむ (續) 【他マ五】 紡ぐ (志) [会話] おお (緒糸)
をウム 言うて つむ言うんかい (言うのですか) ウ
ム 言うのか 昔の人らは 布をきしやいといて (布
を切りさいて、破つて) 糸をうち (家) で こしらえ
おった (作つた、こしらえて居た)。きりきり 巻いて
おお つむやら (とか) ウムやら (とか) 言うて。布
を継いで 籠へ入れといて (入れておいて) こんだ
(今度は) よりやって (捲り掛けて) 家でこさえおつ
たの (作つて居たのです) おお つむとか ウムとか
言いおつた (言っていました)。

うむ (熟) 【自マ五】 1) 熟れる (志 (志島)、張) 2)
化膿する (志 (浜島))

うむ (産) 【他マ五】 子を産む [会話] ウム 子供をウム
言うのかい (ですか)。こや (これは) もおける。子を
ウムのを 此処らの人ら (は) こお (子) もおける言
うね (言うのです)。

うめあう (埋合) 不充分なところや損失などを 他のこ
とで補いつぐなう うめあわす ならす つぐなう
[会話] ウメアウ なじます事を 乾いとるとこ (て居
る所) と 湿つとるとこ (て居る所) と いきあう
(差し引きなし) よおん (に) 巻いとくとさいご (巻
いておくとその時) そんな (それが) 丁度 ええ (よ
い) 調子になんねてや (なるのです)。

うめあわす (うめあはす) (埋合) 【他サ五】 1) 平均さ
せる 2) 損失、欠損などを補う。不足分を出す。つ
ぐなう。

うめくさ (埋草) 【名詞】 不足物、又は欠けた物を補う
物

うめごえ 【名詞】 薄めた肥料

うめこんだれ 1) 埋めてしまえ。埋めよ。2) 埋めま
した。[会話] 1) ウメコンダレ 言うて 土ん (の)
中え 埋めるでしょお、穴 掘つといて (ておいて)
なんやかや入れて 土 被ぶせんの (せるのを) 埋め
る 埋め込む 言うて。

うめしよ (埋所) 【名詞】 低い土地を埋めた土地 田 沼
等を埋めて作った土地 [会話] ウメシヨデ 水すきな
(水はけが) さあつと すいてくやんない (なくなる

でしょう、しみ込んで行くでしょう)。

うめず (梅酢) 【名詞】 梅の実を塩漬けにした時、梅か
ら出る酸味の強い汁 (員、鈴市、安) [会話] ウメズ
言うな (のは) 梅の汁を ウメズ。腹い (に) あたつ
て ウメズ 飲め 言うて よお言うやんかい (よく
言います)。塩漬けにして 出て来る その汁を ウメ
ズ。あの ちそ入れても ウメズや (だ) 言うて、酢
は 入れんでも (入れなくても) 梅から 酢な (が)
出るもんで (ので) すいもんで (ので) ウメズやなあ
(です)。

うめぢ (埋地) 【名詞】 低い土地を埋めた土地。田、沼等
を埋めて作った土地。うめしよ

うめちゅう (梅酎) 【名詞】 梅の実を焼酎でつけた その
焼酎

うめづけ (梅漬) 【名詞】 梅の実を塩で漬けたもの 梅干
しのように干さない 紫蘇を入れて赤くする [会話]
梅干しん (に) する迄の梅干し ウメツケ。

うめづる (梅蔓) 【名詞】 げんのしょうこ (志 (越賀、甲
賀、立神、鶴方、神明、国府)、度、鳥 (国崎)、南、
熊) [会話] ウメズル言うな (のは)、草で 下痢した
おりん (折、時に) 飲むとええの (良い) 医者殺しや
(です)。げんのしよおこ言わせんのかい (言うのでは
ありませんか)。げんのしよおこや言うな (と言いま
す)、ウメズルは。干しといて (ておいて) 下痢した時
ん (に) 煎じて 飲みおったわい (飲んで居ました)
土用に取ると ええね (よいのだ) 言うて 皆 刈り
に行て (行つて) ほしときおった (干して置きました)。

うめぼし。うめぼしばば 【名詞】 皺の多い顔。特に老婦
人。[会話] ウメボシ 言うなだ (のは) 梅を干した
のなあ (です) ウメボシや (だ) 言うて。皺で 梅干、
婆らな (が) 梅干顔や (だ) 言うて。皺で ウメボシ
バアサン 言うやんかい (言います)。皺な (が) よつ
とるよってん (寄っているから) ウメボシバアサン。

うめる 【他マ下一】 1) 穴などのくぼんだ所に物を入れ
て平らにする (員、三、尾) 2) 損失 不足などを補
う 3) 水をさしてを湯をぬるくする (志 (浜島、布
施田)、員、阿、張、名) 4) 濃い味をうすめる (員、
鈴市、南) [会話] 1) 穴ウメル言うのと、3) 湯 ウメ
ン (うめる) のと、2) 欠損のいた (いった) のおを
ウメル言う時もあるし (あります)。

うめはすいすいじゅうさんねん 【俚諺】 桃栗三年柿八年
梅はすいすい十三年 実のなる迄の年 (志 (布施田))

うもお 1) 美味く 2) 上手に (南)

うもおて 1) 旨くて 2) 上手で

うもおもへくそおもないわれ 味も匂いもない [会話]
こや (これは) なんもうまねえわれ (少しも美味くない) うまないわれ、ウモヲモ ヘクソヲモ ネエワレ (無い)。

うや 売れば [会話] 上手ん (に) こおて来 (買って来て)、上手ん (に) よお (よく) ウヤ 折れて曲がってへえ (へ) のじい (字) やよお (だ) (大儲けだ)。

うよ 植えよう [会話] なんでも ウヨ 思うと こまかい (小さい) 土寄せて 堆肥や (入れて) 植えときやええわれ (ておけばよろしい) 言うて。

うようよ【副詞】生き物が多く群がって 細かく動いている様 (志 (布施田)) [会話] ウヨウヨしとる (している) 言う。沢山おる事をな、ごちゃごちゃしとるとな (していると) おおた ウヨウヨしとんない (している) こや (これは) 言うて 沢山 居る事をなあ。

うら (裏) (浦)【名詞】1) 表面と反対の面 下または陰になって見えない部分。前面、正面の反対側 衣服の内側の部分 表面に表れない内部 隠された内部の事情 2) 宅の後庭 裏口 (北) 3) 浦海 [会話] 1) きもん (着物) のウラと 2) 家のウラもあるし、せど (背戸) 言うのをウラ。昔や (昔は) せど回あ (回っていけ) 言うて 後へ回れ言うのを 背戸へ廻れ言いおった (言っていました)。

うら (末)【名詞】枝先 こずえ 先端 末 (うれ) (鈴市、伊、鳥)

うらがえ (うらがへ)【名詞】1) 裏を表にすること 物事が反対になること 2) 仕立直し [会話] 2) きもん (着物) でも ほどい (ておいて) ウラガエス 言うのもあるし、1) 人間な (が) ウラガイッテク。あんた (貴方) を せんざり (完全に) 信用して、兄弟分でおって (ありながら) 貴方の悪口 言うて ウラガエッテ 言うてな。あや ウラガエッテ (返って行った)。ほちゃほちゃ言よ (言っていたら) 今しや、わりくち (今は悪口) 言うて ウラガエッテ (返って行って) 言うのな (です)。人間の 裏表 ウラガエルは 反対になる。人の 反対と、きるもん (着物) でも ウラガエス 言うのも あるしな。物を 筵い (に) 干しても ウラガエセ 言うて あっちゃこっちゃ また 干しなおす (のを)、てえ (手) かえせ ウラガエセ 言うて、荒布 干しても 早よ (早く) ウラガエセ てえ (手) かえさなはざんわれ (返さなければ駄目だ) 言うて、裏と表と干してあったの 反対ん (に) なる事な (を) ウラガヤス

言うの (のです)。

うらがえし (うらがへし) (裏返)【名詞】物の裏を返して表に出すこと 又その状態 [会話] ウラガエシは、その反対になとる (ている) 事を ウラガヤシ。ウラガエシと、ウラガヤシ 一緒やんかい、言葉な (が) その人間よって 言いよな (方が) ウラガヤシ といて来い言うて 言う人間もあるし、ウラガエス 言う人間もあるしな 一緒の意味やけどな その人によつて。

うらがえった 約束を破った

うらがえった 約束を守らない [会話] 選挙してもあの人 入れる 言うといて (ておいて)、こつちや (こちら) の人 入れて ウラガエッテタ 言うて 約束を守らん 言う事やわい (です)。

うらがえる (裏返)【自ラ五】心変わりする 寝返る 裏切る 約束を違える

うらかえす (うらがへす)。うらかやす 仕返しする [用例] ウラカエサレテ どいらい目におおた (大変な目に逢った)。

うらかやし。うらがやし (裏返) 表と裏と反対になったもの (南) [用例] きもん (着物) ウラガヤシに 着て。

うらきもん (裏鬼門)【名詞】鬼門と正反対に当たる南西の隅 不吉な方向 (志、員) [会話] ここな (が) 鬼門で こつちや ウラキモン 言うて、表鬼門と ウラキモンと あるやんない (あるでしょう)。むきん (向きに) よつて 鬼門な (が) ちごて (違って) 来るやんかい (来ます)。建て方な (が) 南向きの家と 東向きの家もあるし その家の むきん (方向) よつて 鬼門な (が) ちごて来るやんない (違って来ます)。

うらぎる (裏切)【他ラ五】信用を損う 約束を守らない [会話] ウラギル 言うな (のは) 信用して おってな (居て)、悪口言うたり (言ったり) 何んかすんのを (するのを) ウラギル 言うて。そして 選挙しとて も (していても) あの人 入れる 言うといて (言っ

ておいて)、こつちや (こちら) の人 入れて、ウラギル 言うて 約束を守らん 言うことやわい (です)。

うらぐち (裏口)【名詞】台所の出入口 家の後方の出入口 (多、南) [会話] ウラグチ言うな (のは) 裏から入ってくの (行くのを) ウラグチ。

うらざかな (浦魚)【名詞】浦海で獲れた魚 [会話] 浦で釣る 魚を ウラザカナ 前の魚と、ウラザカナ とな違ふもん (違ひます)。

うらどし (裏年)【名詞】果物などの豊年の翌年に不作に

なる年〔用例〕去年豊年獲ったよって（豊作だったから）今年や（は）ウラドシで はざんわい（駄目です）。

うらなり（未成）【名詞】 1) 果実 野菜などの最後に実のついたもの。味も悪く つやもない。うらはウレ（未）（大言海） 2) 一番最後の子（志（布施田）） 3) 顔色が悪く元気の無い人〔会話〕 1) もとなりはもとの方い（に）生るしな、ウラナリ 言うな（のは）すえいなんの（未に生るのを）ウラナリや（です）。とんがのすえなりやよってん（だから）言うて、2) 人間でも おとご（末子）を あやまあ（彼は）とんがのすえなりやよってん 弱いわれ（のだ）言うて。もとなり 言うのは 一番もとの方い（へ）なんのを（生るのを）一番になんのは（なるのは）もとなりで、そしてま しまいごろん（に）なんのは ウラナリ。

うらばなし（裏話）【名詞】 一般には知られていない内輪の話 内緒話〔会話〕ウラバナシ 言うなだ（のは）、内間話 言う様なことやろけどな（だろうが）、ウラバナシ 言うねよってんな（のだから）、世間で ひろお出来ん（披露出来ない）よおな話やよってん 内間話によお似たよなことやろな（よく似た事でしょう）。ウラバナシ 言うたら ちよつとま（少し）人に、はれはれして 言われん（言えない）様な話 言うことや（です）。

うらはら（裏腹）【名詞】【形容詞】 1) 正反対の事 あべこべ うらおもて（鈴市） 2) 陰日向〔会話〕 1) ウラハラやなあ（だ）あの人 言うて、えごと（充分に）腹の中を 人に あかさん事を 言わせんかい（言いませんか）。わがと思とることを（自分が思っている事を）人 言わせん（言わない）ことを 言うねえんかいな（言うのでありませんか・言うので無いのですか）。ウラハラ 言うな（のは）発表 人ん（に）出来ん（出来ない）ことを 腹ん（の）中で おもとんのを（思っているのを）。2) 陰日向が有る言うな（のは）裏と表がある 日向は表で陰は裏、そいな（そんな）様な 意味やろ（だろう）思うけどな（思います）。

うらばり（裏張）【名詞】 物の裏を張る事 裏に張り付ける事（補強・修理のため）〔会話〕ウラバリ 言うな（のは）、表具でも しょおふつけて あのと表装するまでん（の）のを 糊付けてすんのを（するのを）ウラバリせんとある（せすにある）言うて。裏から当てるのを ウラバリ 裏を 糊付けてしといて（しておいで）そしといて（そおして）今度 額い（に）表装すんねよって（するのだから）その 糊付けてすんのを

（するのを）ウラバリ 結局 裏から当てる 言う事やな。

うらみ。うらめ（恨）【名詞】 1) 自分に対しひどい事をした人を憎むこと 遺恨 2) 不平、不満、嫉妬（志、鳥）〔会話〕 1) 先生を うらむ（恨む）言うて。うらむぞよ 言うて、医者な（が）病気 見てくれ 言うても、見てくれんで（なくて）こげん（こんなに）具合な（が）悪りなつて（悪るくなって）来て 言うて、医者 を 恨むのな（が）医者が、こんでま（ことなく）具合な（が）悪りのん（悪いのに）見て呉れ 言うても、そや何んもやれ（それは何んでもない）言うて 見て呉れらったもんで（くれなかったので）こげん なった言うのと、ま 医者 恨むやんない（でしょう）そいなの、ウラミ（そんなのを恨み）。

うらみがまし（恨）【形容詞】 恨んでいる様子だ〔会話〕ウラミガマシ 言うて、人 恨むよん（ように）言うのを ウラメガマシ 言うて 恨らんとることを 言うねなあ（言うのです）。

うらみごと（恨事）（恨言）【名詞】 1) うらみと同じ恨んで人を憎んでいる事、又、恨んで言う言葉 2) 不平、不満 3) 恨みを表す言葉

うらみち（裏道）【名詞】 間道 近道（阿、上）〔会話〕表道と ウラミチ あるやんか（あります）。世古道とも 言うし、ウラミチとも 言うし、こつちやな（こちらが）表道やよってな（だから）よお（よく）世古道言うの（言います）、ウラミチ言わんと（言わずに）、世古道 通って来た 言うて あぶないよって（から）そや（それ）世古道 通って行けよ（行きなさい）言うて。

うらむき。うらむけ（裏向）【名詞】 反対方向を向いて居る事 裏側が表れて見える事〔会話〕ウラムキと ウラムケも 一緒やわいな（です）ここが 表で こつちや（こちら）ウラムケでやんない（でしょう）。それで 一緒やわいな（です）裏むいてる（むいている）。

うらむしろ【名詞】 目の粗い蓆〔会話〕うすべりや なんやかや 裏い（に）すんので、あらくとお（するので荒く）ざらざらん（に）うってあんの（作ってあるのを）ウラムシロ 言うて。そすと うすべりの 表をして、そのウラムシロを 下い（へ）すんのを（するのを）あらくとお織ってあるわい（粗く織って有ります）。そやよって（だから）ウラムシロ 言うて。そして 切り干し干すのも ウラムシロを 買おて 言うてな、本当の蓆やなしん（でなくて）ウラムシロ 言うな（のは）ざつう、うって有る（雑く織ってあ

る)それを ウラムシロ。

うらめ (恨)【名詞】 うらみに同じ

うらめ (裏目)【名詞】 思っている事と反対

うらめがまし【形容詞】 恨んで居る様子 うらめがまし
[会話] 人 恨らむよおん (ように) 言うのを、ウラ
メガマシ 言うて。恨ら^んどる (でいる) ことを 言
うねなあ (言うのです)。

うらめし (恨)【形容詞】 残念でかなしい うらめしいの
いの省略 [会話] ウラメシヤ 人を 恨むことをな
ウラメシ 言うのな (のです)。ウラメシヤ 言うて
それ ゆうれんな (幽霊が) ウラメシヤ 言うて。

うらめしがお (うらめしがほ)【名詞】 残念そうな顔つき
恨らみの有る顔

うらやまし (羨)【形容詞】 ねたましい 他人の状態が自
分よりよく見えて憎らしく思われる [会話] ウラヤマ
シ。あの人な (が) 金は よけ (沢山) あるし、ぜん
もおけ (金稼ぎ) は よお (よく) するし、ウラヤマ
シなあ 言うて けなりがる事をなあ。ウラヤマシ
言うのなあ けなりがる、けなり 言うな (のは) ウ
ラヤマシ 言う事やんかい (です)。

うらやましがる【他ラ五】 ねたましがる うらやましく
思う (志 (浜島))

うらやむ (妬)【他マ五】 ねたむ 他のよいのを見てそれ
を羨ましく思う

うらりょうし (浦漁師)【名詞】 浦海 (内海) で漁をする
漁夫 [会話] ひき網言うのは 餌さ鰯を ウラリョウ
シやわい (です)。

うりかた【名詞】 1) 物を売る側の人 うりて 2) 売
る方法 [用例] ₂) ウリカタな (が) 下手で なんも
売れやへん (少しも売れない)。

うりぐい (うりぐひ) (売食)【名詞】 仕事をしないで持
って居る物を売って生活する事 徒食して生活するこ
と [用例] 仕事なのおて (が無くて) ウリグイやれ
(だ)。

うりこ (売子)【名詞】 1) 商品の販売に従事する人、行
商人 (志 (布施田)、張) 2) 店で物を売る人 [会話]
₂) 何やかや 店屋の売番しとんの (しているのを) ウ
リコや (だ) 言うて、ウリコ頼んで 言うて。

うりて (売手)【名詞】 1) 物を売る人 売る立場にある
人 (南) 2) 市場へ獲物を売りに行く役目の人 [会話]
₂) ウリテ 言うな (のは) 市場い (に) 渡しん (に)
行く人。みんな (全部) 浜で かけといて (計量して
おいて) まとめといて (ておいて) 市場ん (へ) 渡し
ん (に) 行くやんかい (行きます)。一番よけ 獲るも

ん (獲る者) が 大漁した者な (が) 市場 渡しん
行く者 ウリテや (だ) 言うて。

うりね (売値)【名詞】 売り渡す値段 [会話] ウリネと、
札値と言うて 市場で言うのは 売ったねえ (値) 安
いし、ふだ入れる (札入れる、入札する) 人は ねえ
よお入れるやんかい (値高く入れます)。そえんせな
(そんなにしなければ) おちやせんよつてな (落札し
ないから) 札値と ウリネと言う。ふだ (札) 入れて、
あきゅうど (商人) 言うて 仲買いする人な (が) 今
日 このさざい (栄螺) 一貫な (が) 50円、そすと
他の人は 55円 言うて ねえのええのいおちてく
よつて (値の高い方へ落札するから)、それやよつて
(だから) 札値とウリネ。そして わしらな (が) 渡
すのは 又 安すいんやんかい (安いのです)。わしら
な (が) 30円に (で) 市い (市場に) 渡して あき
ゅうどは それを 又 ねえよおして (値を高くして)、
そしてまた こんだ (今度は) それを おろすねよつ
て (売るのだから) そげんして (そんなににして) 儲け
てくねよつて (て行くのだから)、そやよつて わしら
な ウリネは 30円でまあ 札値は50円 そげな
よんなつてくのな (そんなようになって行くのです)
ウリネと札値と 言うて 違てくんのなあ (違つて
くるのです)。

うりもん (売物)【名詞】 売る対象となる物 [用例]
ウリモンやよつて (だから) しもたんなよお (悪くす
るな)。

うりもんには はなかざれ 売り物はよく見せるために
美しくしなさい 婚期の娘にも言う。

うる【名詞】 潤年 今年やウルや

うるおい (うるほい) (潤)【名詞】 1) 久しぶりに降る
雨 滋雨 (志 (布施田)) 2) 雨が降ること しめり
3) おこぼれ めぐみ [会話] ₁) ウルオイ言うな
(のは) しめり、しめりな (が) ある事やなあ (です)。
梅雨みたいに (のように) 長く降とる (でいる) 時
は 言わんと、ずうと (言わずに、長く) 天気な
(が) 続いて その時の雨をウルオイや (です)。ずう
つとじめじめしとん (している) 時ののは 梅雨時や
(です)。久しぶりに降った雨をウルオイな (が) ある
言うね (言うのです)。ウルオイな して よかったな
あ言うて。ええ (よい) しめりな して。しめり言う
時と、ウルオイ言う時と 一緒やけどな (です)。ええ
しめりな したなあとか、ええ ウルオイやなあ と
か言うの。

うるおう (うるほふ) (潤)【自五】 1) 水気を含む

2) ゆとりが出来る 3) めぐみを受ける

うるおす(うるほす)【他サ五】 1) 水気を含ませる

2) 豊かにする 分け与える

うるおた 1) 雨が降った 2) おこぼれがあった

うるくさ【名詞】打撲等によって生ずる皮下出血(志(布施田、甲賀、立神、鶴方、神明、国府、安乗)、鳥(鳥羽)) [会話] ウルクサな(が) いって 言う、これ、わしや(私は) ウルクサな(が) いっとんね(出来ているのです) 打ったもんで(打ったので) 今しゃ(は) ちよいと(少し) でも 打った思うと ウルクサな(が) いってくんの(出来て来ます)、みよおやな(変です)、ちいな(血が) ふき出してくんの(来るのです)。

うるくさがいる。うるくさいる 皮下出血を生ずる(志) [会話] 何ん(に) かで 打つと、打傷で ウルクサナイツェ 言う、打傷で ウルクサナ(が) イットンネ(入っている)。うるくさ 出来た言わんと(言わずに) ウルクサナ イツェ(入って) 言うて。

うるくさになる。うるくさんなる 皮下出血を生ずる(志) [会話] ウルクサンナル 言うのは うるくさが出来ること。

うるさい(煩)【形容詞】 1) 汚い(志(神明、国府)、鳥(相差)、員、北、南) 2) 湿気が多くじめじめしている(伊)

うるさがた(煩型)【名詞】 ろうるさい人 理屈を言う人 [用例] あや(彼は) ウルサガタ やよって(だから) 相手んなんな(になるな)。

うるしかぶれ(漆瘡)【名詞】 漆の毒によって生ずる接触性皮膚炎 うるしのきい参照

うるしのきい【名詞】 櫛の木 [会話] ウルシノキイで かぶれんの(るの)。漆の木 言うのは あみかけ(網掛け)の あばん(浮きに) する木で かざなすんねやんかい(臭いがするのです)、きいよおてな(黄色で、そして それを あたると、かぶれんの(触るとかぶれるのです) かいの(痒いのです) それから かぶれに弱いもん(者)は 屏風のや 唐紙の あれでも かぶれんの(かぶれるのです) あの漆に。

うるそなる 1) うるさくなる(張) 2) 汚くなる。汚れる。

うるみいろ(潤色)【名詞】 紫藍色 [会話] 紫ん(に) なってくんのを(くるのを) ウルミイロん(に) なった。さぶうて、こごえると(寒くて冷えると) あや(あれ) くちびろな(が) さぶうて ウルミイロん なっとなない(なっている) 言うて。

うるみごえ(潤声)【名詞】 涙がちにくもる声 なきそうになって はっきりとしない声。ふるえ声 [会話] ふるう(震う)のをなあ、ウルミゴエ 言うんな(言います) ふるて さぶうて(震って寒くて) ふるて(震って) すると ウルミゴエ 出して あやれ(あれ) 言うて。

うるむ(潤)【自マ五】 1) 唇 爪 が赤味を失って紫藍色になる。2) 目に涙が多くたまってる状態 [会話] 1) ウルム 紫色になる事なあ(です)。2) そすと めえな(目が) 涙ぐんで しとる時ん(いる時に) なあ目をウルマセテ言うて。

うるめ(潤目)。うるめいわし【名詞】 うるめ鰯 真鰯より体が丸く横断面は円形に近い 真鰯と異なり腹面が丸く、そこには普通の鱗を有し、稜鱗が無い。背側は暗青色、全長30cm位になる。真鰯に比して脂が少ない(志(布施田)、鳥(石鏡)、鈴市、安、度、伊、南)

うるわし(うるはし)(美)(麗)【形容詞】 整った感じきちんとしていて美しい様を言う [会話] 見ても ウルワシ様なあ(だ) 言うやんかいな(言います)。きれいな事を 言うんやろな(言うのでしょう)、見てもな おおた きれいななあ 言う様なのやなあ。ウルワシ様な人やなあ(だ) 言うて 言うやんかいなあ(言うでは有りませんか)。なになしん 綺麗で明るい言う意味やろな(でしょう) ウルワシ、ウルワシ様な人やなあ(だ) 言うてな。

うれあし(売足)【名詞】 物の売れて行く速さ [用例] ウレアシな はよおて(が早くて) いつ いても(行っても) 品切や(だ)。

うれい(うれひ)(憂)【名詞】 うれえに同じ。悲しみ。忌み事。心配。

うれいごと(うれひごと)(愁事)【名詞】 うれうべき事柄 心配事(志(布施田))

うれいはな(うれひばな)【名詞】 1) 凶事に使用する花 忌に際し用いる花 蓮、椿 2) 死者に供える花 佛壇、墓に供えたり葬式に使用する花 [会話] 1) 椿や(は) ウレイバナで 墓い(へ) さすやんない(供えるでしょう)。そやもんで(それで) 嫌うのなあ(です)。ウレイバナ 言うな(のは) 蓮やてら(だとか) 椿やてやら 言うな(のは) ウレイバナ言うてなあ、うれいの(忌の) 時ん(に) 墓い(に) 使うやんない、そやもんで、あいなの(それであんなのを) ウレイバナ いましや(今は) なんでも(何でも) 墓い(に) するけどなあ(が)。

うれえ (うれへ) (愁) 【名詞】 忌み事 葬式 死人の出る事 うれうの名詞形 うれう ウラアふる (心合) のウラフルとつまって又ウレフルと転じた。[会話] ウレエ 言うのは わり (悪るい) 事やなあ (です)。ウレエな (が) 有って言うて、葬式な (が) 有ると 言うやんない (でしょう)。ウレエな (が) 有って 言うてなあ。人な (が) 死んだたら (とか) 言うと。

うれえがお (うれへがほ) (愁顔) 【名詞】 心配事の有る顔

うれえもん (うれへもん) 【名詞】 不吉な物。[会話] びや (枇杷) の花咲く 年の暮 言うて、十二月は年の暮で びや は、十二月頃ん (に) 咲くやんない (でしょう)、そやもんで (それで) びや は ウレエモンや (だ) 言うて、ほとくさん (佛壇) へ供えると 他え 供なえやせんやんない (供えないでしょう)。びやは うれえや (だ) 言うて あんまり (あまり) 目出たいのやない (のでありません)。

うれくち (売口) 【名詞】 1) 品物の売れていく状態 2) 売れて行く先 転じて嫁入り先 [会話] ₁₎ ウレクチなわりなあ (が悪るい) 言うて、魚でも 何んでも 買い手な (が) よけ (沢山) あると ウレクチな (が) ええ (よい) 言うし、買い手な (が) ないと ウレクチな (が) わりいて (悪るくて) 言うてな。 ₂₎ 嫁さん 娘も 行かせんと (行かないと) ウレクチな (が) わりいて 言うて、あの家の 娘や (は) ウレクチな (が) わりなあ (悪るい) 言うて。

うれし (嬉) 【形容詞】 物事が望ましい状態になったり、満足すべき状態にあると感じた時の快い気持ち うれしい (志、三、鈴市、伊賀地方、伊) [会話] 楽しい事をなあ ウレシて ウレシて まあ今日は 言うてな。嬉しいとは言わずに ウレシ言うの、嬉しい言う事を ウレシ、ウレシ言うの (のです)。ウレシてウレシて まあ 今日は言うてな ほん (本当に) ウレシガリヤやなあ (だ) 言う (言います)。

うれしがお (うれしがほ) (嬉顔) 【名詞】 嬉しそうな顔つき またその様子 (鈴市、安、南) [会話] うれし (嬉しい) 様な顔しとんの (しているのを) 笑顔しとると (していると) ウレシガオや (だ) 言うて。

うれしがり 【名詞】 何にでもすぐ喜ぶ人 (志 (布施田)、上、阿、張、名) [会話] うれしがりやも 一緒やわい (です) ウレシガリは。

うれしがりや 【名詞】 1) 何にでもすぐ喜ぶ人 ちょっとした事にも大喜びする人 2) お調子者 (南) [会話] ₁₎ ウレシガリヤや (と) 言うのだ (言うのは、

何んでも無い事な (が) ゲラゲラ 笑ろて。ちよいとした (少しの) 事でも 嬉こんですんの (するのを) ウレシガリヤやなあ (だ) あや (彼は) 言うて。

うれしがる (嬉) 【自ラ五】 1) 嬉しようにする 嬉しく思う気持を態度や言葉に表す 2) はしゃぐ さわぐ (南) [会話] ₁₎ 嬉ぶ 嬉ぶ言う事やけどな (です)。どいらい (大変) ウレシガッテ言うて 嬉ぶ事を ウレシガル言うて。あれ持てたやな (持って行ったら) あの家 ウレシガッテ貰ろてくれた (貰ってくれた) 言うて、あの 嬉ぶ事を。

うれしきってく 大変嬉しい 嬉しくて 嬉しくてたまらない [会話] ウレシテ (嬉しくて) ウレシテ まあ なつとも かつとも しよおなねえ (しかたがない) 程 うれし事をな ウレシキッテク 言うのな (のです)、物凄 うれし 言うことやな (です)。

うれして 嬉しくて (志、鳥、安)

うれっしゃ 【感動詞】 うれしや 嬉しい [会話] ウレシヤ 言うてな、おおた (ああ) ウレシヤ言うてな。うれしや言うのを、なんやかや 貰うとな おおた ウレシヤ言うてな しゃと短く言わず しいやとも言わん その間で ああ ウレシヤア言うてな。

うれっしょ 【感動詞】 嬉しい (北)

うれのこり (売残) 【名詞】 売れ残った商品 俗に結婚の相手がなく婚期を失った女性

うれはずかし 嬉しくも有り恥ずかしくも有る事。恥ずかしいが嬉しいこと [会話] ウレシハズカシ、彼氏な (が) 立派な人な (が) 来ると わがと (自分が) その人ん (に) 惚れたて (てしまった) はずかしてまあ。

うれる (熟) 【自ラ下一】 果実が熟す

うれる (売) 【自ラ下一】 1) 嫁の貰い手が出来る 2) 良い評判が立つ (上、阿) 3) 売れる [会話] ウレル、物が熟す事も ウレル言うし、₃₎ 物を売ること ウレル言うし。₁₎ ウレルで 嫁にやる 嫁にやっても ウレル。娘な (が) ウレテよかったわい (よかったです) 言うて、娘な (が) ウレンデ (売れなくて) まあ 売れ残るやか (か) 思もて (思つて) 心配しとたや (していたら) ウレテよかったわい言うて。娘や (は) 要らんかと もちうや (持ち売りは) 出来ず 鯛の ぶえん (無塩) で 置さやさがる (置けば値が下がる) 言うて、娘よけ持とると (沢山持っている) と 心配で 売れてかせんもんで (売れないので) 持つとや (持っていれば) 鯛のぶえんで、鯛もぶえん (無塩) の時 ねうちな (値うちが) 有るけど、ひましん (が日が経ったものに) なってくと (て行くと)

まあ ねえなしやせんもんで (値がしないので)、そんで 鯛の ぶえんで おきや さがる言うて、娘も たぼつとると (抱え込んでいると) 花の色は 移りにけりな いたずらに言うも (の) 同じ事で、我身世にふる 眺めせしに 言うて、見とる内に 花な (が) くたぶれてくやんない (しおれて行くでしょう)。鯛の無塩で 置きや下る言うな (のは) それの意味と一緒やわい (です)。²⁾ もお一ツ ウレルで 良い評判が立って 評判なええ (がよい) と がいの (大変) 評判な (が) 良おて (好くて)。

うれんげのはな。うろんげのはな【名詞】 うどんげの花 優曇華の花 クサカゲロウが夏に卵を草木の枝や 古材、器物につけたもの、約1.5 cmの白い糸状の柄が有り 花のように見える。吉兆、または、凶兆とする。[会話] ウレンゲノハナ咲く 稀な事言うて ねえなほ っそおてなあ (根が細くて) うどんげの はな 言うの (のを) ウレンゲ言うの (のです)。 あんな (あれが) 咲くと ちっさあい、ほっそあい (小さい細い) しいろい (白い) 花でな。ウレンゲノハナ咲く 稀な事言うて ええ (よい) 事と わり (悪い) 事と あんね (有るのです) あんな (あれが) 咲くと。

うろろう【副詞】 1) どうして好いのか分からなくてあつちへ行ったり、こつちへ行ったりする事 うろたえ惑うこと。落ち着きがなく、あたりを見回すさま。きよろきよろ 有漏 漏は煩惱の意 色々な欲望や迷いの心を持って居る事 (志 (布施田)) 2) あても無く歩くさま うろつくさま (志 (布施田)) [会話] ¹⁾ まごまごと まいまいしとる (している) 事やなあ (です)。ウロウロと言うて うろちよろして まあ 邪魔なんのん (邪魔になるのに)。

うろおぼえ【名詞】 記憶のはっきりしない事、あいまいな記憶

うろちよろ【副詞】 うろろうするさま 当てどなくさまようさま (志 (布施田)) [会話] ウロチョロ言うな (のは) あっちゃい (あちらへ) 行き こっちゃい (こちらへ) 行きして 邪魔ん (に) なんのに (なるのに)、ウロチョロせんと (せずに) そっちゃいいいとれ (そちらへ行っておれ)。

うろつく (彷徨)【自カ五】 1) あわてふためいて。あちこち動く。(鳥) 2) あてもなく歩き回る 同じ所を行ったり来たりする。[会話] うろちよろ 言うな (のは) 一緒や (です) ウロツクも。

うろまい【副詞】 あても無く歩き廻る うろちよろ うろつくと同じ

うろん【名詞】 うどん 饅飩 (志) [会話] うどんの事を、ウロン言うねなあ (言うのです) 昔の人なあ (は) ウロン六杯 食うて 腹ろつかりで。

うわおき (うはおき) (上置)【名詞】 上に乗せる物

うわかさ (うはかさ) (上嵩)【名詞】 盛り上げたものの上部 (志 (鶴方、神明)) [会話] もる (盛る、よそう、積み上げる) のも、かさな (が) たつかい (高い) とか言うて。ウワカサ 撥ねとけ (ておけ) 言うて。荷車に 積んでも かさばるよって (から) うわつら撥ねとけ、ウワカサ撥ねとけ とか言うて。

うわかぜ (うはかぜ) (上風)【名詞】 うわて。上手。

1) 東風 2) 上を吹く 穏やかな風 あるかないかの風 [会話] ¹⁾ ウワカゼ 東風の事なあ (です)。ウワカゼん (に) 吹かれて 風邪引いておつて (引いているのに) 言うんな (言うのです)。西の風は言わせんの (言わないのです)。東風の事を うわて風言うの (のです)。こち (東風) でもうわて。うわてと、ウワカゼ 一緒やけどなあ (です)。東の事を うわて言うんなし (言うのです)。それから吹いて来たのを ウワカゼ。

うわかぶ【名詞】 稲の切り株 [会話] 畔のがにぼらとめ んのん (蟹孔止めるのに) ウワカブこめといて (埋めておいて)。

うわかぶき (うはかぶき) (上傾) 積み上げた上部が 重くて傾いてる状態、又、傾きやすい事。かぶき、かぶく、傾く、カブ (頭) を活用した語。頭重くウワカブキになる意よりカタムク (傾) 義 (大言海) [会話] 上になって かえつてく、よおんすんのを (傾くようにするのを) ウワガブキな (が) する言うて。上な (が) ぐらぐらすると ウワカブキな (が) して言うて。あや (彼は) どたまな (頭が) おつきいて (大きくて) 過分数や (だ) ウワカブキな (が) しとられ (している)。

うわかぶきなして 荷が高くて揺れて。

うわきず【名詞】 体の表面だけの傷 すり傷など。

うわきもん (浮気者)【名詞】 うわついて落ち着きの無い者 多情な人 好色漢 (志、鳥 (答志)) [会話] ウワキモン。浮気する言うことやんかい (です)。小母 (妾) 持つて言う事、小父 (情夫) や、小母 (情婦) 持つて言う事。ケトン (毛布) まく奴あ (奴は) ウワキモン (者) 茶縹着る奴あ (着る奴は) そこでてききよ 言うて、浮気する人らな (が) ケトンまきよおつたね (巻いていたのです)。

うわくちびろ (うはくちびる) (上唇)【名詞】 上の方の

唇 くちびる

うわさ (うはさ) (噂) 【名詞】 1) 世間で言いふらす話 風説 世評 2) 風 [会話] ₁₎ 人のウワサ。人のウワサも七十五日。人らな (が) あの人 小母持っとなねてない (妾持っているようだ)。ウワサな (が) あるやんない (有るでしょう)。それも 七十五日経つとウワサもきえてく (消えて行く) 言う、人のウワサも七十五日言うやんない (言うでしょう)。それをなあ人のウワサ 人のことを ウワサして 世間で 言うとても (言っていて) 七十五日経つと ま 忘れただ (てしまつて) ウワサも けえてく (消えてく) 言う事やな (です)。人のウワサも 七十五日 百日 経てば うわの空 (上の空) 言うて。

うわざかな (上魚) 【名詞】 海表面近くを泳ぐ 体表の青みを帯びた魚、鯉 鰯など [会話] 青魚言うな (のは) さいらやとか (秋刀魚だとか) 鯉や 鯖や あいな、うわつら (あんな上面、表面) とんだるのおを (泳いでいるのを) ウワザカナ。

うわさく (うはさく) (上作) 【名詞】 小作 (志 (布施田)) [会話] ウワサク 言うな (のは)、畠やたあ (田) をかつとる (借りて居る)、年貢をするよおなもんやなあ (納めるような事です)。作ったのお (物) を一年に二回つ (ずつ) しよんがつ (正月) と いつやら (いつか) と、かね (金銭) 払うの (のを) そんな (それが) ウワサク。

うわさくだい 【名詞】 小作料

うわさくづくり 【名詞】 小作 他人の田、畑を借りて耕作すること。[会話] ウワサクヅクリ 言うのは 作らしてもらう 小作やわい (です)。畑 まあ ちよいと (少し) ウワサクヅクリしとんね (している) 言うて、畑の無い家や、どんだけ (は、どれだけ) でも 作らしてくれえ (下さい) 言うて 作らして貰うの (のを) ウワサクヅクリや (だ) 言うてなあ。

うわしき (うはしき) (上敷) 【名詞】 1) 畳の上に敷つめる大きな蓆 (津) 2) 布団の敷布 [会話] ₁₎ 畳のうえに敷く、₂₎ 布団へ掛けてもなあ。上へ敷くなあ (のは) ウワシキ。そや (それ) 布団のウワシキを言うて、昔の人ら言いおったやんかい (言つて居たで有りませんか) 敷布のことを。₁₎ ウワシキは つなんでなあ (継いで) 八畳なら八畳 四畳なら四畳 つなんどる (連なっている) し、うすべり言うな (言うのは) 一枚、一畳敷に しといて有んのを (してあるのを) うすべり言うし (言います)。へり (緑) 付けてあんのな (あるのです)。へり 付けてあんのも (あるの

も) 有るし 昔んのは つけんと有んのも (付けずにそのままにして有るのも) 有るし。畳の裏返した時それを使用して うすべり作りおったのなあ (作つて居たのです)。はんだのお (剥いだもの) で 作りおったの (作ったのです)。今しでも そげんして (今でもそんなに) 畳屋な (が) 呉れるわい (呉れます)。はんだの 裏返して へり 付けて。

うわずみ (うはずみ) (上澄) 【名詞】 混合物が沈んで液体の上の部分が澄む事、又、その澄んでいる部分 [会話] ウワズミ言うて 上の水のほお (方を) あけてて (捨ててしまつて) とごつたとこ (沈んだ所) を くいおったわい (食べて居ました)。

うわづる (うはずる) 【自ラ五】 声の調子が緊張などで高くなる。

うわつら (うはつら) (上面) 【名詞】 表面 上の方 うわつらの促音化 (上、阿、南、熊) [会話] ウワツラ。上の方をな ウワツツラはねたれ 言うやんかい (言います)。飯 盛つても (よそつても) ウワツツラはねといて (除いて) 飯もつて (よそつて下さい) 言うて、よお言うんな (よく言います)。このつら (表面) でもウワツツラな (が) わりなあ (悪い) 言うて、顔の面でもな。飯 盛つてもなあ ウワツツラ はねといて (ておいて) 底もつて (よそつて) 言うて 言うやんかい (言います)。そやよつて (だから) 上のことをウワツツラ言うのな (言うのです)。

うわつぱじ。うわつぱり (うはつぱり) (上表) 【名詞】 着物の上に着る物 裃 (南) [会話] ウワツパリ言うな (のは) 上へ引つ張るもんで (ので) ウワツパリ言うねやろなあ (のでしょう)。上を ばあばあと。

うわづみ (上積) 上に積んだ物。うわに参照

うわつら (上面) 【名詞】 物の表面 外面 うわつらに同じ

うわて (うはて) (上手) 【名詞】 1) 上手な人 えらい人 2) うわて風 東から気持ちよく吹く風 3) 東の風 上手 うわて風 うわかぜ参照 (志) 4) 上座 5) 風上 6) 東の方 [会話] ₃₎ ウワテ風。うわてげ言うな (のは) 風な (が) そよそよと吹くの あらぶかんと (強く吹かないで) そよそよしとんの (して居るのを)。今日は ウワテげやなあ (だ) 言う (言います)。東から吹く 東風な (が) ウワテから来る 言うのなあ (言うのです)。

うわてげ 【名詞】 東風。又は南東の風 [会話] ウワテゲ言うと こちかぜ (東風) のことを、こち (東風) や いなさ (南東の風) のことを ウワテゲ 言うて

な。ウワテゲで 今日ではまあ言うて 東風や まぜな (南風が)、今日はまあ まぜげやもんで、したりなり あ (南風の気配なので湿っぽい) 言うて。

うわてぐも【名詞】 西から来る雲 [会話] 今日は ウワテグモな (が) どんどんあげて来る (東へ流れる) こや (これは) 雨な (が) 降ってくんねど (来るのだ) はよ (早く) なんもかも (何も彼も) 取り込まなはざんわれ (なければ駄目だ)。雲行きな (が) ちごて来たれ (違って来た) 言うて。

うわてまし(うはてまし)(上手廻)【名詞】 1) 人の話を先取りする事。先取り 2) 謎をかける 遠まわし [会話] 1) ウワテマシ喰わして、人な (が) 言お、おもとる (言おう思つて居る) 事を 先に言うたると (言つてやると) ウワテマシ喰わして、ウワテマシやだ 言うて、先取りしたと (してやると)。

うわに(うはに)(上荷)【名詞】 1) 荷物を積む時 上部が重い事 2) 下から積み上げず、船、車等の上部にのみ積むこと [会話] 1) うえに言うのも有るし (言う事も有るし)、ウワニ言う事も有るし、車へでも船へでも 下積みん (に) せんと (せずに) ウワヅミん (に) したのおを 上へ積むのを ウワヅミ。ウワヅミ はねたれ (除いてやれ) よけ (多く) 積んで言うて、よけ積んだおり (時) ウワヅミ はねたれ、ひとばか多いのおん (少し多いから) 言うわい。上の方な重い時も ウワニ言うて 2) 下へ積まんと (積まずに) 上へ積んだ時も ウワニ。1) ウワニな (が) 重たすぎんなあ (過ぎる) 言うて。ウワニな (が) あんまり高いよって (余り高いから) はねたれ 言うて。わしらな (私達が) きい積みん (木積み) に行たりすると よお言うわい (よく言います)。

うわぬり(うはぬり)【名詞】 上に塗ること 重ねること 恥のウワヌリ (員) [会話] ウワヌリ 五分 かけんのを (中壁塗るのを)、ウワヌリ。又 も一ツ 化粧すんのを (するのを) ウワヌリする 言うて、ごぶ ウワヌリの下は ごぶ かける言うてな。恥のウワヌリ言うのも 恥のウワヌリやれ (だ) あや (あれは) 言うて。

うわのそら(うはのそら)(上空)【名詞】 1) 他のことに注意が奪われ 当面の事に注意が集中して居ない様 2) 表面だけで本質とは無関係であるさま 3) 軽率なさま 不用意なさま (志(布施田)) [会話] 1) 人の言う事 きかんと (聞かないで) ひよかひよかしとる (して居る)。聞いたねやら、聞かぬねやら (聞いたのか聞かないのか) 判らんよおんしとんのおを (判ら

ないようにして居るのを) ウワノソラ。ウワノソラで 聞いてとて、なんも (聞いて居ても何もかも) 忘れたて判らせんよお (てしまつて判りません)。

うわば(うはば)【名詞】 上の方 風上

うわばい(うはばい)(上道)【名詞】 表面に出てはいまわる事 はいまわるもの 特に風を言う [会話] 風な (が) ひなておると (日の当る所に居ると) ウワバイして 髪の上ん (に) ほおとりおった (這つていました)。

うわばう 表面に表れる 表面を這う

うわばみ(うはばみ)【名詞】 大酒家 うわばみは蛇の王者 大蛇は物をのみ込むと言う事から [用例] あや (彼は) ウワバミで 幾らでも よお (よく) 飲む。

うわぶき(うはぶき)(上葺)【名詞】 物の表面を綺麗に見せるため上に乗せる物 [会話] ウワブキ 言うの (のです)、なあ (縄) をのおても (なつても) わがとらな (自分達が) のおたなあ (縫うた縄) つなぎぐそな (継ぎ目が) 出て 見にくいもんで (ので) 大人の 人らん (に) なうのん (のに) 上手 なおて 貰るて (貰らつて) ウワブキにする言うて しよおったの (して居たのです)。わしら (私) なあうんの (に) (縄売るのに) ウワブキん (に) 姉こ、のおてくれ (姉さん、なつてくれ) 言うて、売りん (に) 行くのに みばなええよおん (見た目よいように) 上手な人なのおを (ののを) 上い 巻きおったの (巻いて居ました) それを ウワブキ 言うて。ウワブキに なあ (縄) のおてくれ 言うて のおて貰らよおったの (貰らつて居たのです)。商い物には花飾い言うて、わりもん (悪い物) は 下い (へ) 敷いといて (ておいて) 上い (へ) ええのやるやんない (よいのをするでしょう) それを ウワブキ。

うわぶとん(上蒲団)【名詞】 掛け蒲団

うわべ(うはべ)(上辺)【名詞】 物の表面 外観 [会話] 上 見ただけの ウワベ飾つてあんのな、けえば (あるのが、みえ)。

うわまい(うはまへ)(上前)【名詞】 うわまえ 着物を着て前を合わせた時表に出る方の部 [会話] きもんかたげて (着物傾けて) 着る言うのは、かたみだり (肩乱)。ウワマイ (上前) したまい (下前) どっちゃ (どちら) でも あげて (上げて) 着とる (て居る) 時な (が) あるんなあ (有るのです)。

うわまい(うはまい)(上米)【名詞】 手数料 (上、阿)

うわまいとり【名詞】 うわまえとりに同じ

うわまいとる 代金の一部 口銭などをかすめとる [会

話] うわまい 撥ねるとか ぬすつと (盗人) の ウ
ワマイルとか 言うて。

うわまいはねる 手数料を取る ビンはねをする (上、
阿) [会話] ウワマイハネル 言うな (のは、仲間で
しとんのを (しているのを) わがと (自分) 先い
(へ) どんだけでもとつとく (どれだけでも取ってお
く) のを、ウワマエハネトイテ (はねておいて) 言う
て。そして その後を わけやええし (分ければよ
い) 言うて、あやまあ (彼は) ウワマイハネテ わが
たまあ (自分は) 言うて、うわまえとりやなあ (だ)
言うて ウワマエハネトンネド (撥ねているのだ) あ
や (彼は) 言うて。

うわまえとり (うはまへとり) 【名詞】 上前を取る人 [会
話] あやまあ (彼は) 上前はねて わがたまあ (自分
は) 言うて ウワマエトリやなあ (だ) 言うて、上前
はねとんど、あや (撥ねているぞ彼は) 言うて。

うわまう (敬) 【他ワ五】 敬う 尊敬する [会話] 神さ
ん 祭るとか あの人たてまつる言うて ウワマウ事。
うわみ (うはみ) (上身) 【名詞】 魚を盛りつけた時 上
の方になる肉

うわめ (上見) 【名詞】 顔を上に向けなくて瞳だけを動か
して 上の方を見る事 様子をうかがう

うわもち (うはもち) (上餅) 【名詞】 お飾り餅の上の物
[会話] 鏡餅のウワモチ ちっさいの (小さいの) 上
据えとんの (置いて居るのを)。

うん。うんうん 【感動詞】 肯定 承諾の意を表す返事の
言葉 打ち解けた間柄で用い はいより丁寧さが劣る
(志 (鶴方、浜島、布施田、片田、国府、神明、甲賀)、
鳥 (鳥羽、坂手)、桑郡、員、四、多、上、阿、張、名、
度、尾、北、南) [会話] ウン。はい言うう (のです)、
はい言うこと。そおか、てや (言えば) ウン言うて
(言って)、はい言わんと (言わずに) ウン言うて。そ
おかな言や (そうですか言えば) はい言や ええのん
(よいのに) ウン 言うて。

うんいた 【感動詞】 失敗した時に言う語 やってしまった
[用例] ウンイタ また やったたよお (失敗し
た)。

うんうん 【感動詞】 いいえ 否定 (志、員、三、阿、
張)

うんうん 【名詞】 幼児語 大便 腹に力を入れるから
(志 (鶴方)、鳥、上、賀) [会話] くそ (糞) かい。
糞のこと。ウンウンするか (しますか) 言うて。赤ち
やんのときや (時は)、ウンウンやってくよか (大便さ
せてあげましょうか) 言うて。ウンウンなら ええけ

ど (よいが) こんだ おっきい (今度は大きく) なっ
て来ると、はこな (大便が) したい言うて。山いて
(山に行つて) うんこ踏んだのんなあ (踏んだのに)
爺やん はこ 踏んだ言うたらなあ (言ったら)、はこ
なら構わへんわ (構わない) 言うて、入れ箱踏んどる
ともて (踏んでいると思つて) はこ (大便) 踏んで
よわつとんのおに (弱っているのに)。

うんき (温気) 【名詞】 酷暑 [会話] 此の ウンキに
まあ 言うのなあ (言うのです)。暑い時を ウンキや
(だ)。此のウンキに なつとなるな 暑つうて (何
となろうか、何ともならない暑くて) 言うねよつて
(言うのだから)。暑い時の事やろな (でしょう) ウン
キ言うのはなあ。

うんこ 【名詞】 大便、うんは、いきばる声 こは接尾語
幼児語 (志 (磯部、布施田、的矢)、鳥、桑市、員、安、
津、一、飯、松、上、阿、張、名、伊、南) [会話] ウ
ンコの事も ばばや (と) 言う。

うんさ 相手の言に納得した時の語 なるほど (北、
尾)

うんさと 1) 重い物を持ち上げる時の語 2) 沢山
(志 (布施田))

うんざり 【副詞】 1) すっかり飽きていやになるさま
2) 疲れたさま (志 (浜島)) [会話] 2) 仕事して
今日はウンザリやった (だった)、疲れた言う事。ウン
ザリした言うんよつて (言うのだから) 疲れた言う事
やろな (でしょう)。ものすごお (ものすごく、大変)
疲れた言う事やんな (です) ウンザリ言う事は。ただ
疲れるや無しに (で無くて) ものすごく 疲れた時に
言う言葉や (です)。

うんすん 【副詞】 1) 全く 絶対 ウンスン言わさせん
2) 不平 不満 [会話] 2) ウンスン言わんと (言わ
ずに) せえ (しなさい)。

うんだ 1) 熟した (北) 2) 化膿した 3) 嫌になつ
た 4) 産んだ (北) [会話] 2) 出来もんな (出来物
が) ウンダ、4) 子供を ウンダ (産んだ)。1) そやけ
ど (しかし) あからみ過ぎとるもん (熟し過ぎている
物) を くだもん (果物) でも なすびでも 何んで
も ウンデタよお (でいった) 言うて、あからみ過ぎ
てくと (て行くと) じく (熟) すぎるのをまあ ウン
ダ うんどてはざんわれ (でいて駄目だ) こや (此れ
は) 言うて、3) 嫌になったのを ウンダ 言う事は
言うけどな。

うんだともつぶれたとも 消息不明 (上、阿、張、鳥)
[会話] うんともすんともと同じや (です)、ウンダト

モツブレタトモも一緒や(です)。ねぶとん(根太、膿包疹化膿性の出来物)に例えてあんね(有るのです)。
ウンダトモツブレタトモ。

うんち【名詞】 大便 幼児語(飯、上、阿、張)

うんちんぶね【運賃船】【名詞】 手数料をとって人や荷物を運ぶ船(度) [会話] 逢坂山を歩いて来ると 古市入ると 暗がりなんの(暗くなるのです)。宿屋へ泊まらんと(泊まらずに) 河崎い(へ) 行くと ウンチンブネな(が) おって、それ 訪ねてて(て行って) 船へ泊めてもるて(貰って)。

うんできた 1) 化膿して来た 2) 熟し過ぎた

うんでくる 化膿してくる

うんでんし【運転士】【名詞】 うんでんしゅの訛り 車船の運転に従事する人 特に船の機関を操作する人

うんでんばんでん 1) 一か八か運にまかせて [用例] 海女いても(行っても) 風や(は) ええし(よいので) ウンテンバンテン 沖い(に) ほりだせ(行け)。2) 大きく違う差がある 雲泥万里の訛(志(甲賀))

うんと【副詞】 1) 程度が甚だしいさま 非常に力を入れるさま ウンは力む時に発する語(大言海)(三) 2) 量が多いさま 沢山(志(浜島)、三、阿、度、鳥、北、南、熊) [会話] 1) ウント きばれ言うやんかい(気張れ、精一杯努力せよ言います)。今日は ウント きばって(努力して) 此れ 皆 きめたるやんか(決着をつけようではないか)、ものすごお(ものすごく) きばれ言う時やろな(でしょう)。きばる言うのは 力入れて仕事する言うのと 精一杯きばって 此れきめたるや(終わらせてやろう) 言う時も有る(有ります)。きばって呉れ言うて お金な(を) 今日 えらかつたよって(大変だったから) きばっとくわい(きばっておきます) 言うて。お金きばって呉れる、ちん(賃、代金、報酬) きばって呉れるのもあるし、仕事きばるのも 有るしなあ。仕事きばるよって(から) ちんもきばって呉れる 賃こぎゃ(こぎれば、値切る) 身こぎる(働かない) 言うて。

うんとこしよ【感動詞】 思い物を持ち上げたり、力を込めたりする時の掛け声(伊賀地方)

うんともすんとも 打ち消しの語を伴って全く応答がない すんはうんに語呂合わせしたもの(志(布施田)、鳥) [会話] 返事しやせん(しない) 言う事を、ウントモスントモ。どげか言うても(どんなんですか言っても) うんも言わせんし(言わないし) いやとも言わせんのを(言わないのを) ウントモスントモ言わせん(言わない)。

うんどる 1) 倦きている 2) 今にも雨が降りそうな状態 3) 熟している(志(布施田)) 4) 化膿している(志(布施田)) 5) 怒って不気嫌だ [会話] 5) 子供な(が) 怒って しとんのも(しているのも) あや(彼は) ウンドンネど(でいるのだ) 言うて言うの。子供な(が) 怒って いくら何つと言うても 言う事聞かん時も、あや ウンドンネどお 言うて 言うの(のです)。なん(何) 言うても 聞かんで(聞かなくて) たらしても、ころばしても(なだめても転ばせても) 聞かせんの(聞かないのを)、たらし だだめる事をなあ なん呉れるよって(から) はよそや(早くそれ) これ持って 早よ遊でこい(早く遊んでこい) 言うてなあ、たらしてまあ 言うても それも 一ツも(全く) 聞かへんのを(聞かないのを) あやま ウンドンネど 言うて たらしても こかしてもいかせんの(行かないのを)。

うんなし。うんなじ【連体詞】 同じ(志(立神)、鳥、三、鈴市、上、阿、伊) [会話] 同じ事や(です) うなじ事や言うね(のです)。ウンナジきもんきとる(着物着ている) 言うて。おなじ言うのをな ウンナジきもん着とんね あや(彼は) 言うて。うなじ がらやなあ(模様だ) 言うて。同じ言やええねけど(言えばよいのだが) ウンナジ 言うね(言うのです)。

うんろおかい 運動会(志) [会話] うんどおかい 言うの、ウンロオカイ。